

令和8年度

授 業 概 要

459

四国医療専門学校
鍼灸マッサージ学科
鍼灸学科

もくじ

1 はじめに	1
2 教育方針・3つのポリシー	2
3 学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー：ASP）	4
4-1 鍼灸マッサージ学科 カリキュラムマップ	6
4-2 鍼灸学科 カリキュラムマップ	7
5 鍼灸マッサージ学科 カリキュラム（学則別表1）	8
6 鍼灸学科 カリキュラム（学則別表2）	9
7 履修要綱	10
8 令和8年度 学事暦（鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科）	19
9 鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科自治会会則	20
10 令和7年度 シラバス	22
健康科学Ⅰ	23
健康科学Ⅱ	24
健康科学Ⅲ（生活習慣と健康）	25
健康科学Ⅳ（鍼灸師のための栄養学）	26
人文科学Ⅰ（現代の養生訓）	27
人文科学Ⅱ（セルフプロモーション論）	28
コミュニケーション論（心理学入門）	29
人体の構造と機能Ⅰ（解剖学Ⅰ）	30
人体の構造と機能Ⅱ（解剖学Ⅱ）	31
人体の構造と機能Ⅲ（解剖学Ⅲ）	32
人体の構造と機能Ⅳ（解剖学Ⅳ）	33
人体の構造と機能Ⅴ（解剖学Ⅴ）	34
人体の構造と機能Ⅵ（生理学Ⅰ）	35
人体の構造と機能Ⅶ（生理学Ⅱ）	36
人体の構造と機能Ⅷ（生理学Ⅲ）	37
人体の構造と機能Ⅸ（生理学Ⅳ）	38
人体の構造と機能Ⅹ（生理学Ⅴ）	39
人体の構造と機能Ⅺ（局所解剖学）	40
運動学	41
病理学概論Ⅰ	42
病理学概論Ⅱ	43
臨床医学総論Ⅰ	44
臨床医学総論Ⅱ	45

臨床医学各論Ⅰ	46
臨床医学各論Ⅱ	47
臨床医学各論Ⅲ	48
臨床医学各論Ⅳ	49
リハビリテーション医学Ⅰ	50
リハビリテーション医学Ⅱ	51
衛生学・公衆衛生学Ⅰ	52
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	53
関係法規	54
医療概論	55
職業倫理	56
経絡経穴概論Ⅰ	57
経絡経穴概論Ⅱ	58
経絡経穴概論Ⅲ	59
経絡経穴概論Ⅳ	60
東洋医学概論Ⅰ	61
東洋医学概論Ⅱ	62
あん摩マッサージ指圧理論	63
はりきゅう理論Ⅰ	64
はりきゅう理論Ⅱ	65
基礎はりきゅう学演習	66
東洋医学概論Ⅲ	67
東洋医学概論Ⅳ	68
生体観察	69
病態生理学Ⅰ	70
病態生理学Ⅱ	71
病態生理学Ⅲ	72
病態生理学Ⅳ	73
東洋医学臨床論Ⅰ	74
東洋医学臨床論Ⅱ	75
東洋医学臨床論Ⅲ	76
東洋医学臨床論Ⅳ	77
東洋医学臨床論Ⅴ	78
あん摩マッサージ指圧の適応（指圧実技とその適応）	79
はりきゅうの適応Ⅰ	80
はりきゅうの適応Ⅱ	81
社会あん摩マッサージ指圧はりきゅう学Ⅰ	82
社会あん摩マッサージ指圧はりきゅう学Ⅱ	83
社会はりきゅう学Ⅰ	84
社会はりきゅう学Ⅱ	85
基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	86
基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	87
基礎はり実技Ⅰ	88
基礎はり実技Ⅱ	89
基礎きゅう実技Ⅰ	90
基礎きゅう実技Ⅱ	91
応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	92

応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	93
応用はりきゅう実技Ⅰ（身体観察実技）	94
応用はりきゅう実技Ⅱ（経絡経穴刺鍼実技Ⅰ）	95
応用はりきゅう実技Ⅲ（経絡経穴刺鍼実技Ⅱ）	96
応用はりきゅう実技Ⅳ（弁証配穴刺鍼実技）	97
応用はりきゅう実技Ⅴ（伝統鍼灸実技）	98
客観的臨床能力評価（OSCE）	99
実践はりきゅう実技Ⅰ（美容鍼灸実技）	100
実践はりきゅう実技Ⅱ（鍼灸総合実技）	101
実践はりきゅう実技Ⅲ（実践鍼灸実技Ⅰ）	102
実践はりきゅう実技Ⅳ（レディース鍼灸実技）	103
実践はりきゅう実技Ⅴ（実践鍼灸実技Ⅳ）	104
臨床実習Ⅰ	105
臨床実習Ⅱ	106
臨床実習Ⅲ	107
臨床実習Ⅳ	108
東洋医療総合演習Ⅰ	109
東洋医療総合演習Ⅱ	110
東洋医療総合演習Ⅲ	111
東洋医療総合演習Ⅳ	112
東洋医療総合演習Ⅴ	113
臨床手技	114
実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ（実践オイルマッサージ）	115
実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	116
実践はりきゅう実技Ⅵ（実践鍼灸実技Ⅱ）	117
実践鍼灸実技Ⅲ	118
スポーツ鍼灸実技	119
はりきゅう基礎研究	120
徒手療法Ⅰ	121
徒手療法Ⅱ	122
運動療法	123

1 はじめに

この授業概要は、鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科3年課程の教科・科目を始めとする様々な教育活動に関する約束や計画に関するお知らせです。

履修に関する説明、スケジュール、授業の概要（シラバス）などを示しておりますので、3年間の学習におけるナビゲーターとして活用ください。

皆さんが充実した学校生活を送られ、本学科の教育目標を達成できますよう、私共教職員も全力でサポートいたします。皆さんも3年間に有意義に、将来の夢、目標を忘れることなくお過ごしくださいますようお願いいたします。

建学の精神である『健康のありがたさを知り、手をもって、伝え広める』 ことのできる医療人となってくださることを心より願い期待しております。

2 教育方針・3つのポリシー

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科の教育方針

医療の原点は「手当て」であるといわれています。本学科は、1956年の開校以来続く「人との触れあいの中で生まれる心からの治療を実現できる医療人を養成する」という理想のもと「基礎に重点をおいた教育」を実践し、医療を通じて社会の役に立ちたいとの志を持つ多様な人材を育成します。

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科の3つのポリシー

I 卒業認定・専門士付与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科では、所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた者に対して卒業を認定し、専門士の称号を付与する。

- 1) 将来、医療施設、施術所等において臨床にあたる上で必要な、現代医学及び東洋医学の基礎的知識と基本的技能を修得している。
- 2) 医療人として必要な基本的態度・習慣を身につけている。
- 3) 医学的問題を正しく捉え、自然科学のみならず、社会的、心理的、倫理的方法を統合して解決する為の能力を身につけている。
- 4) 生涯にわたり自主的に課題に取り組み、問題点を把握しつつ追求し、解決できる能力及び自己学習する態度・習慣を身につけている。

II 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科では、卒業認定・専門士付与の方針を実現するため、教育課程を「基礎科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」の3つの科目群に分け、段階的、系統的に教育できるように各科目を配置している。学修の成果は、学修期間内に修得すべき知識や技術、態度・習慣を明示し、到達目標に向けた努力とその成果について客観的な評価を行う。

1) 基礎科目

あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師（以下あはき師）に必要な教養科目として、健康科学、人文科学、およびコミュニケーション能力を身につけるための科目を配置する。

2) 専門基礎科目

あはき師に必要な基礎医学知識を習得するため、1年次に人体の構造と機能を中心に学び、2年次、3年次に疾病の成り立ち、予防及び回復の促進、保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧はりきゅう（以下あはき）の理念を修得するための科目を配置する。

3) 専門科目

あはき師に必要な基礎医学知識を習得するため、1年次には施術の安全性に関する知識と技術、東洋医学の基本的な生理観・病理観、経穴に関する科目を配置する。2年次、3年次には、あはきの治効理論、治療技術やその評価法、および適応範囲に関する知識に加え、医学史、社会保険医療制度、関連法規、医療倫理などを習得するための科目を配置する。

あはき師の育成にあたり、実技授業、臨床実習を職業教育の根幹とし、以下の教育課程を配置する。

i 実技授業

1年次：安全な施術能力の獲得を目指す基礎あはき実技

2年次：臨床実習前教育を意識した、高度な能力の獲得を目指す応用あはき実技

3年次：開業あはき師を中心に構成された指導者による、実践的かつ卓越した技能の修得を目指す
実践あはき実技

ii 臨床実習

- a. あはき師の職域拡大、施術者にふさわしい知識と教養を身に付けることを目的とした医療機関等（医療機関・介護施設・スポーツ分野）見学実習
- b. 一般患者に対する施術の機会を目的とした、附属鍼灸治療院における臨床実習
- c. 開業あはき師の指導による施術所臨床実習

Ⅲ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科では、卒業認定・専門士付与の方針を実現するため、以下の素養を有する人材を求める。

本校が求める人材像（学校共通の方針）

- 1) 医療専門職としての夢を持ち、前向きに努力する人
- 2) 愛情を持って人に接し、協調性のある人
- 3) 人の役に立ちたいとの思いを実現する志のある人

学科の求める人材像

医療を通じて社会の役に立ちたいと考える人、様々な分野に関心を持ち、教養・基礎力・実践力・応用力をバランスよく学べる感性豊かな人。

3 学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー：ASP）

I 学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー：ASP）

四国医療専門学校では、本校の教育理念に基づく各学科で定める「卒業認定・称号付与の方針」（ディプロマ・ポリシー：DP）で示された教育目標の到達度の把握、卒業認定・称号付与の方針、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー：CP）並びに「入学者受け入れの方針」（アドミッション・ポリシー：AP）の三つのポリシーに基づき、機関レベル（学校）、教育課程レベル（学科）及び科目レベル（授業・科目）の3段階で、学修成果の把握・評価を査定する方針を定める。

1. 機関レベル

学生の志望進路（就職率、資格・免許を活かした専門領域への就業率及び進学率等）から、学修成果の達成状況を査定する。

2. 教育課程レベル

学科の所定の教育課程における資格・免許の取得状況及び卒業要件の達成状況（単位修得状況・GPA）から、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を査定する。

3. 科目レベル

シラバスで提示された授業等科目の学修目標に対する評価及び学生による授業評価等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を査定する。

II 授業科目及び教育課程における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）

本校は、科目レベル及び教育課程レベルの学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準及び評価の実施方法を、「四国医療専門学校学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）」を踏まえて、次のように定める。

1. 目的

- (1) 各学科のディプロマ・ポリシーに定める「学生が身につけるべき能力」に関する学修成果の把握・評価を行う。
- (2) 学修成果を把握・評価することで、学生自らが、学修目標を持ち、PDCAに取り組み、学修到達度を把握し、学生が自らの成長を実感できるようにする。
- (3) 学修成果を把握・評価することで、授業科目担当者及び学科としての教育の改善・向上に取り組み、教育の質を保証する。
- (4) 学修成果の把握・評価に関する情報を公開することにより、社会への説明責任を果たす。

2. 達成すべき質的水準

- (1) 授業科目の成績評価については、本校学則第32条に定められた評価基準によるものとし、授業科目について、達成すべき質的水準を成績評価の「可」（GPの「1」）以上とする。

成績評価	GP
秀（90～100点）	4
優（80～89点）	3
良（70～79点）	2
可（60～69点）	1
不可（59点以下）	0

- (2) 修得単位数については、学年ごとに達成すべき質的水準として、本校学則第36条（履修要綱第4条第1項）に定められた単位の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とする。

- (3) 卒業認定について、達成すべき質的水準として、本校学則第 38 条（履修要綱第 4 条第 2 項）に定められた出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とする。
- (4) その他、達成すべき質的水準として、各学科が定めるディプロマ・ポリシーを用いる。

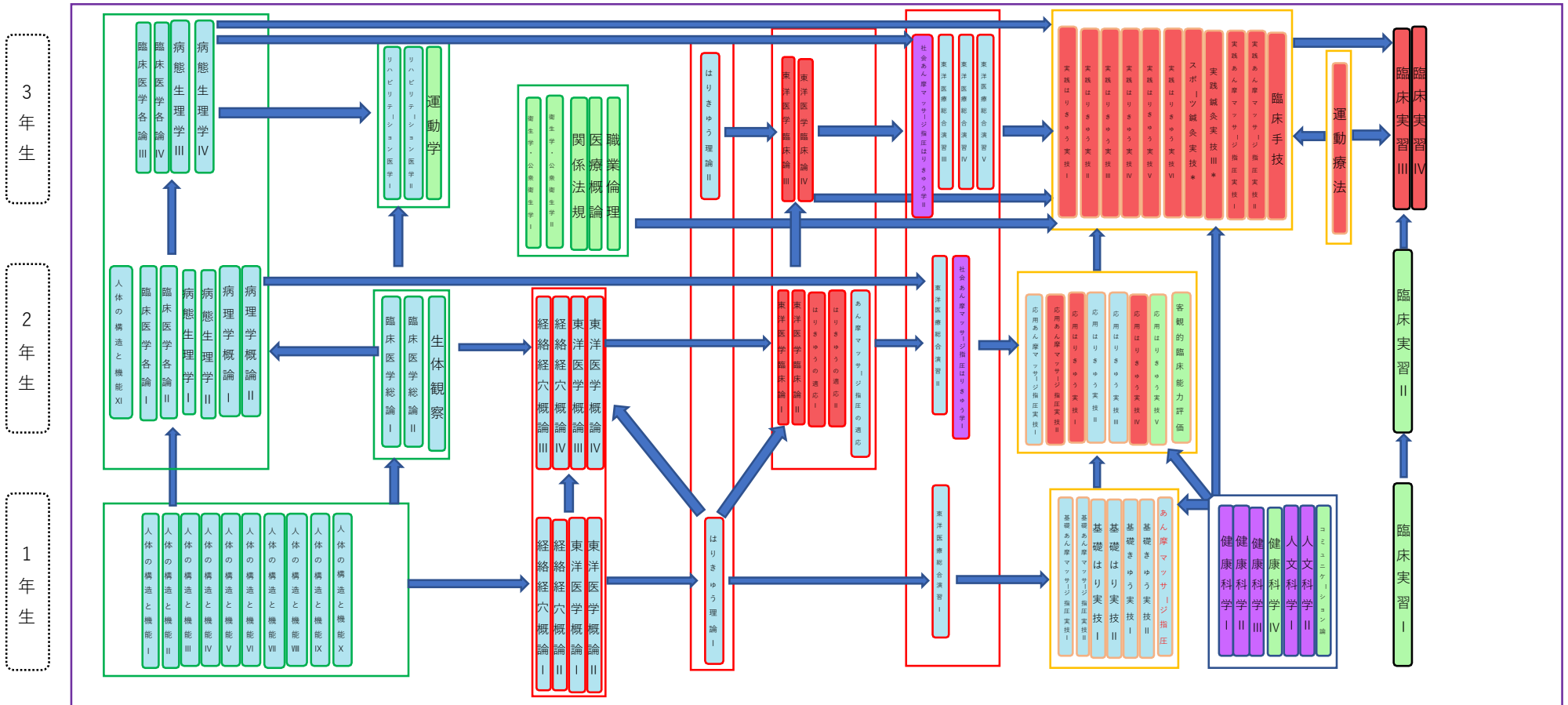
3. 評価の実施方法

区分	入学前（入学直後） アドミッション・ポリシー	在学中 カリキュラム・ポリシー	卒業時 ディプロマ・ポリシー
機 関 レ ベル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学試験 ・ 進路決定に関するアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目の成績（GPA） ・ 退学率、休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業率 ・ 就職・進学率 ・ 卒業時アンケート
教 育 課 程 レ ベル		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目の成績（GPA） ・ 退学率、休学率 ・ 授業評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業率 ・ 就職・進学率 ・ 卒業時アンケート
科 目 レ ベル		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目の成績（GPA） ・ 授業評価 	

4-1 鍼灸マッサージ学科 カリキュラムマップ

鍼灸マッサージ学科 カリキュラムマップ

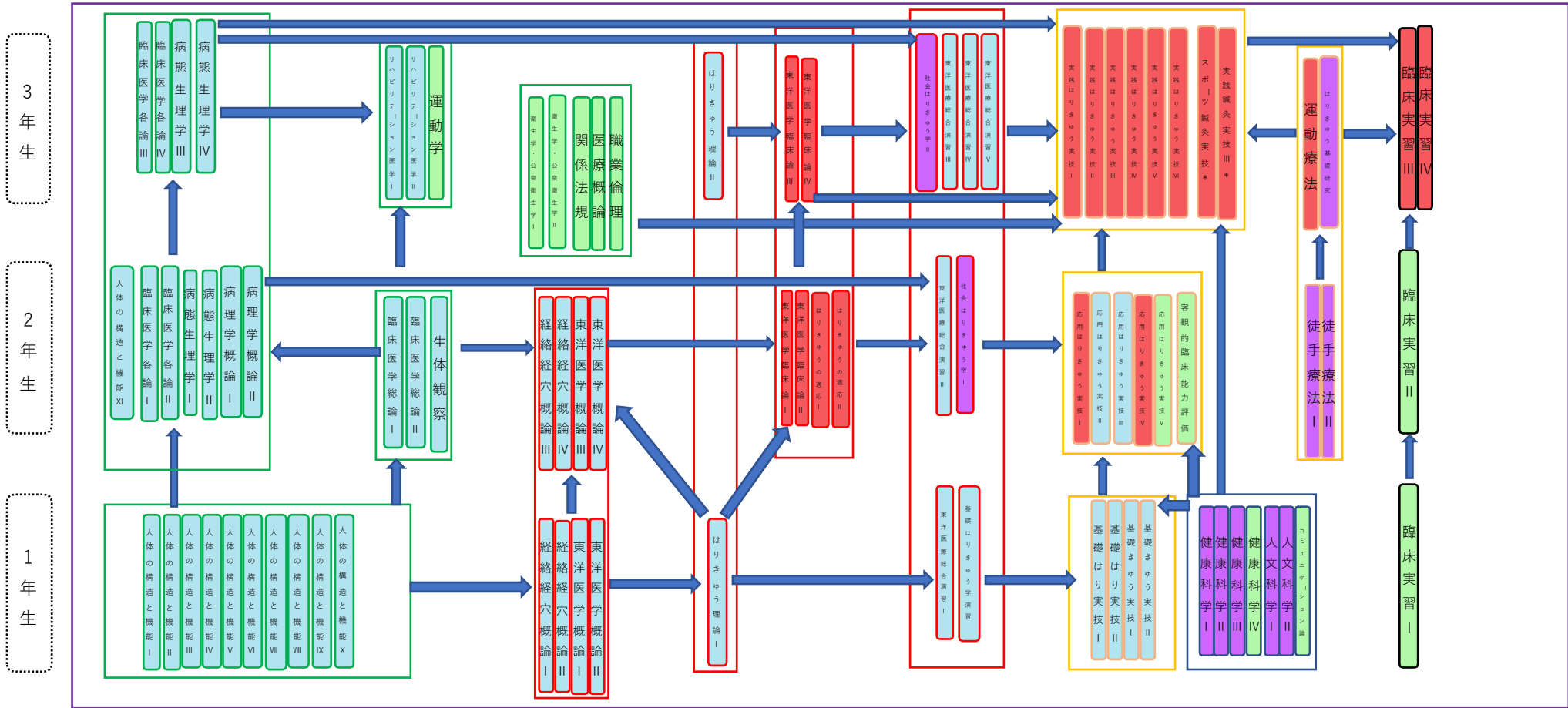
- DP1：現代医学・東洋医学の知識と技能
- DP2：医療人としての態度・習慣
- DP3：医学的問題解決能力（多角的な視点）
- DP4：生涯学習・自主的な課題解決能力
- 基礎分野
- 専門基礎分野
- 専門分野（座学）
- 専門分野（実技）
- 専門分野（実習）
- *ゼミ科目



4-2 鍼灸学科 カリキュラムマップ

鍼灸学科 カリキュラムマップ

- DP1: 現代医学・東洋医学の知識と技能
- DP2: 医療人としての態度・習慣
- DP3: 医学的問題解決能力 (多角的な視点)
- DP4: 生涯学習・自主的な課題解決能力
- 基礎分野
- 専門基礎分野
- 専門分野 (座学)
- 専門分野 (実技)
- 専門分野 (実習)
- *ゼミ科目



5 鍼灸マッサージ学科 カリキュラム (学則別表 1)

区分		認定規則 単位数	授業科目	単位数	項目別 合計単位数	時間数	授業単位数				
							第1学年	第2学年	第3学年		
基礎分野	科学的 思考の 基盤 人間と 生活	14	健康科学Ⅰ	2	14	30	2				
			健康科学Ⅱ	2		30	2				
			健康科学Ⅲ	2		30	2				
			健康科学Ⅳ	2		30	2				
			人文科学Ⅰ	2		30	2				
			人文科学Ⅱ	2		30	2				
専門基礎分野	人体の 構造と 機能	12	人体の構造と機能Ⅰ	1	12	30	1				
			人体の構造と機能Ⅱ	1		30	1				
			人体の構造と機能Ⅲ	1		30	1				
			人体の構造と機能Ⅳ	1		30	1				
			人体の構造と機能Ⅴ	1		30	1				
			人体の構造と機能Ⅵ	1		30	1				
			人体の構造と機能Ⅶ	1		30	1				
			人体の構造と機能Ⅷ	1		30	1				
			人体の構造と機能ⅧA	1		30	1				
			人体の構造と機能ⅧB	1		30	1				
			人体の構造と機能ⅧC	1		30	1				
			人体の構造と機能ⅧD	1		30	1				
	運動学	1	30		1						
	疾病の 成り立ち、 回復の 促進、 予防及 予防	12	病理学概論Ⅰ	1	12	30		1			
			病理学概論Ⅱ	1		30		1			
			臨床医学総論Ⅰ	1		30		1			
			臨床医学総論Ⅱ	1		30		1			
			臨床医学各論Ⅰ	1		30		1			
			臨床医学各論Ⅱ	1		30		1			
			臨床医学各論Ⅲ	1		30			1		
			臨床医学各論Ⅳ	1		30			1		
			リハビリテーション医学Ⅰ	1		30			1		
			リハビリテーション医学Ⅱ	1		30			1		
			衛生学・公衆衛生学Ⅰ	1		30			1		
			衛生学・公衆衛生学Ⅱ	1		30			1		
	関係法規 医療概論 職業倫理	3	関係法規	1	3	30			1		
			医療概論	1		30			1		
			職業倫理	1		15			1		
	基礎あん摩マッ サージ指圧学 基礎はり学 基礎きゅう学	9	経絡経穴概論Ⅰ	1	9	30	1				
			経絡経穴概論Ⅱ	1		30	1				
			経絡経穴概論Ⅲ	1		30		1			
			経絡経穴概論Ⅳ	1		30		1			
			東洋医学概論Ⅰ	1		30	1				
			東洋医学概論Ⅱ	1		30	1				
			あん摩マッサージ指圧理論	1		30	1				
			はりきゅう理論Ⅰ	1		30	1				
はりきゅう理論Ⅱ			1	30				1			
臨床あん摩マッ サージ指圧学 臨床はり学 臨床きゅう学		15	東洋医学概論Ⅲ	1	15	30		1			
			東洋医学概論Ⅳ	1		30		1			
			生体観察	1		30		1			
			病態生理学Ⅰ	1		30		1			
			病態生理学Ⅱ	1		30		1			
			病態生理学Ⅲ	1		30			1		
			病態生理学Ⅳ	1		30			1		
			東洋医学臨床論Ⅰ	1		30		1			
			東洋医学臨床論Ⅱ	1		30		1			
	東洋医学臨床論Ⅲ		1	30				1			
社会あん摩マッ サージ指圧はりきゅう学Ⅰ 社会あん摩マッ サージ指圧はりきゅう学Ⅱ	2	社会あん摩マッサージ指圧はりきゅう学Ⅰ	1	2	30		1				
		社会あん摩マッサージ指圧はりきゅう学Ⅱ	1		30			1			
		基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	1		30	1					
		基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	1		30	1					
		応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	1		30		1				
		応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	1		30		1				
実習	19	基礎はり実技Ⅰ	1	19	30	1					
		基礎はり実技Ⅱ	1		30	1					
		基礎きゅう実技Ⅰ	1		30	1					
		基礎きゅう実技Ⅱ	1		30	1					
		応用はりきゅう実技Ⅰ	1		30		1				
		応用はりきゅう実技Ⅱ	1		30		1				
		応用はりきゅう実技Ⅲ	1		30		1				
		応用はりきゅう実技Ⅳ	1		30		1				
		応用はりきゅう実技Ⅴ	1		30		1				
		客観的臨床能力評価	1		30		1				
		実践はりきゅう実技Ⅰ	1		30			1			
		実践はりきゅう実技Ⅱ	1		30			1			
		実践はりきゅう実技Ⅲ	1		30			1			
		実践はりきゅう実技Ⅳ	1		30			1			
		実践はりきゅう実技Ⅴ	1		30			1			
		臨床実習	4		臨床実習Ⅰ	1	4	45	1		
					臨床実習Ⅱ	1		45		1	
					臨床実習Ⅲ	1		45			1
					臨床実習Ⅳ	1		45			1
総合 領域	10	東洋医療総合演習Ⅰ	1	10	30	1					
		東洋医療総合演習Ⅱ	1		30		1				
		東洋医療総合演習Ⅲ	1		30			1			
		東洋医療総合演習Ⅳ	1		30			1			
		東洋医療総合演習Ⅴ	1		30			1			
		臨床手技	1		30			1			
		実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	1		30			1			
実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	1	30			1						
実践はりきゅう実技Ⅵ	1	30			1						
運動療法	1	30			1						
認定規則科目 合計	100	年次別合計 合計	100	100	2,835	38	31	31			
						38	69	100			

6 鍼灸学科 カリキュラム (学則別表 2)

鍼灸学科 教育課程・単位数		認定規則 単位数	授業科目	単位数	項目別 合計単位数	時間数	授業単位数			
区分	第1学年						第2学年	第3学年		
基礎分野	科学的 基礎 の 盤 思	14	健康科学Ⅰ	2	14	30	2			
			健康科学Ⅱ	2		30	2			
			健康科学Ⅲ	2		30	2			
			健康科学Ⅳ	2		30	2			
	人間と 生活		人文科学Ⅰ	2		30	2			
			人文科学Ⅱ	2		30	2			
			コミュニケーション論	2		30	2			
専門基礎分野	人体の 構造と 機能	12	人体の構造と機能Ⅰ	1	12	30	1			
			人体の構造と機能Ⅱ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅲ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅳ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅴ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅵ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅶ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅷ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅷ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅷ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅷ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅷ	1		30	1			
			運動学	1		30		1		
	疾病の 成り立ち、 予防及び回 復の 促進	12	12	病理学概論Ⅰ	1	12	30		1	
				病理学概論Ⅱ	1		30		1	
				臨床医学総論Ⅰ	1		30		1	
				臨床医学総論Ⅱ	1		30		1	
				臨床医学各論Ⅰ	1		30		1	
				臨床医学各論Ⅱ	1		30		1	
				臨床医学各論Ⅲ	1		30		1	1
				臨床医学各論Ⅳ	1		30		1	1
				リハビリテーション医学Ⅰ	1		30		1	1
				リハビリテーション医学Ⅱ	1		30		1	1
	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	1	30		1	1				
		衛生学・公衆衛生学Ⅱ	1	30		1	1			
	基礎 あん摩 マツサ ージ の 理 論	3	3	関係法規	1	3	30		1	
				医療概論	1		30		1	
				職業倫理	1		15		1	
	基礎 あん摩 マツサ ージ 指 圧 学 基 礎 き ゃ う 学	9	9	経絡経穴概論Ⅰ	1	9	30	1		
				経絡経穴概論Ⅱ	1		30	1		
経絡経穴概論Ⅲ				1	30			1		
経絡経穴概論Ⅳ				1	30			1		
東洋医学概論Ⅰ				1	30		1			
東洋医学概論Ⅱ				1	30		1			
はりきゅう理論Ⅰ				1	30		1			
はりきゅう理論Ⅱ				1	30				1	
基礎はりきゅう学演習				1	30		1			
臨床 あん摩 マツサ ージ 指 圧 学 臨 床 き ゃ う 学				13	13		東洋医学概論Ⅲ	1	13	30
	東洋医学概論Ⅳ	1	30				1			
	生体観察	1	30				1			
	病態生理学Ⅰ	1	30				1			
	病態生理学Ⅱ	1	30				1			
	病態生理学Ⅲ	1	30					1		
	病態生理学Ⅳ	1	30					1		
	東洋医学臨床論Ⅰ	1	30				1			
	東洋医学臨床論Ⅱ	1	30				1			
	東洋医学臨床論Ⅲ	1	30					1		
	東洋医学臨床論Ⅳ	1	30					1		
	はりきゅうの適応Ⅰ	1	30				1			
	はりきゅうの適応Ⅱ	1	30				1			
社会 はりき ゃう 学	2	2	社会はりきゅう学Ⅰ	1	2	30		1		
			社会はりきゅう学Ⅱ	1		30		1		
専門 分野 実 習	15	15	基礎はり実技Ⅰ	1	15	30	1			
			基礎はり実技Ⅱ	1		30	1			
			基礎きゅう実技Ⅰ	1		30	1			
			基礎きゅう実技Ⅱ	1		30	1			
			応用はりきゅう実技Ⅰ	1		30		1		
			応用はりきゅう実技Ⅱ	1		30		1		
			応用はりきゅう実技Ⅲ	1		30		1		
			応用はりきゅう実技Ⅳ	1		30		1		
			応用はりきゅう実技Ⅴ	1		30		1		
			客観的臨床能力評価	1		30		1		
			実践はりきゅう実技Ⅰ	1		30			1	
			実践はりきゅう実技Ⅱ	1		30			1	
			実践はりきゅう実技Ⅲ	1		30			1	
			実践はりきゅう実技Ⅳ	1		30			1	
			実践はりきゅう実技Ⅴ	1		30			1	
	臨床 実 習	4	4	臨床実習Ⅰ	1	4	45	1		
				臨床実習Ⅱ	1		45		1	
				臨床実習Ⅲ	1		45			1
				臨床実習Ⅳ	1		45			1
				東洋医療総合演習Ⅰ	1		30	1		
総合 領 域	10	10	東洋医療総合演習Ⅱ	1	10	30		1		
			東洋医療総合演習Ⅲ	1		30			1	
			東洋医療総合演習Ⅳ	1		30			1	
			東洋医療総合演習Ⅴ	1		30			1	
			はりきゅう基礎研究	1		30			1	
			徒手療法Ⅰ	1		30		1		
			徒手療法Ⅱ	1		30		1		
			実践はりきゅう実技Ⅵ	1		30			1	
			運動療法	1		30			1	
			認定規則科目 合計	94			年次別合計 合計	94	2,655	36
						36	65	94		

7 履修要綱

この要綱は、入学してから卒業するまでの学生の履修について、学則、その他の規程等を補足しながら特に注意しなければならない事項を規定する。

I. 学事について

1. 学年

学年については、学則第9条に規定している。

授業は、学事暦に従って行われる。

学年は、4月1日から翌年3月31日までとし、これを前期と後期の二期に分ける。

2. 学期

学期については、学則第9条に規定している。

学年の学期は、次のとおりであるが、学校長は、必要によりこれを変更することができる。

前期：4月1日から9月30日まで。

後期：10月1日から翌年3月31日まで。

3. 休業日

休業日については、学則第10条に規定している。

本校の休業日は、次のとおりとする。

- 1) 土曜日、日曜日
- 2) 国民の祝日に関する法律に規定されている休日
- 3) 創立記念日（10月25日）
- 4) 夏・冬・春季休業日（季節休業）

学校長が必要と認めるときは、休業日であっても授業または試験を行なうことができる。

- 5) 非常変災その他急迫の事情があるとき、又は教育の実施上特別の事情があるときは、臨時に授業を行わないときがある。

(1) 荒天時の対応

荒天のため、宇多津町または丸亀市に、「特別警報」「暴風警報」が午前7時00分に発令されている場合は、通学待機とし、午前10時00分においても継続されている場合は、その日は臨時休校とする。午前10時00分までに解除された場合は、午後の授業は実施する。

- (2) 授業中に、「特別警報」「暴風警報」が発令された場合や、公共交通機関（JR等）に運休等の支障が生じるような場合には、教育活動を中止し下校させることがある。
- (3) 上記による対応を原則とするが、暴風警報以外の気象警報が発令された場合も含め、その状況により、学校長が別途判断することがある。
- (4) 感染症等の拡大の防止対策上、必要に応じて臨時休業することがある。

4. 授業等及び時限

教育課程、単位数及び授業の方法は、学則第12条に、始業及び終業時刻については、学則第14条に、それぞれ規定している。

- 1) 授業は、単位制度に基づいて行なわれ、講義、演習、実習、実技、臨床実習及び臨地実習があり、他に学生が出席を求められるものに、特別講義、補習、学校行事がある。
- 2) 授業の質の保証及び効果的な教育が確保できる場合は、授業の形態として対面によらない授業（以下、「遠隔授業」という。）を必要に応じて行うことができる。
ただし、遠隔授業の合計時間を全体の4分の3未満とする。
- 3) 授業は、1時限90分を原則とし、講義、演習、実習は、1時間を45分とする。
臨床実習は、同60分とし、臨地実習は、同45分（60分）とする。
授業時間の区分は、以下のとおりである。

	区 分			
時 限	I	II	III	IV
時 間	9 : 00 ↓ 10 : 30	10 : 40 ↓ 12 : 10	13 : 00 ↓ 14 : 30	14 : 40 ↓ 16 : 10

- (1) 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科の臨床実習は、
修業時間（10:40～16:10）以外及び休業日に行うことがある。
- 4) 休講・補習・特別講義・学校行事
- (1) 休講及び時間割の変更
学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割の変更を行うことがある。これについては、掲示板により通知する。
- (2) 補習及び特別講義
授業時間が必要時間数に満たない場合には、補習を行うことがある。また、学校長が必要と認めた場合には、特別講義を行うことがある。これらについても掲示板により通知する。
- (3) 球技大会、体育祭などの学校行事には、学生の健康増進、学生間の親睦のために出席が求められる。

II. 出席、補講、休学、退学、転部及び在籍期間などについて

1. 出席すべき日数

学年の学期期間で休業日以外は、出席しなければならない。

2. 授業の出席

- 1) 講義、演習、実習は、授業時間数の3分の2以上の出席が必要である。
- 2) 実技は、授業時間数の5分の4以上の出席が必要である。
- 3) 臨床実習及び臨地実習は、原則として必ず出席しなければならない。
- (1) 鍼灸マッサージ学科及び鍼灸学科の臨床実習において、II - 5 - 3)のやむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。
- (2) 柔道整復学科の臨床実習は、実習時間を満たさなければならない。
- (3) 理学療法学科及び作業療法学科の臨床実習において、II - 5 - 3)のやむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。
- (4) 看護学科の臨地実習は、実習時間を満たさなければならない。
- <看護学科の臨地実習の履修について>
基礎看護学実習Ⅰの単位修得をしていない者は、基礎看護学実習Ⅱを履修することはできない。基礎看護学実習Ⅱの単位修得をしていない者は、専門分野別実習を履修することはできない。ただし、小児看護学実習Ⅰについては、この限りでない。
また、専門分野別実習の単位修得をしていない者は、統合実習を履修することはできない。
- 4) 臨床実習・臨地実習における、II - 5 - 3)のやむを得ない理由の対応は学科の判断に従うこと。

3. 授業中の心得

1) 講義・演習・実技・実習

以下の項目を遵守し、真摯な態度で授業に臨まねばならない。

- (1) 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。
- (2) 体調の急変等II - 5 - 3)のやむを得ない理由による早退や、教員の指示等特別な事情のない限り、教室を退出しないこと。
- (3) スマートフォン等は、必ず電源を切って鞆等に入れておくこと。また、授業以外でも節度を守って使用すること。
- (4) 担当教員の許可なしに、授業において写真撮影、録音、録画をしないこと。

- (5) 担当教員の許可なしに、授業中に飲食をしないこと（ガムを噛むことを含む）。
- (6) 私語や居眠りをしないこと。
- (7) 実技・実習科目受講の際は、実技にみあった服装（白衣・ジャージ、学校指定の靴）とし、化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の毛の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめること。
- (8) 鍼灸マッサージ学科及び鍼灸学科は、所定の道具も準備すること。

2) 臨床実習及び臨地実習

学生の学外実習が可能なのは実習施設の医療人育成への理解と指導者の熱意と患者の協力によることを十分認識して実習を行うために、以下の項目を遵守し、真摯な態度で臨まねばならない。

- (1) 実習委託先病院などと取り交わした実習委託契約書及び個人情報保護協定書等の遵守事項並びに守秘義務に従って行動する。
- (2) 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。
- (3) 患者に不愉快な印象を与えないように配慮すること。
- (4) 時間を厳守し、自己の存在をはっきりさせ、許可なく行動しない。事故については、すみやかに報告をする。
- (5) 実習委託先病院などでの実習時間中においては、スマートフォン等情報通信機器は使用しないこと。撮影は厳禁とする。また、控室においては、実習指導者及び引率教員の指示に従うこと。また、実習時間外でも、ルール及び節度を守って使用すること。
- (6) 実習中知り得た情報は、個人情報保護法に基づき取り扱い、他言してはならない。
- (7) 服装は清楚で、印象の良い身だしなみを心がける。化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の毛の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめる。
- (8) 感染に注意し、また伝播者にならないよう感染予防の基本を実習委託先病院などのマニュアルにそって励行する。
- (9) 実習中の事故については、すみやかに実習指導者に報告し指示を受ける。
- (10) 臨床実習及び臨地実習の詳細については、学科毎に実習前のガイダンス時に説明する。

4. 欠席、遅刻、早退及び欠課

欠席、遅刻、早退及び欠課については、学則第 21 条に規定している。

- 1) 欠席は、1 日の授業を全て休んだ場合をいう。
- 2) 遅刻は、授業開始より 30 分以内に入室した場合をいう。
- 3) 早退とは、授業時間の 60 分以上出席し退出した場合をいう。
- 4) 欠課とは、出席時間が 60 分に満たない場合をいう。
- 5) 遅刻、早退は、同一科目 2 回を以ってその科目の 1 回の欠課として取り扱う。
- 6) 欠席、遅刻、早退及び欠課をするとき又はしたときは、それぞれの届を各学科の教務室に提出しなければならない。

5. 追実習、補講、再実習及び補習実習等

1) 追実習

Ⅱ - 5 - 3) のやむを得ない理由により臨地実習を欠席したものは、追実習を受けることができる。

追実習を受ける者は、それぞれの届を各学科の教務室に提出し許可を得ることとする。

2) 補講、再実習及び補習実習

補講については、学則第 35 条に規定している。

- (1) 出席時間数がⅡ - 5 - 3) のやむを得ない理由により、当該科目の定められた出席時間数に達しない者は、補講を受けなければならない。
 - ①鍼灸マッサージ学科は、講義、演習は 3 分の 2、実技、臨床実習は 5 分の 4
 - ②鍼灸学科は、講義、演習は 3 分の 2、実技、臨床実習は 5 分の 4
 - ③柔道整復学科は、講義、演習は 3 分の 2、実技は 5 分の 4、臨床実習は 5 分の 5

- ④理学療法学科は、講義、演習、実習は3分の2、臨床実習は5分の4
- ⑤作業療法学科は、講義、演習、実習は3分の2、臨床実習は5分の4
- ⑥看護学科は、講義、演習は3分の2、臨床実習は5分の5
- (2) 補講の受講は、Ⅱ-5-3)のやむを得ない理由のみとし、「補講受講許可願」とその証明書等を各学科の教務室に提出し、学校長が認めた場合に限る。
- (3) 補講が認められた場合は、追試験のみ受験できる(本試験は受験不可)。
- (4) 補講料は、10,000円/1時限(90分)とする。ただし、Ⅱ-5-3)のやむを得ない理由など、学校長が認めた場合は、補講料を減免することがある。
- (5) 臨床実習及び臨床実習の場合
 - ① 再実習
各実習期間内で実習単位の取得が不可の者は、長期休暇等を利用して、再実習を受けることができる。
ただし、「再実習願」を各学科の教務室に提出しなければならない。実習を長期に欠席した者は、再実習に準ずる。
再実習料は、5,000円/日とする。
 - ② 補習実習
実習を欠席または欠課した者は、補習実習を受けることができる。
 - ③ 再実習及び補習実習を受ける者は、再実習料を学生総合窓口へ納付すること。

3) 公認となる授業等の欠席(やむを得ない理由)は、以下とする。

対象となるやむを得ない理由	理由を証明する書類
学校保健安全法施行規則(昭和33年文部省令第18号)18条に規定する感染症に罹患した場合	本校発行の出席停止書類 診断書等の罹患したことを証明する書類
忌引き	会葬礼状等親族が亡くなったことが確認できる書類
裁判員制度 (裁判員又は裁判員候補者に選任された場合)	業務に従事したことを証明する書類
公共交通機関の運行停止	遅延証明書等
学生の住まいが自然災害等により損壊し欠席した場合	当該地方自治体の発行する罹災証明書

上記を「やむを得ない理由」とし、理由を確認できる書類により判断するため所属学科に提出すること。その他やむを得ない理由と判断されれば、追実習及び追試験の受験の対象となる。ただし、原則として、その事情が判明した段階で所属学科等に事前の連絡をしていなければならない。事後報告では認められない場合があるので、留意すること。

6. 忌引期間

- 1) 忌引は、欠課には含まれないが、それらを証明するもの(会葬礼状等)を必ず提出のこと。提出がなされない場合は欠課とする。
- 2) 学生の親族等の死去に伴う忌引の期間は、下記のとおりとする。(期間は連続とし、最大の日数である)

続柄	期間	続柄	期間
配偶者	10日	おじ・おば	1日
父母	7日	孫・曾祖父母	1日
子供	7日	配偶者父母	3日
祖父母	3日	配偶者祖父母	1日
兄弟姉妹	3日	配偶者兄弟姉妹	1日

遠隔地の場合は、旅行日として学校長判断により、2日以内の日数を認める場合がある。

7. 感染症等による出席停止

出席停止については、学則第23条に規定している。

下記の表に規定する感染症の場合は、出席停止とする。出席停止期間は、学校保健安全法施行規則に定める期間、医師の診断書にある期間、若しくは学校医の判断に従うものとする。

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。）及び特定鳥インフルエンザ（感染症法第6条第3項第6号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。）※上記に加え、感染症法第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症、及び同条第9項に規定する新感染症は、第一種の感染症とみなされる。
第二種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

<出席停止期間の基準>

- 第一種の感染症にかかった者については、治癒するまでの期間とする。
- 第二種の感染症（結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く）にかかった者については、次の期間とする。ただし、病状により学校医の他の医師において、感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
 - インフルエンザ：発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
 - 百日咳：特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
 - 麻しん：解熱した後3日を経過するまで。
 - 流行性耳下腺炎：耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで。
 - 風しん：発しんが消失するまで。
 - 水痘：すべての発しんが痂皮化するまで。
 - 咽頭結膜熱：主要症状が消退した後2日を経過するまで。
 - 新型コロナウイルス感染症：発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで。
- 結核及び髄膜炎菌性髄膜炎、第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

※出席停止期間の算定の考え方

「〇〇した後△日を経過するまで」とした場合は、「〇〇」という症状が見られた日の翌日を第1日として算定する。

例えば、「解熱した後2日を経過するまで」の場合、月曜日に解熱—火曜日（解熱後1日目）—水曜日（解熱後2日目）—この間発熱がない場合—木曜日から出席可能となる。

第二種の各出席停止期間は基準であり、症状により医師の診断により判断する。

8. 休学

学生の休学については、学則第22条に規定している。

9. 復学

学生の復学については、学則第 24 条に規定している。
原則、復学の時期は、年度の始めとする。

10. 退学

学生の退学については、学則第 25 条に規定している。

11. 転学科

学生の転学科については、学則第 29 条に規定している。

12. 在籍期間

在籍期間については、学則第 30 条に規定している。
学生の在籍期間は、下記の表の年数を超えることができない。

学 科	在籍年数
鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科	6 年
理学療法学科、作業療法学科、看護学科	8 年

Ⅲ. 学業成績などについて

単位の認定は、履修した科目に出席し、受験資格を得たものに対して行われる。
また、試験方法は、筆記試験が主であるが、授業科目によっては、口頭、レポート、実技などによって行われる場合もある。

1. 定期試験及びその他の試験（以下「定期試験等」という。）

試験については、学則第 32 条に規定している。

学期末の試験を定期試験といい、学期中に必要に応じて、授業科目担当教員が実施するものを含む。

- 1) 前期及び後期のなかで、随時試験を行うことがある。行った場合の評価は、定期試験等の評価に加えることができる。
- 2) 看護学科においては、定期試験ではなく、授業科目の終了の都度試験が行われる。

2. 受験資格

受験資格については、学則第 32 条に規定している。

- 1) 講義、実習、演習の受験資格
授業時間数の 3 分の 2 以上出席している者
- 2) 実技の受験資格
授業時間数の 5 分の 4 以上出席している者
- 3) 臨床実習及び臨地実習の成績判定資格
実習時間の 5 分の 4 以上の出席している者
※柔道整復学科、看護学科については、実習時間を満たす者

3. 追試験

追試験については、学則第 33 条に規定している。

- 1) II - 5 - 3) のやむを得ない理由により定期試験等を欠席した者及び学科が認めた場合は、追試験を受けることができる。
その場合は 90 点を上限に採点する。
- 2) 受験料は、1 科目あたり 1,000 円とする。ただし、II - 5 - 3) のやむを得ない理由による追試験において受験料は発生しない。
- 3) 追試験を受ける者は、「追試験受験願」を期日までに、当該学科長、学生総合窓口を経由のうえ、学校長に提出し、許可を受けなければならない。

- 4) 追試験は、基本的に1回限りとする。ただし、追試験においても合格しない者は、学科会議での協議により再度試験を行うことがある。

4. 再試験

再試験については、学則第34条に規定している。

- 1) 定期試験等の成績が合格点に達しない者は、再試験を受けることができる。その場合は、60点を上限に採点する。
- 2) 再試験を受ける者は、別に定める受験料を添えて「再試験受験願」を期日までに、当該学科長及び学生総合窓口を経由のうえ、学校長に提出し、許可を受けなければならない。
- 3) 受験料は、1科目あたり1,000円とする。
- 4) 再試験は、基本的に1回限りとする。ただし、再試験においても合格しない者は、学科会議での協議により再度試験を行うことがある。

5. 試験にあたっての注意事項

- 1) 試験開始5分前には、定められた席に着席すること。
- 2) 試験開始時刻に遅刻した者は、受験することができない。ただし、公共交通機関のダイヤの乱れ等による場合は、遅延証明の提出を条件に、試験開始後15分までの遅刻を認めることがある。
- 3) 受験に際しては、必ず学生証を携帯すること。万一学生証を忘れてきた場合には、試験期間中に1回のみ、学生総合窓口にて、仮学生証の交付を受け代替とすることができる。仮学生証は、記載期間のみ有効とする。
- 4) 机上には、筆記用具及び持ち込みの認められたもの以外は置いてはいけない。
- 5) 試験開始後、原則、試験時間の半分を経過した後に退出することができる。ただし、一度退出した者は、再び入室できない。
- 6) 試験中に不正行為をした者は、退場を命ずる。直ちに当該学期の受験資格が与えられず、すでに受験した科目も無効とする。ただし、学外実習科目に関しては無効とする科目から除外される。
- 7) 答案用紙は必ず所定のものを用い、学年、学籍番号・氏名を記入しなければならない。答案用紙、問題用紙は持ち帰ることはできない。
- 8) 受験者が試験会場で次のような行為を行った場合、不正行為とみなされる。
 - (1) テキスト、ノート、参考書、辞書等の持ち込みが許可されている場合でも、試験時間中にそれらを他人に使用させたり、他人のものを使用したりすること。
 - (2) 筆記用具等を試験時間中に他人に使用させたり、他人のものを使用したりすること。
 - (3) 代人として受験すること及び代人を受験させること。
 - (4) 持ち込みを許可されていないテキスト、ノート、参考書、辞書等を使用したり、他人に使用させたりすること。
 - (5) あらかじめ机等に書き込んだり、又はカンニング・ペーパーその他試験に関する書き込みのある紙片・用具等を持ち込むこと。
 - (6) 他人の答案をのぞき見て写しとったり、写させたりすること。
 - (7) 試験内容に関する事項を口頭、紙片その他の手段により、他人に教えたり、教えさせたりすること。
 - (8) 電源の入ったスマートフォン等情報通信機器を机の上に置いたり、衣服のポケット等に入れて試験を受けること。(入室時には電源を切り、かばん等に入れておくこと。)
 - (9) 時計以外の機能をもつ時計(電卓機能、通信機能などの機能を備えた時計)を使用すること。
 - (10) 監督者の注意若しくは指示に従わないこと。
 - (11) その他、前各号に類する行為をすること。

6. 単位修得の認定と単位修得

試験の評価及び単位修得の認定については、学則第 32 条及び第 36 条に規定している。

- 1) 講義、実習等に必要時間を修得しており、かつ、当該科目の成績において、60 点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。これを学校側からは、「単位修得の認定」、学生側からは、「単位修得」という。
- 2) 講義、演習、実習、実技の成績は、以下のとおりである。
 - 秀……90 点以上
 - 優……80 点以上 90 点未満
 - 良……70 点以上 80 点未満
 - 可……60 点以上 70 点未満
 - 不可……60 点未満
- 3) 臨床実習及び臨地実習の成績評価
実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記 (2) のように最終評価する。
※理学療法学科と作業療法学科は、実習前後の評価を臨床実習の成績評価に含めて成績評価する。
- 4) 学業成績を総合的に評価するための基準（客観的な指標方法）
 - (1) 学業成績を総合的に評価するための基準として、GPA (Grade Point Average) を用いる。
 - (2) GPA は、累積にて算定する。
 - (3) GPA の算定に当たっては、履修した各科目の評価に、GP (Grade Point) (以下「GP」という。) を割り当て、その平均を取ることとし、以下の数式により算定する。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(履修登録した GPA 対象科目の GP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{履修登録した GPA 対象科目の単位数の合計}}$$

- (4) GPA の対象科目は、学則別表 (1~6) に定める授業科目のうち、成績評価で示すことのできる授業科目とする。
- (5) GP の割り当てについては、学則第 32 条第 3 項に定める試験の評価 (以下「成績評価」という。) に応じて、次表に定める GP を割り当てる。

成績評価	GP
秀 (90~100 点)	4
優 (80~89 点)	3
良 (70~79 点)	2
可 (60~69 点)	1
不可 (59 点以下)	0

- (6) GPA は、小数点以下第 3 位を四捨五入し、小数点以下第 2 位までを有効とする。なお、単位認定の認定科目、免除科目及び卒業要件に入らないカリキュラム以外の科目の単位は、GPA には算入しない。

5) 成績の通知

学生の成績結果は、前期、後期それぞれの成績集計後に、連帯保証人に郵送する。

IV. 進級、卒業の認定について

1. 進級の認定

進級の認定については、学則第 37 条に規定している。

進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議の議を経て、学校長が決定する。また、進級の条件に補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。

2. 卒業の認定

卒業の認定については、学則第 38 条に規定している。

卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議の議を経て、学校長が決定する。

V. 褒賞について

学生の褒賞については、学則第 40 条に規定している。

詳細については、「四国医療専門学校表彰規程」による。

VI. 懲戒について

学生の懲戒については、学則第 41 条に規定している。

詳細については、「四国医療専門学校学生の懲戒に関する規程」による。

VII. 除籍及び復籍について

学生の除籍及び復籍については、学則第 26 条に規定している。

詳細については、「授業料その他の納付金滞納者に係る除籍及び復籍の取扱に関する規程」等による。

VIII. その他留意事項について

1. 掲示及び SNS による通知、連絡

学校からの学生への連絡は、原則として全て掲示又は SNS で通知する。

緊急の場合もありえるので、必ず朝夕の 2 回は各掲示板を見るようにしておくこと。また、掲示板の見落としに起因する責任は、学校側にはないので特に注意しておくこと。

2. 提出物

各種申請書、レポート、その他当該学科の教務室及び学生総合窓口から学生に提出物を求められたときは、必ず定められた期限内に提出しなければならない。

3. 不明な点は、当該学科教員及び学生総合窓口に問合せた上で、十分理解するように努めること。

4. 大学併修(通信教育)

大学の併修(通信教育)については、学則第 46 条に規定している。

本校では、看護学科は原則必須にて理学療法学科及び作業療法学科は任意にて、九州医療科学大学通信教育部と教育提携契約を締結している。履修方法等については、別に定める。

5. ここに定めない事項については、学校長の指示に従うものとする。

附 則

- 1 この履修要綱は、学則、その他の規程等に基づき、令和 4 年 12 月 13 日に制定し、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

施行後の要綱は、令和 5 年 4 月 1 日以降の入学生に適用し、令和 5 年 3 月 31 日以前の入学生については、各種届出及び申請様式以外は、なお従前の規程による。

附 則(令和 5 年 5 月 8 日一部改正)

- 1 この履修要綱は、令和 5 年 5 月 8 日から施行する。

附 則(令和 5 年 8 月 22 日一部改正)

- 1 この履修要綱は、令和 5 年 8 月 22 日から施行する。

施行後の要綱は、令和 5 年 4 月 1 日在籍学生に適用する。

附 則(令和 6 年 2 月 13 日一部改正)

- 1 この履修要綱は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

施行後の要綱は、令和 6 年 4 月 1 日在籍学生に適用する。

附 則(令和 7 年 2 月 13 日一部改正)

- 1 この履修要綱は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

施行後の要綱は、令和 7 年 4 月 1 日在籍学生に適用する。

8 令和8年度 学事暦（鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科）

前期																
月	火	水	木	金	土	日										
4月	6	入学式 オリエンテーション	7	オリエンテーション/新入生研修	8	①	9	①	10	①	11	12	カマタマーレ競艇冠試合			
	13	①	14	①	15	②	16	②	17	②	18	19				
	20	②	21	②	22	③	23	③	24	球技大会	25	26				
	27	③	28	③	29	昭和の日	30	冠試合の振替休暇								
						1	学園祭の振替休日	2		3	憲法記念日					
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7	④	8	③	9	10				
	11	④	12	④	13	④	14	⑤	15	④	16	17	OC			
	18	⑤	19	⑤	20	⑤	21	⑥	22	⑤	23	24				
	25	⑥	26	⑥	27	⑥	28	⑦	29	⑥	30	31				
6月	1	⑦	2	⑦	3	⑦	4	⑧	5	⑦	6	7				
	8	⑧	9	⑧	10	⑧	11	⑨	12	⑧	13	14	職場説明会			
	15	⑨	16	⑨	17	⑨	18	⑩	19	⑨	20	21	OC			
	22	⑩	23	⑩	24	⑩	25	⑪	26	⑩	27	28				
	29	⑪	30	⑪												
7月																
	6	⑫	7	⑫	8	⑫	9	⑬	10	⑫	11	学園祭	12			
	13	⑬	14	⑬	15	⑬	16	⑭	17	⑬	18	予備日	19	OC		
	20	海の日	21	⑭	22	⑭	23	⑮	24	⑭	25	予備日	26			
	27	⑮	28	⑮	29	⑮	30	月曜日振替⑮	31	⑮						
8月																
	3	前期試験	4	前期試験	5	前期試験 夜間OC	6	前期試験	教員研修会	7	前期試験	教員研修会	8	試験予備日	9	試験予備日
	10	夏季休業	11	山の日	12	夏季休業 有給休暇取得推奨日	13	夏季休業								
	17	集中授業（補習）	18	集中授業（補習）	19	集中授業（補習）	20	集中授業（補習）	21	集中授業（補習）	22	OC	23			
	24	前期再試験	25	前期再試験	26	前期再試験	27	前期再試験	28	前期再試験	29		30			
	31	集中授業														
9月																
	7	集中授業	8	集中授業	9	集中授業	10	集中授業	11	集中授業 日赤救急法講習	12		13			
	14	集中授業	15	集中授業	16	防災士養成	17	防災士養成	18	防災士養成	19		20	OC		
	21	敬老の日	22	国民の休日	23	秋分の日	24	集中授業	25	はりきょう実践研修会	集中授業	26		27		
	28	①	29	①	30	①										

後期															
月	火	水	木	金	土	日									
10月	5	②	6	②	7	②	8	②	9	②学校協会学術大会	10	11			
	12	スポーツの日 はりきょう実践研修会予備日	13	③	14	③	15	集中授業	16	③	17	OC	18		
	19	③	20	体育祭	21	④	22	③	23	④	24	25	創立記念日		
	26	④	27	④	28	⑤	29	④	30	⑤	31				
11月															
	2	⑤	3	文化の日	4	はりきょう実践研修会	集中授業	5	⑤	6	⑥	7	8		
	9	⑥	10	⑥	11	⑥	12	⑥	13	⑦	14	15	OC		
	16	⑦	17	⑦	18	⑦	19	⑦	20	⑧	21	22			
	23	勤労感謝の日	24	⑦	25	月曜日振替⑧	26	はりきょう実践研修会	集中授業	27	⑨	28	29		
30	⑨														
12月															
	7	⑩	8	⑩	9	⑩	10	⑩	11	⑩	12	入試	13		
	14	⑪	15	⑪	16	⑪	17	⑪	18	⑪	19	20	OC		
	21	⑪	22	⑪	23	⑪	24	⑪	25	⑫あはき実技再審査	26	27			
	28	冬季休業	29	冬季休業	30	冬季休業	31	冬季休業							
1月															
	4	⑫	5	⑫	6	⑫	7	⑫	8	元日	9	予備日	10		
	11	成人の日	12	⑬	13	⑬	14	⑬	15	⑬	16	予備日	17	OC	
	18	⑬	19	⑬	20	⑬	21	⑬	22	⑬	23	予備日	24	入試	
	25	⑬	26	⑬	27	⑬	28	⑬	29	後期試験	30		31		
2月															
	1	後期試験	2	後期試験	3	後期試験	4	後期試験	総合学力再審査	5	集中授業	6	OC	7	
	8	集中授業	9	集中授業	10	集中授業	11	建国記念の日	12	集中授業	13		14		
	15	集中授業	16	集中授業	17	集中授業	18	集中授業	19	集中授業	20		21	入試	
	22	後期再試験	23	天皇誕生日	24	後期再試験	25	後期再試験	集中授業	26	後期再試験	集中授業	27	試験予備日 あま指国家試験	28
3月															
	1	後期再試験	集中授業	2	集中授業	3	集中授業	4	集中授業	5	集中授業	6		7	
	8	集中授業	9	集中授業	10	集中授業	11	集中授業	12	卒業式	13		14	入試	
	15	集中授業（補講）	16	集中授業（補講）	17	集中授業（補講）	18	集中授業（補講）	19	集中授業（補講）	20	春分の日	21	OC	
	22	振替休日	23	春季休業	24	春季休業	25	春季休業	26	春季休業	27		28		
29	春季休業	30	春季休業	31	春季休業										

9 鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科自治会会則

第1章 総則

第1条 本会は四国医療専門学校鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科自治会と称す。(以下本会と称する。)

第2章 機関

第2条 本会に次の機関を置く。

1. 自治議会

(役員は任意に選出された自治会員ならびに各H・Rの級長・副級長で構成される。)

自治議会に以下の役職・委員会を設置する。

自治会長

自治副会長

書記

会計

会計監査

学祭委員会

体育祭委員会(球技大会を含む)

アルバム委員会

第3条 自治会員は鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科から5~7名程度を第1、2学年のH・Rより選出する。

第1節 自治総会

第4条 原則、開会しない。自治総会は学校長の承認を必要とし、本会の最高決議機関とする。必要に応じて、授業時間以外に開会する。通常の決議は本会でおこなわれる。

第2節 自治議会

第5条 本会は次のことを行う。

1. 会則の決定及び変更
2. 予算及び決算
3. 学生会の議決事項の承認
4. その他

第6条 自治会員の任期は4月1日より3月31日までの1年とする。再任を妨げないが、各学科において、最終学年時に在籍する学生は着任できない。

第3節 委員会

第7条 本会は、本会が新たな委員会が必要と判断した場合、その都度新たな委員会を設置できる。その委員会は自治会員によって運営される。

第4節 H・R

第8条 本会活動の基礎としてH・R学生会を置く。

第9条 H・Rに級長、副級長を置き、自治議会に参加する。

第5節 部活動・同好会活動

第10条 部活動は個人の能力の増進、趣味、個性の伸長を図ることを目的として集まった会員によってクラブを組織し、顧問教師の指導のもとに随時活動の場を持つ。

第11条 部活動は、運営が適切におこなわれていると学校長が認めたときにその設置を認め、顧問の職員を置くことができ、活動内容に応じた予算を受けることができる。

第12条 部活動は原則として10名以上の在籍者がいなければ結成することができない。

第 13 条 部活動には正、副部長を置き、正、副部長は自治議会の要求があれば議会に出席し、質問に答えなければならない。

第 14 条 部活動に準ずる組織として同好会があり、一定期間の活動の後、学校長がその運営が健全なものと判断したものに限り、部活動に昇格することができる。

第 3 章 会費

第 15 条 本会の会費は自治会費、また学校長が必要と判断した予算、その他によってこれを充てる。

第 16 条 本会の会費は、本会の活動目的を達成するため次の区分により学生会費を授業料と併せて納入しなければならない。

(入学時 3 年間分 15,000 円、原級留置の場合は前期に 1 年間につき 1,500 円)

第 17 条 本会の予算割り当ては、毎年 2 月に自治議会を開会しこれを決定する。ただし、予算決定後、前年度の決算をできない活動についてはこの限りではない。

第 4 章 帳簿

第 18 条 本会に次の帳簿を置く。

1. 自治会則
2. 各役員名簿
3. 議事録
4. 会計簿
5. 備品台帳
6. その他

第 5 章 修正及び改正

第 19 条 本会則の修正及び改正の動議は自治会員の 3 分の 1 以上の要求がある場合認められる。

第 20 条 本会則の修正及び改正は、その動議が認められ、議会員の 3 分の 2 以上の議決のある場合可決される。

第 6 章 会員の権利及び義務

第 21 条 自治総会及び自治議会において決議されたすべての事項に対して会員は忠実に実行する義務と責任を有する。

第 7 章 附則

第 22 条 本会則は令和 7 年 4 月 1 日よりこれを施行する。

10 令和7年度 シラバス

【シラバスの内容について】

1. 科目区分はその授業がどの科目に属しているかを示します。基礎・専門基礎・専門の3つに区分されます。
2. 履修学年はその授業を履修する学年を表します。
3. 履修時期はその授業をいつ履修するかを示しており、前期・後期・前期集中・後期集中、通年の5つに分類されています。前期集中授業は8月～9月、後期集中授業は2月～3月を予定しています。集中授業は短期間で実施されるので、数日の欠席にもかかわらず規定の出席率を下回る場合もありますので、欠席・遅刻等には十分に注意してください。
4. 単位はその授業を履修すると得られる単位数を示します。単位数の前に※印があるものは通年、あるいは複数の授業を受講して単位認定される授業です。全ての授業を履修して初めて単位が認められます。
5. 講義及び演習については15から30単位時間、実験、実習及び実技については30から45単位時間、臨床実習については45単位時間をもって1単位とします。単位時間とは、講義及び演習、実験、実習及び実技については45分とし、臨床実習については、1単位時間を60分として運用します。
6. 授業概要は、授業の目的、存在意義を示しています。
7. 到達目標とは、履修を通じて修得を目指す「知識」「技能」「態度・習慣」を示しています。
8. 授業計画では1回の授業で学習する内容を示しています。授業は通常半期15回です。
9. 学習方法ではその授業が講義・実技・ロールプレイなどどのような形態で授業が進むかを示しています。
10. 評価方法は「知識」「技能」「態度・習慣」の3項目をどのように評価するかについて示しています。筆記試験、提出物、授業の取り組み具合、出席状況などから総合的に評価を行います。担当教員により評価方法が異なりますので予め確認しておきましょう。
11. 基礎科目の一部は、通信制大学を利用した、テキスト履修があります。履修にあたっては課題の提出、グループ学習があります。期日を守って計画的に学んでください。
12. 授業ではシラバスで指示された教科書を持参してください。(学年の初めに配布します。)
13. 参考書は必ず購入しなければならないものではありません。授業を行なう上で担当教員が参考とする書籍などを記載しています。
14. 学生への要望には担当教員から学生へのメッセージが書かれています。その授業を履修する上での心構えや、持ち物、身だしなみ、授業を受ける上でのルールを記載しています。お互い気持ちよく授業を進めるためにもここに書かれていることを守って授業を受講されることを望みます。
15. このシラバスは令和7年4月1日時点のものであり、講師や授業進行などが変更する場合があります。
16. シラバスに記載のない、前期集中授業・後期集中授業については、授業開始概ね1か月前までに連絡します。
17. その他履修に関して不明な点は教職員に問い合わせるようにしてください。

健康科学 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎	1 学年	後期	2	30	必須	久保 晃信
8 授業の概要 スポーツ・医療・福祉分野における健康科学の役割と鍼灸師の可能性について学ぶ						
9 到達目標 【一般目標】 健康科学に関する学びを鍼灸師の仕事に役立てる方法を習得する。 【行動目標】 ①知識 授業計画に記した内容をわかりやすく説明することができる。 ②技能 授業計画に記した内容を体現し、サービスとして提供できるようになる。 ③態度 コミュニケーション技術および尊重と思いやりの心を修養し、人間力を高める。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション（鍼灸師として働く自分をデザインしてみよう：導入編） 第2回 フットサル（U-VILLAGE 宇多津） 第3回 トレッキング（青ノ山） 第4回 リーダーシップ概論（Team Building, Youth Readership Development の紹介） 第5回 呼吸トレーニング（Draw-in, Submaximal draw-in, Bracing） 第6回 関節の適正化（関節安定化機構と関節求心位, Joint by Joint Approach: JBJA） 第7回 筋のリセット（Functional Anatomical Stretching） 第8回 運動制御（Motor Control Exercise） 第9回 瞬発的《伸張反射》トレーニング（Plyometric Training） 第10回 エネルギー系トレーニング（LSD-T, AT-T, HIIT） 第11回 Exercise as Medicine （Functional Anatomical “Yoga”） 第12回 四虚証コンディショニング（肝虚・脾虚・肺虚・腎虚の養生法・運動法・入浴法・美顔術） 第13回 包括的コンディショニングⅠ（Regeneration: 新生・再生） 第14回 包括的コンディショニングⅡ（Optimization: 体の最適化） 第15回 包括的コンディショニングⅢ（Strength & Beauty: 肉体改造, ボディメイク）						
11 学習方法 講義・演習（授業の順序等は変更する場合がある。）						
12 評価方法 ①知識 口頭試問または筆記試験を予定。 ②技能 実技の様子を評価する。 ③態度 授業の取り組み具合を評価する。						
13 教科書 なし				参考書 なし		
14 学生への要望 ・開業・就職に資する実践的な授業を行うので、職業訓練校の学生として、自分ならどうするという意識を持ち、職業人として働く自分をイメージして講義に参加して欲しい。 ・実技の日は相応しい服装と靴で参加すること。 ・体調に応じて見学は可。運動制限などがある学生は事前に相談すること。						

健康科学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎	1 学年	後期	2	30	必須	久保 晃信
8 授業の概要 スポーツ・医療・福祉分野における健康科学の役割と鍼灸師の可能性について学ぶ						
9 到達目標 【一般目標】 健康科学に関する学びを鍼灸師の仕事に役立てる方法を習得する。 【行動目標】 ①知識 授業計画に記した内容をわかりやすく説明することができる。 ②技能 授業計画に記した内容を体現し、サービスとして提供できるようになる。 ③態度 コミュニケーション技術および尊重と思いやりの心を修養し、人間力を高める。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション（鍼灸師として働く自分をデザインしてみよう：展開編） 第2回 フットサル（U-VILLAGE 宇多津） 第3回 トレッキング（青ノ山） 第4回 リーダーシップ概論（Team Building, Youth Readership Development の紹介） 第5回 感覚の適正化（体性・特殊感覚への運動学的アプローチ） 第6回 軟部組織の適正化（筋・筋膜リリース, Functional Anatomical Massage） 第7回 筋のアクティベート（Movement Preparation） 第8回 動作のスキル（Movement Skill Exercise） 第9回 筋力トレーニング（Power & Strength Training） 第10回 動物人間論（Human theory as an Animal.） 第11回 Exercise as Medicine （Functional Anatomical “Pilates”） 第12回 四虚証コンディショニング（肝虚・脾虚・肺虚・腎虚の養生法・運動法・入浴法・美顔術） 第13回 包括的コンディショニングⅠ（Regeneration：新生・再生） 第14回 包括的コンディショニングⅡ（Optimization：體の最適化） 第15回 テスト						
11 学習方法 講義・演習（授業の順序等は変更する場合がある。）						
12 評価方法 ①知識 口頭試問または筆記試験を予定。 ②技能 実技の様子を評価する。 ③態度 授業の取り組み具合を評価する。						
13 教科書 なし				参考書 なし		
14 学生への要望 ・開業・就職に資する実践的な授業を行うので、職業訓練校の学生として、自分ならどうするという意識を持ち、職業人として働く自分をイメージして講義に参加して欲しい。 ・実技の日は相応しい服装と靴で参加すること。 ・体調に応じて見学は可。運動制限などがある学生は事前に相談すること。						

健康科学Ⅲ（生活習慣と健康）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎	1年	前期	2	30	必須	鈴木 はる江
8 授業の概要 健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関連性を再認識する。						
9 到達目標 【一般目標】 1. 健康と生活習慣の関係を概念として説明できる。 2. 生活習慣病、メタボリックシンドロームについて説明できる。 3. アルコールの健康影響を説明できる。 4. 喫煙の健康影響について説明できる。 5. 運動の意義と効果を説明できる。 6. 健康増進法、健康日本21（第二次）について説明ができる。						
10 授 業 計 画 第1章 生活習慣病の特徴:生活習慣病の名称の由来とその特徴について学ぶ。 第2章 主な生活習慣病:がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、歯周病などの代表的な生活習慣病の概要を知るとともに、日本人の死亡原因との関連性について学ぶ。 第3章 歯の健康:自分の歯で噛むことの意義、歯周病とした口腔内疾患について学ぶ。 第4章 がんと生活習慣:発がんのメカニズムや一次予防の意義について学ぶ。 第5章 肥満:栄養と運動:食の欧米化による肥満者の増加、危険因子としての肥満について学ぶ。 第6章 メタボリックシンドローム:近年注目されている病態について学ぶ。 第7章 飲酒習慣と健康:アルコールの代謝、肝、膵、脳への影響、アルコール依存について学ぶ。 第8章 喫煙習慣:喫煙と副流煙がもたらす健康障害について学ぶ。 第9章 生活習慣病対策:社会的に広がっている一次予防対策について学ぶ。						
11 学習方法 テキスト学習						
12 評価方法 ①知識 中間課題に合格することで修了試験が受験できる。 科目修了試験にて60点以上を合格とする。 ②技能 ③態度						
13 教科書			参考書			
山田早百合「生活習慣と健康」人間総合科学大学 2007年						
14 学生への要望						

健康科学Ⅳ（鍼灸師のための栄養学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎	1年	前期集中	2	30	必須	石井 香里
8 授業の概要 本講義では、ヒトが健康を維持・増進し、疾病を予防するために不可欠な「食」と「栄養」の基礎理論を学びます。食物に含まれる栄養素の分類や働きといった基礎知識から、消化・吸収、体内での代謝プロセス、さらにはライフステージごとの栄養特性や生活習慣病との関連について理解を深めます。鍼灸師として、患者の身体環境に応じた適切な食生活のアドバイスができる素養を身につけることを目的とします。						
9 到達目標 【一般目標】 栄養の定義と栄養素の機能を理解し、生命活動における栄養の重要性を説明できる。 各栄養素の体内動態（消化・吸収・代謝）を理解し、健康保持との関連性を把握する。 個人のライフステージや健康状態に合わせた栄養の在り方について考察できる。 【行動目標】 ①知識 五大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）の種類と機能を説明できる。 消化管の構造と、消化酵素・ホルモンによる消化吸収の仕組みを説明できる。 基礎代謝やエネルギー代謝の概念、および血糖調節のメカニズムを説明できる。 ライフステージ（妊娠・授乳期、乳幼児期、成人期、高齢期）別の栄養的特徴を列挙できる。 生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症など）と栄養の関係を説明できる。 ②技能 食事摂取基準を参考に、対象者の状態に応じた適切な食品選択や食生活のアドバイスを提案できる。 アレルギーや体調不良（発熱、下痢、嘔吐など）に対する栄養的配慮について具体策を提示できる。 ③態度 医療従事者として、自らの食生活と健康管理に関心を持ち、手本となる姿勢を示す。 患者の生活背景に寄り添い、栄養指導を通じた社会貢献や健康増進への意欲を持つ。						
10 授業計画 第1回 栄養の概念と摂取 第2回 消化・吸収の仕組み 1 第3回 消化・吸収の仕組み 2 第4回 たんぱく質の栄養 第5回 糖質の栄養 第6回 脂質の栄養 第7回 ビタミンの栄養 1 第8回 ビタミンの栄養 2 第9回 ミネラルの栄養 第10回 水・電解質と代謝 第11回 ライフステージ栄養 1 第12回 ライフステージ栄養 2 第13回 疾患・体調不良と栄養 第14回 生活習慣病と栄養 第15回 総括とまとめ						
11 学習方法 講義（演習・グループワーク）						
12 評価方法 ①知識 試験またはレポート・提出物にて知識を評価する ②技能 試験またはレポート・提出物にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書				参考書		
14 学生への要望 継続的な学習： 単元ごとの内容は相互に関連しているため、毎回の講義終了後に各自で復習を行い、知識を定着させてください。 実践的な視点： 毎日口にしてしている食事を具体的にイメージし、「栄養」の視点からその価値を考える習慣をつけてください。 出席とマナー： 授業日数の4分の3以上の出席が定期試験の受験資格となります。遅刻や受講態度には十分注意してください。						

人文科学 I (現代の養生訓)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎	1年	後期	2	30	必須	小岩 信義
<p>8 授業の概要</p> <p>人間が人間らしく豊かに生きるためには、人生を楽しみ健康であることが大切である。日本では約 300 年前、『養生訓』という書物が出版された。ここには人生（老い）を健康で楽しく過ごす、という思想が息づいている。そこで、この科目では貝原益軒の『養生訓』を題材として取り上げ、心身相関に基づいた「養生」という思想を学び、現代における健康観や人生観、食生活、医薬との関わり方などについて考えていく。そして過去の知恵を現代に生かし、自分の問題として捉えて実践し、少子高齢社会をいかに快適に生きることができるかを考える。</p>						
<p>9 到達目標</p> <p>【一般目標】 「よりよく生きる知恵」として、古くから日本に伝わる養生訓の考え方理解し、実生活に活用することができる。</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心身相関に基づいた「養生」という思想を説明できる。 2. 現代における健康観や人生観、食生活、医薬との関わり方などを説明できる。 3. 養生訓思想に基づいて、現代においてよりよく生きるための具体的・実践的方法論を述べることができる。 						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>前半 「心身相関」をベースに持つ養生の持つ意味を概観しながら、東洋の健康観、倫理観を学ぶ。また、それが生み出された思想的背景や 時代的背景、江戸時代を中心とした日本の医療文化、当時の庶民の生活 と疾病観・死生観についても概観し、なぜ今「養生」が必要なのかを考えていく。</p> <p>後半 貝原益軒の「養生訓」の思想を現代社会に生きる私達に応用し、人生をよりよく生きるための具体的・実践的方法論をみていく。 食生活をはじめとする生活習慣のあり方、医薬との関わり方、高齢者の「こころ」と「からだ」の健康について考えていく。</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>テキスト学習</p>						
<p>12 評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ①知識 中間課題に合格することで修了試験が受験できる。 科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。 ②技能 期日までに課題を提出すること。 ③態度 自ら進んで学習すること。 						
<p>13 教科書</p> <p>『現代の養生訓』、久住武、 (人間総合科学大学オリジナルテキスト)</p> <p style="text-align: right;">参考書</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p>益軒が説く『内欲の節制』や『気の循環』は、現代の科学的知見と驚くほど合致しています。テキストを読み進める中で、一つでも良いので日々の食事や休息に取り入れ、自分自身の心身がどう変化するかを観察してみましょう。</p>						

人文科学Ⅱ（セルフプロモーション論）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎	1年	前期	2	30	必須	久住 眞理
<p>8 授業の概要</p> <p>自分自身を理解し、自らの意思で、自らの願いやイメージを実現するためのヒントを科学の眼からひも解く。あなた自身のこれからの人生のなかで「生き生きと輝く」ために大いに役立つ、よりよく生きるための知恵を学び、明日の行動につなげるための科目。</p>						
<p>9 到達目標</p> <p>【一般目標】 科学的な人間理解に基づき、心身の相関や脳の仕組みを学び、自分らしくしなやかに生きるための知恵を養う。</p> <p>【行動目標】</p> <p>①知識 脳の本質やストレス、ホルモンの働きを理解し、心身の健康と生活習慣の関連性を科学的根拠に基づき説明できる。</p> <p>②技能 自己の情動やストレスを適切にコントロールし、他者との共感を通じて良好な対人関係を築く手法を実践できる。</p> <p>③態度 自己の弱さや変化を受け入れ、自立した人として未来へ一歩踏み出し、周囲と調和しながら輝こうとする。</p>						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>第1章 できると信じて、一歩踏み出す（今日を懸命に生きる；自分を信じる ほか）</p> <p>第2章 他人と助け合って生きる（心を磨く、心を満たす；情動をうまくコントロールする ほか）</p> <p>第3章 新たな自分を育てる（見る前に跳ぶ；生きる役割を知る ほか）</p> <p>第4章 心と体のメカニズムを知る（いのちのリズムを調和させる；ストレスとうまく付き合う ほか）</p> <p>第5章 いのちをより良く生きる（自然界の生命に学ぶ；人類は学びながら生き残ってきた ほか）</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>テキスト学習</p>						
<p>12 評価方法</p> <p>①知識 中間課題に合格することで修了試験が受験できる。 科目修了試験にて60点以上を合格とする。</p> <p>②技能 期日までに課題を提出すること。</p> <p>③態度 自ら進んで学習すること。</p>						
<p>13 教科書</p> <p>運命を変える心とからだの磨き方 久住 眞理 著, 幻冬舎メディアコンサルティング</p> <p style="text-align: right;">参考書</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p>この本は「がんばりすぎないこと」や「自分を好きになること」を大切にしています。授業の評価軸に「自己肯定感の変容」や「リフレクション（振り返り）」を組み込むと、よりこの本の意図に沿った教育設計になるかと思います。</p>						

コミュニケーション論（心理学入門）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1年	前期	1	30	必須	田中 彩
8 授業の概要 コミュニケーションについて心理学の視点から基本的な知識を学び、自己理解・他者理解について理解を深める。						
9 到達目標 【一般目標】 心理学の基礎を学ぶことで、自分自身の対人コミュニケーションの特徴について理解を深め、他者との関わりに活かす。 【行動目標】 ①知識 心理学や対人コミュニケーションに関する基礎知識を身につける。 ②技能 心理学や対人コミュニケーションに関するトピックに関心を持ち、さらに探求する力を身につける。 ③態度 心理学や対人コミュニケーションを通して、自分や他者についての理解を深めることができる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション エンカウンターで仲間づくりをしよう ～エンカウンター～ 第2回 エゴグラムで自分を知ろう ～心理テストと自己理解～ 第3回 グループワークで相手を知ろう ～心理的安全性と他者理解～ 第4回 聴き上手になろう ～受容と傾聴～ 第5回 話し上手になろう ～自己開示とアサーション～ 第6回 障がいを持つ人との関わりから学ぼう ～視覚・聴覚障害の方の生活体験～ 第7回 心理テストやアートセラピーで自分をもっと知ろう ～風景構成法～ 第8回 心理テストやアートセラピーで自分をもっと知ろう ～コラージュ～ 第9回 心理テストやアートセラピーで自分と友達をもっと知ろう ～スクイグル～ 第10回 青年期の心について知ろう ～いま知っておきたい心の問題と対処法～ 第11回 ストレスと上手につきあおう ～自分の心を守るストレスマネジメント～ 第12回 対人コミュニケーションの応用を学ぼう ～クレーム対応、合わない人とのつきあい方～ 第13回 自己理解と他者理解について考えよう ～自分と相手のバウンダリー～ 第14回 筆記試験 第15回 筆記試験の振り返り コミュニケーション論のまとめ						
11 学習方法 講義・グループワーク						
12 評価方法 ①知識 筆記試験を行う。 ②技能 筆記試験を行う。 ③態度 授業への参加状況、授業時に提出するワークシートなどを総合的に評価する。						
13 教科書 特定の教科書は使用しません			参考書 (改訂版) 楽しく学んで実践できる対人コミュニケーションの心理学 水國照充 青木智子 木附千晶 著 北樹出版			
14 学生への要望 コミュニケーションについて心理学の観点から学び、周囲の人も自分自身も大切にできる人になりましょう。講義受講またはグループワーク時に配慮が必要な場合は事前に申し出てください。						

人体の構造と機能 I (解剖学 I)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1年	前期	1	30	必須	園 浩輔
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識である、骨・靭帯・関節について学ぶ。						
9 到達目標 【一般目標】 骨の構造・名称・配置・連結を理解する。 知識をもとに骨の名称や構造を問う質問に解答できる。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 骨の構造・名称・配置・連結を説明できる。 ②技能 人体の構造を平面的だけでなく、立体的にイメージできるようになる。 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション、骨の形状・分類を示す用語 第2回 脊柱の構成1 脊柱と椎骨（構造と部位名称など） 第3回 脊柱の構成2 頸椎、胸椎（構造と部位名称など） 第4回 脊柱の構成3 腰椎、仙骨、尾骨（構造と部位名称など） 第5回 体幹 胸骨、肋骨、胸郭（構造と部位名称など） 第6回 上肢の骨格1 上肢帯（鎖骨、肩甲骨）（構造と部位名称など） 第7回 上肢の骨格2 自由上肢1 上腕骨、橈骨、尺骨（構造と部位名称など） 第8回 上肢の骨格3 自由上肢2 手の骨、上肢の関節（構造と部位名称など） 第9回 下肢の骨格1 下肢帯（寛骨、仙腸関節）（構造と部位名称など） 第10回 下肢の骨格2 自由下肢1 大腿骨、膝蓋骨（構造と部位名称など） 第11回 下肢の骨格3 自由下肢2 脛骨、腓骨（構造と部位名称など） 第12回 下肢の骨格4 自由下肢3 足の骨、下肢の関節（構造と部位名称など） 第13回 頭蓋骨1 脳頭蓋、顔面頭蓋（構造と部位名称など） 第14回 頭蓋骨2 頭蓋冠、頭蓋底（構造と部位名称など） 第15回 頭蓋骨3 眼窩、鼻腔、口腔（構造と部位名称など）						
11 学習方法 講義（演習、授業開始時に前回までの確認試験を行う。）						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 解剖学、(公社)東洋療法学校協会 編/河野邦雄・伊藤隆造 ほか著、医歯薬出版				参考書 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院 「からだかがみえる 人体の構造と機能」第1版 メディックメディア		
14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。 解剖学は各種名称を数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。また、知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。 授業で骨模型を使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。						

人体の構造と機能Ⅱ（解剖学Ⅱ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1年	後期	1	30	必須	芳賀 詩音
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識である、筋について学ぶ。						
9 到達目標 【一般目標】 筋の構造・名称・配置・作用を理解する。 知識をもとに筋の名称や作用に関する知識を身につける。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 筋の構造・名称・配置・作用を説明することができる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 筋の形状、補助装置、筋の作用と関節運動、浅胸筋（起始・停止・作用・支配神経） 第2回 体幹の筋1 深胸筋、横隔膜、腹部の筋（起始・停止・作用・支配神経） 第3回 体幹の筋2 会陰筋、背部の筋（起始・停止・作用・支配神経） 第4回 体幹の筋3 後頭下筋、上肢帯の筋、回旋筋腱板（起始・停止・作用・支配神経） 第5回 体幹の筋4 上腕の筋、前腕の筋（起始・停止・作用・支配神経） 第6回 上肢の筋1 前腕の筋（屈筋群）（起始・停止・作用・支配神経） 第7回 上肢の筋2 前腕の筋（伸筋群）（起始・停止・作用・支配神経） 第8回 上肢の筋3 手の筋（起始・停止・作用・支配神経） 第9回 下肢の筋1 下肢帯の筋（起始・停止・作用・支配神経） 第10回 下肢の筋2 大腿の筋（起始・停止・作用・支配神経） 第11回 下肢の筋3 下腿の筋（起始・停止・作用・支配神経） 第12回 下肢の筋4 足の筋（起始・停止・作用・支配神経） 第13回 頭頸部の筋1 （起始・停止・作用・支配神経） 第14回 頭頸部の筋2 起始・停止・作用・支配神経） 第15回 部位での局所解剖（頸肩部、腰背部、鼠径部など）						
11 学習方法 講義（演習、授業開始時に前回までの確認試験を行う。）						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 解剖学、(公社)東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著、医歯薬出版 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院						
14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。 解剖学は各種名称を数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。 授業で筋模型を使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。						

人体の構造と機能Ⅳ（解剖学Ⅳ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1年	後期	1	30	必須	久保 昌紀
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識として、消化器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系の知識を学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 解剖学の基礎知識となる消化器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系の知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 消化器の構造と機能を説明できる。 泌尿器の構造と機能を説明できる。 生殖器の構造と機能を説明できる。 内分泌の構造と機能を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 消化器系1 消化管の基本構造 第2回 消化器系2 口腔 第3回 消化器系3 咽頭、食道、胃 第4回 消化器系4 小腸 第5回 消化器系5 大腸 第6回 消化器系6 肝臓、胆嚢、膵臓 第7回 消化器系7 腹膜、消化器系まとめ 第8回 泌尿器系 腎臓、尿路 第9回 生殖器系1 男性生殖器、泌尿器系まとめ 第10回 生殖器系2 女性生殖器 第11回 生殖器系3 受精と発生、生殖器系まとめ 第12回 内分泌系1 下垂体、松果体 第13回 内分泌系2 甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓 第14回 内分泌系3 性腺、内分泌系まとめ 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 解剖学、(公社)東洋療法学校協会 編/河野邦雄・伊藤隆造 ほか著、医歯薬出版 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」(医学書院)						
14 学生への要望 本科目は他教科を学んでいくための基礎となる学問であり、次年度以降の科目、果ては臨床においても重要な知識となる。そのため、単なる暗記ではなく機序の理解に努めてほしい。 授業後には教科書や資料を復習し、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけ、知識の習得をすることが望ましい。						

人体の構造と機能V（解剖学V）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員		
専門基礎	1年	後期	1	30	必須	園 浩輔		
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識として、感覚器系・神経系の知識を学習する。								
9 到達目標 【一般目標】 感覚器系や神経系の知識を習得し、様々な疾患への理解やはりきゅう臨床の礎を養う。 【行動目標】 ①知識 感覚器系や神経系に関する問に解答することができる。 ②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめ提出することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。								
10 授 業 計 画 第1回 視覚器 眼球の構造 第2回 視覚器 眼球の付属器の構造 第3回 平衡聴覚器 外耳・中耳の構造 第4回 平衡聴覚器 内耳(平衡覚)の構造 第5回 味覚器、嗅覚器の構造 第6回 中枢神経 神経系の概要、脊髄の構造 第7回 中枢神経 延髄、橋の構造 第8回 中枢神経 中脳、小脳、間脳の構造 第9回 中枢神経 大脳の構造 第10回 中枢神経 脳室、髄膜、脳脊髄液、脳血管の構造 第11回 中枢神経 下行性伝導路の構造 第12回 中枢神経 上行性伝導路の構造 第13回 末梢神経 脳神経の構造（第Ⅰ～Ⅶ脳神経） 第14回 末梢神経 脳神経の構造（第Ⅷ～Ⅻ脳神経） 第15回 まとめ								
11 学習方法 講義（演習、授業開始時に前回までの確認試験を行う。）								
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。								
13 教科書 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> 解剖学、(公社)東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著、医歯薬出版 </td> <td style="width: 50%; border: none;"> 参考書 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院 「からだかがみえる 人体の構造と機能」第1版 メディックメディア </td> </tr> </table>							解剖学、(公社)東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著、医歯薬出版	参考書 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院 「からだかがみえる 人体の構造と機能」第1版 メディックメディア
解剖学、(公社)東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著、医歯薬出版	参考書 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院 「からだかがみえる 人体の構造と機能」第1版 メディックメディア							
14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。 解剖学は各種名称を数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。また、知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。								

人体の構造と機能VI（生理学I）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1年	前期	1	30	必須	中島 裕輔
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である人体の機能、特に生理学の基礎、循環、生体の防御機構について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 人体の機能のうち、生理学の基礎と循環、生体の防御機構について修得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 人体機能の特徴、細胞の構造と機能、免疫機能について説明できる。 血液、心臓や血管の機能と働き、血液循環やその調節のメカニズム、リンパ系の機能が説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 生理学の基礎：生理機能の特徴、細胞の構造と機能1（細胞膜の構造と機能、細胞質と細胞小器官） 第2回 生理学の基礎：細胞の構造と機能2（核、DNA、RNA、タンパク質合成） 第3回 生理学の基礎：物質代謝、体液の組成と働き、物質移動 第4回 循環：血液の組成と働き1（総論、赤血球） 第5回 循環：血液の組成と働き2（白血球、血小板、血漿） 第6回 生体の防御機構：非特異的防御機構、特異的防御機構 第7回 生体の防御機構：免疫反応 第8回 循環：止血、線維素溶解、血液型 第9回 循環：心臓血管系、心臓の構造と働き1（心筋の特性、刺激伝導系） 第10回 循環：心臓の構造と働き2（心機能の調節、心電図、神経支配） 第11回 循環：血液循環1（血管の構造と働き、脈拍、毛細血管の循環） 第12回 循環：血液循環2（静脈、血管の神経支配、血圧） 第13回 循環：循環調節1（調節の仕組み、反射性調節） 第14回 循環：循環調節2（特殊な部位の循環）、リンパ系 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 生理学、内田 さえ（著）、原田 玲子（著）、（公社）東洋療法学校協会（編集）、医歯薬出版社						
14 学生への要望 体の働きを学ぶ生理学は、他教科を学んでいくための基礎となり、また将来臨床においても役に立つ学科です。その為、単なる暗記に終わらず、機序の理解に努める必要があります。 授業はプロジェクターを用いて解説する形で行います。また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。 教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけ、その内容を正しく理解していきましょう。						

人体の構造と機能Ⅶ（生理学Ⅱ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1年	前期	1	30	必須	園 浩輔
<p>8 授業の概要</p> <p>生理学では生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。本授業では、特に呼吸と消化・吸収、代謝について学びを進めていく。</p>						
<p>9 到達目標</p> <p>【一般目標】 呼吸器系・消化器系の機能と調節、エネルギー代謝のメカニズムに関する知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。</p> <p>【行動目標】</p> <p>①知識 呼吸・消化・吸収・代謝のメカニズムについて説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。</p>						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>第1回 呼吸1：呼吸器系の構造と機能（外呼吸と内呼吸など） 第2回 呼吸2：肺機能（一回換気量、残気量、換気とガス交換など） 第3回 呼吸3：ガス交換とガスの運搬（拡散、体液の酸塩基平衡など） 第4回 呼吸4：呼吸運動とその調節（呼吸中枢、ヘーリングブロイエル反射など） 第5回 消化と吸収1：各栄養素の消化と吸収、消化酵素の種類と働き 第6回 消化と吸収2：消化管運動（咀嚼、嚥下、消化管運動と調節など） 第7回 消化と吸収3：消化管運動（胃の運動、小腸の運動、大腸の運動など） 第8回 消化と吸収4：消化液（唾液、胃液など） 第9回 消化と吸収5：消化液（膵液、胆汁、大腸液など） 第10回 消化と吸収6：消化管ホルモン（ガストリン、セクレチン、コレシストキニンなど） 第11回 消化と吸収7：各栄養素の吸収（糖質、タンパク質、脂肪など） 第12回 消化と吸収8：肝臓の働き（物質代謝、解毒作用、生体防衛作用など）、摂食の調節 第13回 代謝1：基礎代謝、エネルギー代謝 第14回 代謝2：各栄養素の代謝（糖質、タンパク質、脂肪など） 第15回 まとめ</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>講義（演習：授業開始時に前回までの確認試験を行う。）</p>						
<p>12 評価方法</p> <p>①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。</p>						
<p>13 教科書</p> <p>生理学、内田 さえ（著）、原田 玲子（著）、（公社）東洋療法学校協会（編集）、医歯薬出版社</p> <p>参考書 「生理学の基本がわかる事典」西東社 「からだかがみえる 人体の構造と機能」第1版 メディックメディア 「イラストでまなぶ生理学」第4版 医学書院</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p>授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。 生理学は人体の基礎となる分野です。そのため数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。 また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。授業で模型を使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。</p>						

人体の構造と機能Ⅷ（生理学Ⅲ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1年	前期	1	30	必須	芳賀 詩音
<p>8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である人体の機能、特に内分泌、生殖・成長と老化について学習する。</p>						
<p>9 到達目標 【一般目標】 内分泌、生殖・成長と老化について、機能と調節メカニズムに関する知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 内分泌、生殖・成長と老化の機能と調節メカニズムについて説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。</p>						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>第1回 内分泌：（ホルモン総論、ホルモンの構造、受容体、フィードバック） 第2回 内分泌：（各内分泌腺の働き） 視床下部のホルモン、下垂体のホルモン、 第3回 内分泌：（各内分泌腺の働き） 甲状腺のホルモン、副甲状腺のホルモン、膵臓のホルモン、 第4回 内分泌：（各内分泌腺の働き） 副腎皮質のホルモン、副腎髄質のホルモン 第5回 内分泌：（各内分泌腺の働き） 腎臓のホルモン、性ホルモン 第6回 内分泌：（各内分泌腺の働き） その他のホルモン（腎臓、心臓、松果体）、まとめ 第7回 内分泌：復習 第8回 生殖・成長と老化：男性・女性生殖器総論 第9回 生殖・成長と老化：性反射（勃起と射精） 第10回 生殖・成長と老化：性周期（子宮内膜周期と卵巣周期） 第11回 生殖・成長と老化：受精、着床、妊娠 第12回 生殖・成長と老化：分娩、乳汁分泌 第13回 生殖・成長と老化：復習 第14回 生殖・成長と老化：成長、老化の特徴 第15回 まとめ</p>						
<p>11 学習方法 講義</p>						
<p>12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。</p>						
<p>13 教科書 参考書 生理学、内田 さえ（著）、原田 玲子（著）、（公社）東 洋療法学校協会（編集）、医歯薬出版社</p>						
<p>14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。 生理学は人体の基礎となる分野です。授業には集中力を持って臨んで下さい。また、知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。授業で模型を使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。</p>						

人体の構造と機能Ⅳ（生理学Ⅳ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1年	前期	1	30	必須	杉本 良子
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に必要な基礎知識である、体温・排泄・筋・感覚の機能・調節について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 体温・排泄・筋・感覚の機能・調節について理解する。当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 代謝・体温・排泄のメカニズムについて説明することができる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 体温1 体温調節（核心温度と外殻温度、体温の変動など） 第2回 体温2 体熱の産生と放散（基礎代謝量、ふるえ産熱など）、発汗とその調節（汗腺、発汗の種類など） 第3回 体温3 体温調節の障害（うつ熱、セットポイントなど） 排泄1 腎臓の基本的構造と機能（体液の調節、ホルモンの産生と分泌など） 第4回 排泄2 腎循環（腎血流量（RBF）糸球体濾過） 第5回 排泄3 尿生成（尿細管の再吸収、尿細管の分泌、クリアランスなど） 第6回 排泄4 腎臓と体液の調節、蓄尿と排尿（尿管・膀胱・尿道の構造と働き、膀胱と尿道の支配神経など） 第7回 筋1 骨格筋の構造と働き 第8回 筋2 興奮収縮連関、筋の収縮様式 第9回 筋3 筋のエネルギー供給、心筋と平滑筋 第10回 感覚1 感覚の分類と一般的性質 第11回 感覚2 体性感覚（皮膚感覚、深部感覚） 第12回 感覚3 体性感覚（体性感覚の伝導路） 内臓感覚、痛覚（痛みの分類） 第13回 感覚4 痛覚（痛みの分類）、内因性発痛物質、 第14回 感覚5 痛みによる反応、痛みの抑制系 第15回 まとめ（総復習）						
11 学習方法 講義（演習、授業開始時に前回までの確認試験を行う。）						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 生理学、内田 さえ（著）、原田 玲子（著）、（公社）東 洋療法学校協会（編集）、医歯薬出版社 「生理学の基本がわかる事典」西東社						
14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する。授業には集中力を持って臨んで下さい。 また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。 各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。						

人体の構造と機能X（生理学V）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1年	後期	1	30	必須	園 浩輔
8 授業の概要 生理学では生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。本授業では、特に神経系について学びを進めていく。						
9 到達目標 【一般目標】 神経系の機能、伝導、伝達、反射運動などのメカニズムを理解する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 神経機能、運動反射について説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 神経1：ニューロン、支持細胞、変性と再生、静止電位、活動電位など 第2回 神経2：興奮の伝導興奮の伝達、神経伝達物質など 第3回 神経3：反射機能、感覚系の統合、運動系の統合、反射と反射弓、反射の特徴と種類など 第4回 神経4：ベルマジヤンディーの法則、脊髄ショック、脊髄内の伝導路など 第5回 神経5：脳幹、小脳、視床、視床下部、大脳基底核、大脳辺縁系など 第6回 神経6：新皮質、脳波の分類、脳脊髄液など 第7回 神経7：脳神経、脊髄神経など 第8回 神経8：交感神経系、副交感神経系など 第9回 神経9：自律神経系の中樞、自律神経の関与する反射など 第10回 神経10：内臓求心性神経の働き、消化管における壁内神経叢など 第11回 神経11：内臓—内臓反射、体性—内臓反射、内臓—体性反射など 第12回 運動1：脊髄に支配される運動反射 第13回 運動2：脳幹に支配される運動反射 第14回 運動3：反射と随意運動の関係（伸張反射とγループ） 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験、状況に応じて小テストを実施することがある。 ②技能 学科試験、状況に応じて小テストを実施することがある。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 生理学、内田 さえ（著）、原田 玲子（著）、（公社）東洋療法学校協会（編集）、医歯薬出版社 参考書 「からだが見える 人体の構造と機能」第1版 メディックメディア 「イラストでまなぶ生理学」第4版 医学書院						
14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。 生理学は人体の基礎となる分野です。そのため数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。 また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。						

人体の構造と機能Ⅺ（局所解剖学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	2年	前期	1	30	必須	園 浩輔
8 授業の概要 1年生で修得した解剖学の基礎知識を基に、局所（部位ごと）の構造や走行などの学びを進めていく。						
9 到達目標 【一般目標】 局所の（頭頸部、体幹、上肢、下肢）構造・血管・神経の走行や通過部位を理解する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 局所の（頭頸部、体幹、上肢、下肢）構造・血管・神経の走行や通過部位について説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授業計画 第1回 脊髄神経、自律神経の構造 第2回 体幹の局所解剖1 構造、区分の復習（胸部、腹部、背部など） 第3回 体幹の局所解剖2 脈管系（胸壁、腹壁、背部の動静脈の走行・通過部位など） 第4回 体幹の局所解剖3 神経系（胸壁、腹壁、背部の神経の走行・通過部位など） 第5回 上肢の局所解剖1 構造の復習（腋窩、肘窩、手根管など） 第6回 上肢の局所解剖2 脈管系（上肢の動静脈、リンパの走行・通過部位など） 第7回 上肢の局所解剖3 神経系（腕神経叢、橈骨神経、正中神経、尺骨神経の走行・通過部位など） 第8回 下肢の局所解剖1 構造の復習（大腿三角、筋・血管裂孔、筋区画など） 第9回 下肢の局所解剖2 脈管系（下肢の動静脈、リンパの走行・通過部位など） 第10回 下肢の局所解剖3 神経系（腰神経叢、大腿神経、坐骨神経の走行・通過部位など） 第11回 頭頸部の局所解剖1 構造の復習（前頭三角、後頭三角など） 第12回 頭頸部の局所解剖2 脈管系（総頸動脈、鎖骨下動脈の走行・通過部位など） 第13回 頭頸部の局所解剖3 神経系（脳神経Ⅰ～Ⅵの走行・通過部位など） 第14回 頭頸部の局所解剖4 神経系（脳神経Ⅶ～Ⅻの走行・通過部位など） 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義（演習、授業開始時に前回までの確認試験を行う。）						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 解剖学、(公社)東洋療法学校協会 編/河野邦雄・伊藤隆造 ほか著、医歯薬出版 参考書 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院 「解剖トレーニングノート」第5版 医学教育出版社 「からだながみえる 人体の構造と機能」第1版 メディックメディア						
14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。 解剖学は各種名称を数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。 授業で模型を使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。						

運動学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3年	後期	1	30	必須	杉本 良子
8 授業の概要 コアパワーヨガのポーズを通して身体機能を理解し、運動学的視点から姿勢および動作を分析する力を養うことを目的とする。体幹安定性、股関節機能、下肢支持機能を中心に、臨床場面に応用可能な身体評価能力を育成する。また、歩行や日常動作との関連についても段階的に触れながら理解を深める。						
9 到達目標 【一般目標】 ヨガ実践を通して身体機能を理解し、運動学的視点から姿勢・動作を分析できる基礎能力を養うとともに、歩行機能との関連を理解し臨床応用力の基盤を形成する。 【行動目標】 ①知識 歩行の基本構造および主要筋活動とヨガポーズの関節運動との関連を説明できる。 ②技能 コアパワーヨガを安全に実施することができる。各ポーズにおける関節運動および主要筋の働きを意識してポーズを実施することができる。歩行周期を意識しながら基本的な歩行動作を実践することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授業計画 第1回 ガイダンス 歩行周期の基礎理解 第2回 体幹安定性の基礎／立脚期の体幹機能 第3回 側方安定性／立脚中期と中殿筋 第4回 股関節伸展機能／立脚初期と大殿筋 第5回 骨盤の安定性／トレンデレンブルグ徴候 第6回 下肢支持機能／膝関節の屈伸制御 第7回 股関節屈曲機能／遊脚期と腸腰筋 第8回 足関節機能／背屈と前脛骨筋 第9回 重心移動の基礎 第10回 上肢振りと体幹回旋 第11回 胸郭と歩行時の姿勢制御 第12回 片脚支持と動的安定性 第13回 異常歩行の基礎理解 第14回 評価 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義および実技を組み合わせ実施する。毎回、歩行の基礎事項を扱い、ヨガポーズとの関連を確認する。						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 リハビリテーション医学、東洋療法学校協会編(著者)、 土肥信之(著者)、医歯薬出版						
14 学生への要望 授業に積極的に参加し、自己の身体を観察しながら歩行および運動学との関連を意識して学習すること。実技を伴うため、動きやすい服装で受講すること。体調管理を徹底し、無理のない範囲で実施すること。疼痛や不調がある場合は速やかに申し出ること。また、教員の指示に従い、安全に配慮して実技を行うこと。						

病理学概論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	2年	前期	1	30	必須	小泉 博幸
8 授業の概要 病理学とは病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問と定義されている。本授業ではテキストに従い、病因、循環障害、退行性病変について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 病因、循環障害、退行性病変に関する教養を身につける。 【行動目標】 ①知識 病因、循環障害、退行性病変に関する問いに解答することができる。 ②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめることができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 病理学の基礎（定義、疾病の分類、症候、経過、予後及び転帰） 第2回 病因 病因の一般 病因1（素因、遺伝） 第3回 病因2（内分泌、免疫） 第4回 病因3（物理的病因） 第5回 病因4（化学的病因） 第6回 病因5（食事と栄養素） 第7回 病因6（生物的病因） 第8回 病因 まとめ 第9回 循環障害1（ヒトの循環、充血、うっ血、虚血） 第10回 中間評価 第11回 循環障害2（出血、梗塞、血栓、浮腫、脱水、ショック、DIC） 第12回 退行性病変1（萎縮、変性） 第13回 退行性病変2（老化、生活習慣病） 第14回 退行性病変3（壊死と死、脳死） 第15回 循環障害及び退行病変のまとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 病理学概論、滝澤 登一郎・他、（公社）東洋療法学校 協会（編集）、医歯薬出版				参考書 毎回資料を配布する。 参考・出典・引用は毎回プリントに明記しておく。		
14 学生への要望						

病理学概論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	2年	後期	1	30	必須	小泉 博幸
8 授業の概要 病理学とは病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問と定義されている。本授業ではテキストに従い、進行性病変、炎症、腫瘍・免疫異常・アレルギー、先天性異常について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 進行性病変、炎症、腫瘍・免疫異常・アレルギー、先天性異常に関する教養を身につける。 【行動目標】 ①知識 進行性病変、炎症、腫瘍・免疫異常・アレルギー、先天性異常に関する問いに解答することができる。 ②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめることができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 進行性病変1（肥大、増殖、再生、化生） 第2回 進行性病変2（移植、創傷治癒、異物の処理） 第3回 炎症1（炎症のメカニズム） 第4回 炎症2（滲出性炎症と増殖性炎症） 第5回 進行性病変と炎症のまとめ1 第6回 進行性病変と炎症のまとめ2 第7回 中間評価 第8回 腫瘍1（腫瘍の一般、腫瘍の分類） 第9回 腫瘍2（発癌理論、癌患者をめぐる） 第10回 腫瘍のまとめ1 第11回 腫瘍のまとめ2 第12回 先天異常（発育発生とその異常、遺伝性疾患） 第13回 免疫異常1（免疫の基礎、アレルギー反応） 第14回 免疫異常2（免疫寛容と自己免疫疾患） 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 病理学概論、滝澤 登一郎・他、（公社）東洋療法学校協会（編集）、医歯薬出版						
				参考書 毎回資料を配布する。 参考・出典・引用は毎回プリントに明記しておく。		
14 学生への要望						

臨床医学総論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	2年	前期	1	30	必須	芳賀 詩音
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師があはき臨床を行う際に必要な基本的な知識と評価能力を身につける。						
9 到達目標 【一般目標】 ①診察の意義、一般的心得を理解できる。 ②診察の順序、診察方法の基本的な知識を学び、主観的・客観的な情報を収集し、患者の状態を診断するのに役立てる。 ③当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 診察の基礎を学び、情報収集を行う中で患者の状態を把握できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授業計画 第1回 オリエンテーション/診察の意義・診察の一般的心得・関連用語の確認・理解（これからの内容の整理、専門用語に慣れてもらうために関連用語などから学習） 第2回 診察の種類（方法）、診察の順序、診察の記録（意義・方法） [診察の種類（方法）を確認し、診察の順序、診察の記録方法について学習] 第3回 医療面接1 [医療面接の内容を理解して、医療面接で行う項目（主訴、現病歴、既往歴、社会歴、家族歴）を学習] 第4回 医療面接2 [医療面接の内容を理解して、実際に医療面接を行い、学習] 第5回 基本診察（視診：視診方法、視診のポイント・触診：触診方法、触診ポイント） 第6回 基本診察（打診：打診方法、打診音、打診ポイント・聴診：聴診方法、聴診音、聴診ポイント） 第7回 バイタルサイン（体温：正常体温、異常な体温など） 第8回 バイタルサイン（脈拍：正常脈拍、異常な脈拍など） 第9回 バイタルサイン（血圧1：測定方法、正常血圧、異常な血圧など） 第10回 バイタルサイン（血圧2：実際に測定方法を行う） 第11回 バイタルサイン（呼吸：正常呼吸、異常な呼吸など） 第12回 全身の診察（顔貌・顔色、精神状態など） 第13回 全身の診察（言語：構音障害と失語症、身体計測：周径方法、身長・体重など） 第14回 全身の診察1 姿勢と体位：疾患特有な姿勢など 第15回 全身の診察2 歩行：異常な歩行						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 臨床医学総論第3版、奈良 信雄（著）、（公社）東洋療法学校協会（編集）、医歯薬出版社 参考書 「臨床医学各論」 第2版 「診察と手技がみえる」 メディックメディア						
14 学生への要望 臨床医学総論は診察方法を学んでいきます。主観的な情報と客観的な情報を診察のどの種類（方法）を用いて行うのか、得た情報からどのように診断するかを中心に学習を進めて欲しいと思います。聞きなれない用語、単語が出てくると思いますが、臨床に出た時に必要な知識になるので、日々の復習をしっかりと行って欲しい。						

臨床医学総論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	2年	後期	1	30	必須	芳賀 詩音
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師があはき臨床を行う際に必要な基本的な知識と評価能力を身につける。						
9 到達目標 【一般目標】 全身の診察から主観的・客観的な情報を収集し、患者の状態を診断するのに役立てる。 局所の診察から主観的・客観的な情報を収集し、患者の状態を診断するのに役立てる。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 診察の基礎を学び、情報収集を行う中で患者の状態を把握できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 全身の診察3 皮膚、粘膜、皮下組織：色の変化、発疹など 第2回 全身の診察4 皮下組織：浮腫、発汗、体毛、レイノー現象、癢痒 第3回 全身の診察5 爪の状態、リンパ節：爪の色、形状、リンパ節の腫脹・特徴など 第4回 全身の診察6 その他の一般的状態：食欲、睡眠、便通、排尿 第5回 局所の診察7 頭部、顔面：異常な頭部の診察など、顔面の麻痺、腫脹など 第6回 局所の診察8 眼1：診察方法、異常な所見など 第7回 局所の診察9 眼2：診察方法、異常な所見など 第8回 局所の診察10 鼻、耳：診察方法、異常所見など 第9回 局所の診察11 口腔：診察方法、異常所見など 第10回 局所の診察12 頸部：診察方法、異常所見など 第11回 局所の診察13 胸部、乳房：診察方法、異常所見など 第12回 局所の診察14 肺・胸膜：診察方法、異常所見など 第13回 局所の診察15 心臓：診察方法、異常など 第14回 局所の診察16 腹部：診察方法、異常など 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 臨床医学総論第4版、奈良 信雄（著）、（公社）東洋療 法学校協会（編集）、医歯薬出版社 「臨床医学各論」 第2版 「診察と手技がみえる」 メディックメディア						
14 学生への要望 臨床医学総論は診察方法を学んでいきます。主観的な情報と客観的な情報を診察のどの種類（方法）を用いて行うのか、得た情報からどのように診断するかを中心に学習を進めて欲しいと思います。聞きなれない用語、単語が出てくると思いますが、臨床に出た時に必要な知識になるので、日々の復習をしっかりと行って欲しい。						

臨床医学各論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	2年	前期	1	30	必須	小泉 博幸
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である整形外科疾患について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 あはき臨床に必要な整形外科疾患の知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 整形外科疾患における治療法や画像診断の種類や特徴を説明できる。 関節疾患について説明できる。 骨代謝性疾患・骨腫瘍について説明できる。 筋・腱疾患、形態異常について説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 総論（治療法、画像診断） 第2回 関節炎、痛風、偽痛風、関節の可動域の異常 第3回 五十肩、腱板損傷 第4回 変形性股関節症、変形性膝関節症 第5回 ベルテス病、大腿骨頭すべり症 第6回 変形性足関節症、変形性肘関節症、手指の変形性関節症 第7回 これまでのおさらい1 第8回 これまでのおさらい2 第9回 中間評価 第10回 骨粗鬆症、くる病・骨軟化症 第11回 骨肉腫、骨軟骨腫、転移性骨腫瘍 第12回 筋・腱疾患（特殊な筋炎・筋膜炎、ばね指、ドケルバン病、重症筋無力症） 第13回 形態異常（先天性股関節脱臼、発育性股関節形成不全、斜頸、側彎症、後彎症、外反母趾、内反足） 第14回 これまでのおさらい 第15回 予備日						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 臨床医学各論第2版、奈良 信雄（著）、（公社）東洋 療法学校協会（編集）、医歯薬出版						
14 学生への要望 配布資料を中心に授業を進める。分からない点は質問する、または調べる等授業時間内にしっかりと覚えるように意識すること。						

臨床医学各論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	2年	後期	1	30	必須	小泉 博幸
<p>8 授業の概要</p> <p>あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である整形外科疾患、リウマチ性疾患・膠原病について学習する。</p>						
<p>9 到達目標</p> <p>【一般目標】 あはき臨床に必要な整形外科疾患、リウマチ性疾患・膠原病の知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。</p> <p>【行動目標】</p> <p>①知識 脊椎疾患について説明できる。 脊髄損傷、外傷などについて説明できる。 リウマチ性疾患・膠原病について説明できる。</p> <p>②技能 自主的に学習することができる。</p> <p>③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。</p>						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>第1回 椎間板ヘルニア</p> <p>第2回 後縦靭帯骨化症、黄色靭帯骨化症、脊椎分離・すべり症、変性すべり症</p> <p>第3回 頸部・腰部変形性脊椎症</p> <p>第4回 腰痛症、頸椎捻挫</p> <p>第5回 脊髄損傷</p> <p>第6回 これまでのおさらい</p> <p>第7回 中間評価</p> <p>第8回 外傷（骨折、脱臼、捻挫）</p> <p>第9回 スポーツ外傷・傷害（総論、テニス肘、ゴルフ肘、野球肘、野球肩、ジャンパー膝、他）</p> <p>第10回 その他（胸郭出口症候群、頸腕症候群・頸肩腕症候群、ガングリオン、手根管症候群）</p> <p>第11回 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、ベーチェット病、多発性筋炎・皮膚筋炎</p> <p>第12回 多発動脈炎、食物アレルギー、血清病、薬物アレルギー、慢性疲労症候群、線維筋痛症</p> <p>第13回 これまでのおさらい1</p> <p>第14回 これまでのおさらい2</p> <p>第15回 予備日</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>講義</p>						
<p>12 評価方法</p> <p>①知識 学科試験</p> <p>②技能 学科試験</p> <p>③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。</p>						
<p>13 教科書 参考書</p> <p>臨床医学各論第2版、奈良 信雄（著）、（公社）東洋 療法学校協会（編集）、医歯薬出版</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p>教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。</p>						

臨床医学各論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3年	前期	1	30	必須	小泉 博幸
8 授業の概要 腎臓・泌尿器、内分泌、代謝・栄養疾患の概要、成因と病態生理、症状、診断、治療、経過と予後について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 腎臓・泌尿器、内分泌、代謝・栄養疾患の学びを通じ、あはき師としてふさわしい教養を身に付ける。 【行動目標】 ①知識 腎臓・泌尿器、内分泌、代謝・栄養疾患について説明できる。 ②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめ提出することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 腎臓・泌尿器系の機能、総論、糸球体腎炎 第2回 ネフローゼ症候群、腎不全 第3回 感染症（腎盂腎炎、膀胱炎、過活動膀胱、尿道炎） 第4回 腫瘍性疾患（腎腫瘍、膀胱癌） 第5回 結石症、前立腺疾患（前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌） 第6回 これまでのおさらい 第7回 中間評価 第8回 下垂体腺腫 （先端巨大症、下垂体性低身長症、尿崩症、シモンズ病、シーハン症候群、プロラクチノーマ、他） 第9回 甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、クレチン病、他）副甲状腺機能亢進症、 第10回 副腎疾患（クッシング症候群、他） 膵臓内分泌疾患（インスリノーマ、グルカゴノーマ、ガストリノーマ） 第11回 糖代謝異常（糖尿病） 第12回 脂質代謝異常（脂質異常症、メタボリック症候群、肥満症、るいそう） 第13回 尿酸代謝異常（高尿酸血症、痛風） 第14回 その他の代謝異常（ビタミン欠乏症、亜鉛欠乏症、金属代謝障害） 第15回 内分泌、代謝・栄養疾患のまとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 臨床医学各論第2版、奈良 信雄（著）、（公社）東洋 療法学校協会（編集）、医歯薬出版						
14 学生への要望 教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。						

臨床医学各論Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3年	後期	1	30	必須	小泉 博幸
<p>8 授業の概要</p> <p>循環器、赤血球・白血球疾患、出血素因性疾患の概要、成因と病態生理、症状、診断、治療、経過と予後について学習する。</p>						
<p>9 到達目標</p> <p>【一般目標】 循環器、赤血球・白血球疾患、出血素因性疾患の学びを通じ、あはき師としてふさわしい教養を身に付ける。</p> <p>【行動目標】</p> <p>①知識 循環器、赤血球・白血球疾患について説明できる。 ②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめ提出することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。</p>						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>第1回 心臓の機能、形態、検査法 第2回 心不全 第3回 心臓弁膜疾患（僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症・逸脱症候群・大動脈狭窄症・閉鎖不全症） 第4回 不整脈（期外収縮、心房細動、心室細動、房室ブロックほか）、先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症）、特発性心筋症、心筋炎 第5回 冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞、心タンポナーデ） 第6回 動静脈疾患 （動脈硬化、大動脈瘤、大動脈解離、バージャー病、閉塞性動脈硬化症、大動脈炎症候群、静脈瘤） 第7回 血圧異常（高血圧症、低血圧症） 第8回 これまでのまとめ 第9回 中間評価 第10回 貧血1（貧血の診断と評価、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血） 第11回 貧血2（溶血性貧血、再生不良性貧血） 第12回 白血球疾患（白血病）、リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫） 第13回 出血性疾患：（紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群（DIC）） 第14回 これまでのまとめ 第15回 評価</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>講義</p>						
<p>12 評価方法</p> <p>①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。</p>						
<p>13 教科書 参考書</p> <p>臨床医学各論第2版、奈良 信雄（著）、（公社）東洋療法学校協会（編集）、医歯薬出版</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p>教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。</p>						

リハビリテーション医学 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員	
専門基礎	3年	前期	1	30	必須	中川 裕理	
8 授業の概要 医療および福祉の分野におけるニーズに対応できるように、リハビリテーション医学における基本的な知識を学ぶ。							
9 到達目標 【一般目標】 リハビリテーション医学の基本的な知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 リハビリテーションの概要、基本的理念、リハビリテーション医学の概念、障害の捉え方を説明できる。 ②技能 障害の評価、医学的リハビリテーションの方法にはそれぞれ何があるか説明できる。 ③態度 チーム医療に参加する者としての姿勢を修養する。							
10 授 業 計 画 第1回 総論 第1章 リハビリテーション医学・医療 1 (理念・目的, 語源・歴史) 第2回 2 (生活機能分類, リハビリテーションの分野) 第3回 3 (リハビリテーション医療, 医療チーム, 地域リハ) 第4回 第3章 診断・評価学 1 (診断・評価とは, 診療の流れ) 第5回 2 (検査・測定 1) 第6回 3 (検査・測定 2) 第7回 第4章 治療学 1 (運動療法) 第8回 2 (物理療法) 第9回 3 (作業療法) 第10回 4 (言語聴覚療法) 第11回 5 (補装具療法) 第12回 6 (自助具・福祉用具) 第13回 各論 第5章 高齢者によくみられる疾患 1 第14回 2 第15回 実技試験 前期まとめ							
11 学習方法 講義							
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 実技試験 ③態度 学習態度を評価に含むことがある							
13 教科書 新版リハビリテーション医学 文光堂							参考書 「リハビリビジュアルブック」 第2版 学研プラス 「目でみるリハビリテーション医学」 第2版 東京大学出版会
14 学生への要望 リハビリテーション医学の基本は障害学であり、単なる「訓練」ではなく、多くの専門職が連携して問題を解決していく総合的アプローチである。どの場面で鍼灸師の専門性を生かせるかを想像しながら、学習してもらいたい。 ※講義中のスマートフォン・ipad等の使用はご遠慮下さい。							

リハビリテーション医学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3年	後期	1	30	必須	中川 裕理
8 授業の概要 各疾患におけるリハビリテーションについて基本的な知識を学ぶ。						
9 到達目標 【一般目標】 各疾患におけるリハビリテーションについて理解する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 前期で学んだことも復習し、各疾患に対して評価・リハビリ内容・治療について説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 チーム医療に参加する者としての姿勢を身に着ける。						
10 授 業 計 画 第1回 各論 運動器疾患 1 (上肢) 第2回 2 (下肢) 第3回 3 (スポーツ損傷) 第4回 4 (脊椎) 第5回 5 (切断) 第6回 6 (関節リウマチ) 第7回 神経疾患 1 (脳血管障害) 第8回 2 (パーキンソン病) 第9回 3 (末梢神経障害) 第10回 内部障害 1 (虚血性心疾患) 第11回 2 (呼吸器疾患) 第12回 3 (その他疾患) 第13回 小児疾患 第14回 後期試験 第15回 全体まとめ・質疑応答						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 学習態度を評価に含むことがある						
13 教科書 新版リハビリテーション医学 文光堂				参考書 「リハビリビジュアルブック」 第2版 学研プラス 「リハビリテーションにおける評価 Ver. 2」 医歯薬出版株式会社		
14 学生への要望 リハビリテーションは評価にはじまり、評価に終わるといわれます。本講義で得た知識を卒業後の臨床で生かせるよう学習してもらいたい。 ※講義中のスマートフォン・ipad等の使用はご遠慮下さい。						

衛生学・公衆衛生学 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3年	前期	1	30	必須	名越 文人
8 授業の概要 衛生学・公衆衛生学についての基本的な知識を学び、あはき師として備えるべき素養を身につける。						
9 到達目標 【一般目標】 病気の予防、健康保持増進をはじめ衛生学・公衆衛生学についての一般的な知識を身につけ、臨床現場で活用できる。現代社会のライフスタイルや環境に常に関心を持ち健康に対する意識を向上させる。 【行動目標】 ①知識 授業計画に記した学習内容について説明できる。 ②技能 自ら進んで学習し、当該科目に関するメモやノートをまとめることができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 衛生学・公衆衛生学の意義 第2回 健康 健康の概要 第3回 健康 健康管理 第4回 健康 健康管理 第5回 ライフスタイルと健康 食品と栄養 第6回 ライフスタイルと健康 食品と栄養 第7回 ライフスタイルと健康 食品と栄養 第8回 ライフスタイルと健康 食品と栄養 第9回 環境と健康 環境とは 第10回 環境と健康 日常生活環境 第11回 環境と健康 日常生活環境 第12回 環境と健康 日常生活環境 第13回 環境と健康 環境問題 第14回 環境と健康 環境問題 第15回 産業保健						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 衛生学・公衆衛生学、(公社)東洋療法学校協会 編、浜崎景・姫野誠一郎 ほか著、医歯薬出版						
14 学生への要望 コメディカルとして共通認識を持つべき内容であり、患者への生活指導などに役立つ科目である。積極的に学び、今後に活かすこと。						

衛生学・公衆衛生学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3年	後期	1	30	必須	名越 文人
8 授業の概要 衛生学・公衆衛生学についての基本的な知識を学び、あはき師として備えるべき素養を身につける。						
9 到達目標 【一般目標】 病気の予防、健康保持増進をはじめ衛生学・公衆衛生学についての一般的な知識を身につけ、臨床現場で活用できる。現代社会のライフスタイルや環境に常に関心を持ち健康に対する意識を向上させる。 【行動目標】 ①知識 授業計画に記した学習内容について説明できる。 ②技能 自ら進んで学習し、当該科目に関するメモやノートをまとめることができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 精神保健 第2回 母子保健 第3回 学校保健 第4回 成人・高齢者保健 成人保健の意義、加齢と老化 第5回 成人・高齢者保健 生活習慣病の特徴と対策 第6回 成人・高齢者保健 生活習慣病の特徴と対策、高齢者の保健福祉対策、介護保険 第7回 感染症とその対応 感染症の意義と種類 第8回 感染症とその対応 発生要因、感染予防の原則 第9回 問題演習 第10回 消毒法 消毒法一般、消毒の種類 第11回 消毒法 消毒の実際、医療関連感染の予防、医療廃棄物 第12回 疫 学 第13回 問題演習、保健統計 第14回 保健統計 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 衛生学・公衆衛生学、(公社)東洋療法学校協会 編、浜崎景・姫野誠一郎 ほか著、医歯薬出版						
14 学生への要望 コメディカルとして共通認識を持つべき内容であり、患者への生活指導などに役立つ科目である。積極的に学び、今後 に活かすこと。						

関係法規

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3年	前期	1	30	必須	名越 文人
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師免許・はり師免許・きゅう師免許は国家資格であり、様々な法律による制約を受ける為、業務を行う上で知っておくべき各種法律の内容について理解する。						
9 到達目標 【一般目標】 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として業務に従事する上で必要な法律である「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（以下、あはき法）」、「医療関連法規」の知識を修得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 「あはき法」「医療関係法規」について説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 導入・序論法の意義、法の体系、医療過誤とリスクマネジメント、インフォームド・コンセント 第2回 あはき法1 免許と試験1 法制定の目的、免許の資格要件 第3回 あはき法2 免許と試験2 免許に関する事務など、施術者の身分、試験 第4回 あはき法3 業務1 業務の独占と範囲、施術に関する注意 第5回 あはき法4 業務2 施術所などに関する規則、業務開始の届出など 第6回 あはき法5 業務3 施術所の名称の制限及び広告の制限、業務の停止 第7回 あはき法6 業務4 医療類似行為、問題演習 第8回 あはき法7 学校、養成施設、指定試験機関、指定登録機関、試験委員 第9回 あはき法8 罰則、あはき法の復習 第10回 関係法規1 医事法規と医療制度、医療法 第11回 関係法規2 医師法、その他の医療従事者に関する法律 第12回 関係法規3 薬事法規 第13回 関係法規4 衛生関係法規 第14回 関係法規5 社会福祉関係法規、その他の関係法規 第15回 関係法規6 社会保険関係法規						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 関係法規、前田 和彦、(公社)東洋療法学校協会、医 なし 歯薬出版社						
14 学生への要望 開業する際の知識等、あはき師として業務を行う上で必要となる内容であり、また法律の内容を知り遵守することは自分自身を守ることと繋がる。将来の為と思って取り組むこと。						

医療概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3年	後期	1	30	必須	名越 文人
8 授業の概要 社会保障制度・医療倫理などについて調べ学習を行い、その学習内容をクラスメイトに対してプレゼンテーションを行う。						
9 到達目標 【一般目標】 調べ学習を通じて、医療の原点や現状、問題点、社会的発展を考える力を養う。 【行動目標】 ①知識 医学史の概要、現代社会の医療、社会保障制度、医療倫理について説明できる。 ②技能 テーマに沿った情報を収集し、自らの考えと結びつけ発展させ、聞き手に分かりやすいように発表できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 ガイダンス・テーマ選定 第2回 グループワーク 第3回 グループワーク 第4回 グループワーク 第5回 グループワーク 第6回 グループワーク 第7回 問題演習 第8回 問題演習 第9回 発表 第10回 発表 第11回 発表 第12回 発表 第13回 発表 第14回 特別授業 第15回 特別授業						
11 学習方法 講義（演習・グループワーク・プレゼンテーション）						
12 評価方法 ①知識 選定したテーマの理解度など発表内容にて評価する。 ②技能 発表態度、発表技術、資料内容、質疑応答内容にて評価する。 ③態度 授業態度、聴講態度、質問の回数・内容、まとめノートにて評価する。						
13 教科書 参考書 医療概論、中川 米造（監修）、（公社）東洋療法学校協 会（編集）、医歯薬出版 なし						
14 学生への要望 基本的にグループワークが中心となる為、各自が積極的に取り組むこと。また、テーマについて深く考え、決められた時間内でいかに分かりやすく伝えられるか、グループ内で繰り返し討議すること。						

職業倫理

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3年	通年	1	15	必須	小泉 博幸
8 授業の概要 専門職であるあはき師としてふさわしい知識・態度・習慣について考える。						
9 到達目標 【一般目標】 療養費の扱いについて考える。 危機管理・法令順守について考える。 【行動目標】 ①知識 一般目標に関する問いに解答できる。 ②技能 一般目標に関する問いに解答できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 プロフェッショナリズムの概念 第2回 アンチプロフェッショナルな事例 第3回 クレーム対応、アクシデントとインシデント 第4回 安全な臨床、あはきの適応 第5回 公的保険、賠償保険 第6回 療養費の適切な取り扱い その1 第7回 療養費の適切な取り扱い その2 第8回 評価						
11 学習方法 講義（演習）						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 なし 参考書						
14 学生への要望						

経絡経穴概論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	前期	1	30	必須	久保昌紀
8 授業の概要 臨床の現場においてあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として必要な経絡経穴の知識・技能を習得する。						
9 到達目標 【一般目標】 正経十二経脈に督脈と任脈を合わせた十四経脈の流注（接続部含む）と経穴名（経穴番号含む）、取穴に必要な体表区分（体表指標含む）と骨度法（同身寸含む）を理解することを目標とする。 【行動目標】 ①知識 十四経脈の流注と経穴名、体表区分と骨度法を述べることができる。 ②技能 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じることができ、自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション・経絡経穴の概要 第2回 骨度法と体表指標 第3回 督脈① 第4回 督脈② 第5回 任脈 第6回 手の太陰肺経 第7回 手の陽明大腸経 第8回 取穴 第9回 足の陽明胃経① 第10回 足の陽明胃経② 第11回 足の太陰脾経 第12回 取穴 第13回 手の少陰心経・手の太陽小腸経① 第14回 手の太陽小腸経② 第15回 取穴・まとめ						
11 学習方法 講義（演習。必要に応じて実技も行う。）						
12 評価方法 ①知識 学科試験・小テスト ②技能 学科試験・小テスト ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版経絡経穴概論、教科書執筆小委員会（著）、日本 理療科教員連盟（著）、医道の日本社 参考書 特に指定しない。 必要に応じて適宜参考プリントを配布する。						
14 学生への要望 予習や復習を行うことを前提として授業を進める。留意のこと。 一度に多くを暗記しようとせず、段階を追って日々反復学習を行うことが同科目の理解度を高めるポイントである。						

経絡経穴概論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	後期	1	30	必須	久保 昌紀
8 授業の概要 臨床の現場においてあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師として必要な経絡経穴の知識・技能を習得する。						
9 到達目標 【一般目標】 正経十二経脈に督脈と任脈を合わせた十四経脈の取穴部位を理解することを目標とする。 【行動目標】 ①知識 十四経脈の取穴部位を述べるができる。 四肢末端や背部等の主要経穴の取穴を実際に行うことができる。 ②技能 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じることができ、自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 足の太陽膀胱経① 第2回 足の太陽膀胱経② 第3回 足の太陽膀胱経③ 第4回 足の少陰腎経 第5回 取穴 第6回 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経① 第7回 手の少陽三焦経② 第8回 取穴 第9回 足の少陽胆経① 第10回 足の少陽胆経② 第11回 足の少陽胆経③ 第12回 足の厥陰肝経 第13回 取穴 第14回 総復習 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義（演習。必要に応じて実技も行う。）						
12 評価方法 ①知識 学科試験・小テスト ②技能 学科試験・小テスト ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版経絡経穴概論、教科書執筆小委員会（著）、日本 理療科教員連盟（著）、医道の日本社 参考書 特に指定しない。 必要に応じて適宜参考プリントを配布する。						
14 学生への要望 予習や復習を行うことを前提として授業を進める。留意のこと。 一度に多くを暗記しようとせず、段階を追って日々反復学習を行うことが同科目の理解度を高めるポイントである。						

経絡経穴概論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	久保 昌紀
8 授業の概要 臨床現場で使用頻度の高い要穴を中心に、奇経八脈と奇穴を学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 経穴名だけではなく、臨床上の意義や取穴部位から経穴を想起できるようになる。 【行動目標】 ①知識 五要穴・五行穴の表の運用について説明できる。 解剖学的な位置を説明できる。 ②技能 要穴の取穴部位を取穴できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 ガイダンス：要穴とは 第2回 五要穴① 第3回 五要穴② 第4回 五愈穴① 第5回 五愈穴② 第6回 下合穴・四総穴・八会穴 第7回 奇経八脈① 第8回 奇経八脈② 第9回 奇 穴① 第10回 奇 穴② 第11回 経穴の組合せ 第12回 経筋と皮部と経別 第13回 経穴の現代的研究 第14回 要穴を用いたレクレーション（経穴かるた） 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版経絡経穴概論、教科書執筆小委員会（著）、日本 理療科教員連盟（著）、医道の日本社 参考書 特に指定しない。 必要に応じて適宜参考プリントを配布する。						
14 学生への要望 1年時の経絡経穴概論Ⅰ・Ⅱの知識を習得している前提で授業を行う。3年時の臨床実習に直結する科目でもあるため、熱心に取り組んでほしい。予習が困難な部分が含まれるため、授業後の復習に力を注ぐことが望ましい。						

経絡経穴概論Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	久保 昌紀
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるあはき師の見地から、鍼灸臨床で必要な東洋医学的観察法について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸臨床で必要な経穴を現代医学的な指標を併せて理解する。 【行動目標】 ①知識 経穴の解剖学的な位置を説明できる。 ②技能 取穴の前提として、筋肉を的確に触れることができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 体幹の経穴と筋肉・神経① 第2回 体幹の経穴と筋肉・神経② 第3回 上肢の経穴と筋肉・神経① 第4回 上肢の経穴と筋肉・神経② 第5回 取穴練習《体幹と上肢》 第6回 下肢の経穴と筋肉・神経① 第7回 下肢の経穴と筋肉・神経② 第8回 頭顔面の経穴と筋肉・神経① 第9回 頭顔面の経穴と筋肉・神経② 第10回 取穴練習《下肢と頸部》 第11回 経脈・経筋の走行と該当する筋肉・神経① 第12回 経脈・経筋の走行と該当する筋肉・神経② 第13回 経穴のかたちについて《『靈枢』：経脈篇・禁服篇、》 第14回 循経の実践。現代東洋 両面からの考察《『経絡テスト』・『アナトミートレイン』より》 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義・実習						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 『新版 経絡経穴概論』 『ボディナビゲーション』、『経穴マップ』など 『解剖学』 必要に応じて適宜参考プリントを配布する。						
14 学生への要望 あらゆる治療には事実に基づいた説明が必須である。本科目の習得により経穴を東西両面から説明できるようになる。経穴の取穴部位、筋肉の走行などは履修していることを前提に授業を実施するため、不安がある場合、筋肉、経穴の取穴部位の予習を行うこと。また、積極的に復習をして、知識を習得することが望ましい。						

東洋医学概論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	前期	1	30	必須	堤野 孟
8 授業の概要 東洋医学の概念のうち、全般的な特徴と生体物質（気血津液）について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 東洋医学の考え方や気血津液の正常な働きとその病理・病証を理解する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 東洋医学の特徴、精気血津液・神・陰陽の生理と病理を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 ガイダンス：東西の医学 第2回 東洋医学での人体の見方 第3回 陰陽論① 第4回 陰陽論② 第5回 精の生理 第6回 気の生理 第7回 血の生理 第8回 津液の生理 第9回 生体物質の相互関係 第10回 精の病理 第11回 気の病理 第12回 血の病理 第13回 津液の病理 第14回 陰陽の生理と病理 第15回 神の概念						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版 東洋医学概論、東洋療法学校協会（著）、教科書 参考書 特に指定しない。 検討小委員会（著）、医道の日本社 必要に応じて適宜参考資料を配布する。						
14 学生への要望 東洋思想を基にした医学であり、馴染みのない用語が頻出するため予習することが難しい課目である。 そのため、授業で学んだことを日々復習することで知識を習得することが望ましい。また、日常の会話で東洋医学的な言葉を使用することにより抵抗感もなくなり、親しみやすくなる。						

東洋医学概論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	後期	1	30	必須	堤野 孟
8 授業の概要 東洋医学の概念のうち、五臓六腑について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 五臓六腑の正常な働きとその病理・病証を理解できる。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 五臓の生理と病理、関連領域、六腑の生理と病理を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 五行論① 第2回 五行論② 第3回 蔵象① 肝系統の生理 第4回 蔵象② 心系統の生理 第5回 蔵象③ 脾系統の生理 第6回 蔵象④ 肺系統の生理 第7回 蔵象⑤ 腎系統の生理 第8回 蔵象⑥ 六府・奇恒の府の生理 第9回 病因① 外感病因 第10回 病因② 内傷病因・その他 第11回 蔵象⑦ 肝の復習と病理 第12回 蔵象⑧ 心の復習と病理 第13回 蔵象⑨ 脾の復習と病理 第14回 蔵象⑩ 肺の復習と病理 第15回 蔵象⑪ 腎の復習と病理						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版 東洋医学概論、東洋療法学校協会（著）、教科書 参考書 検討小委員会（著）、医道の日本社 特に指定しない。 必要に応じて適宜参考資料を配布する。						
14 学生への要望 馴染みのない用語が頻出するため予習することが難しい課目であるが、本課目を習得することで東洋思想を踏まえた人体の見方の基礎が理解できる。2年次の課目に直結するため、授業で学んだことを日々復習することで知識を習得することが望ましい。						

あん摩マッサージ指圧理論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	前期	1	30	必須	芳賀 詩音
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師として必要な知識・理論について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 あん摩マッサージ指圧師として必要な知識・理論を身に付ける。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 あん摩・マッサージ・指圧の相違点が説明できる。 手技が生体におよぼす作用を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 それぞれの基本手技を理解し、臨床上適した手技を選択できる。 施術における適応と禁忌を判断できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 あん摩マッサージ指圧の意義と沿革 (沿革と各々の相違点について) 第2回 あん摩マッサージ指圧の基本手技1 (あん摩の基本手技7つ：軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、振せん法、運動法、曲手) 第3回 あん摩マッサージ指圧の基本手技2 (マッサージの基本手技：軽擦法、強擦法、揉捏法、叩打法、振せん法、圧迫法/指圧の三原則、他) 第4回 あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす作用1 (生体作用の機転の一般：体性感覚、深部感覚など/循環系におよぼす作用：心臓、血管、他) 第5回 あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす作用2 (神経系、皮膚、筋、関節、他におよぼす作用) 第6回 運動法の生体におよぼす作用 (徒手筋力検査法、施術に応用できる体操法) 第7回 あん摩マッサージ指圧の治療効果 (興奮作用、鎮静作用、反射作用、誘導作用、矯正作用) 第8回 あん摩マッサージ指圧の禁忌・施術上の注意 (適応症と禁忌症、手指の洗浄と消毒、他) 第9回 あん摩マッサージ指圧と東洋医学1 (東洋医学の健康観、臓腑と経絡、経絡と経穴) 第10回 あん摩マッサージ指圧と東洋医学2 (古法あん摩と導引：「按摩手引」「導引口訣鈔」「按腹図解」) 第11回 あん摩マッサージ指圧の応用1 (応用分野：医療、保健、産業、スポーツ、美容、乳房マッサージ) 第12回 あん摩マッサージ指圧の応用2 (結合織マッサージ：エリザベート・ディッケ、基本手技、他) 第13回 併用する物理療法1 (物理療法の種類：電気、光線、温熱療法、他) 第14回 併用する物理療法2 (物理療法の種類：水治、温泉、運動療法、他) 第15回 まとめ(復習)						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 あん摩マッサージ指圧理論、東洋療法学校協会(著)、 教科書執筆小委員会(著)、医道の日本社						
14 学生への要望 あん摩マッサージ指圧師にとって大切な基礎を理解できるよう集中して講義に取り組むこと。 臨床実技に応用できるよう、しっかりと理解を深めてもらいたい。						

はりきゅう理論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	前期	1	30	必須	芳賀 詩音
8 授業の概要 はり施術及びきゅう施術で用いる器材、技術、衛生的処置などについて述べるができる。						
9 到達目標 【一般目標】 ①はり・きゅう施術で用いる基材の構造や特徴、材料、一般的方式や術式、特殊技術を理解する。 ②はり・きゅう施術で生じやすい感染、傷害、折鍼、副作用などのリスクを理解する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 はり・きゅう施術で用いる基材の構造や特徴、材料を説明できる。 はり・きゅう施術の一般的方式や術式、さらには特殊技術について説明できる。 はり・きゅう施術で生じやすい感染、傷害、折鍼、副作用などのリスクについて説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 第1章 概論 (授業の進め方、はり施術・きゅう施術の意義、特徴) 第2回 第2章 1 鍼の基礎知識 第3回 第2章 2 古代九鍼 第4回 第3章 刺鍼の方式と術式 1 第5回 第3章 刺鍼の方式と術式 2 第6回 第3章 刺鍼の方式と術式 3 第7回 第4章 特殊鍼法 1 第8回 第4章 特殊鍼法 2 第9回 第5章 灸の基礎知識 1 第10回 第5章 灸の基礎知識 2 第11回 第6章 灸術の種類 1 第12回 第6章 灸術の種類 2 第13回 第7章 リスク管理 1 第14回 第7章 リスク管理 2 第15回 第7章 リスク管理 3						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 はりきゅう理論、教科書執筆小委員会(著)、医道の 日本社				参考書 特になし		
14 学生への要望 はりきゅうの基礎となる部分なので、集中して講義に取り組むこと。講義は教科書の内容に沿った配布プリントを中心に進めるが、必ず、教科書の予習・復習を行うこと。 はり・きゅう施術についての知識を患者に説明できるように理解することが望ましい。						

はりきゅう理論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	襖田 和敏
8 授業の概要 はり師、きゅう師として必要な鍼灸施術の科学的解釈の状況を鑑み、現時点でおおよそ認知されている内容を理解する。						
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸による物理的な刺激が、生体にどのような機序で影響を及ぼすかを基礎医学の観点から理解することを目標とする。 【行動目標】 ①知識 解剖生理学の観点から、鍼灸治効の基礎について考え説明することができる。 神経系・内分泌系・免疫系の観点から、鍼灸療法の一般的治効理論について理解し説明することができる。 ②技能 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じることができ、自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識（イントロダクション 関連学説） 第2回 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識（生体の調節1） 第3回 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識（生体の調節2） 第4回 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識（感覚1） 第5回 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識（感覚2） 第6回 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識（熱傷） 第7回 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識（体表の反応） 第8回 鍼灸治効機序（鍼鎮痛1） 第9回 鍼灸治効機序（鍼鎮痛2） 第10回 鍼灸治効機序（循環系と鍼灸） 第11回 鍼灸治効機序（運動系・消化器系・泌尿器系と鍼） 第12回 鍼灸治効機序（リラクゼーション・生体防御系と鍼灸） 第13回 鍼灸治効機序（まとめ・調整） 第14回 鍼灸治効機序と臨床の接点1 第15回 鍼灸治効機序と臨床の接点2						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験、状況に応じて小テストを実施することがある。 ②技能 学科試験、状況に応じて小テストを実施することがある。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 はりきゅう理論、教科書執筆小委員会（著）、医道の日本社						
参考書 生理学、内田 さえ（著）、原田 玲子（著）、（公社）東洋療法学校協会（編集）、医歯薬出版社 必要に応じて適宜参考プリントを配布する。						
14 学生への要望 最低限1・2年生で学習した解剖生理学の知識があることを前提として授業を進める。留意のこと。 一度に多くを暗記しようとせず、教科書を何度も精読することが同科目の理解度を高めるポイントである。						

基礎はりきゅう学演習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	後期	1	30	必須	杉本 良子
8 授業の概要 1年次に履修する基礎医学、基礎はりきゅう学について理解を深める。						
9 到達目標 【一般目標】 1年次に履修する基礎医学、基礎はりきゅう学について理解を深める。 【行動目標】 ①知識 1年次に履修する基礎医学・基礎はりきゅう学に関する知識を修得する。 ②技能 自主的に学習することができる ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 基礎医学・基礎はりきゅう学1 第2回 基礎医学・基礎はりきゅう学2 第3回 基礎医学・基礎はりきゅう学3 第4回 基礎医学・基礎はりきゅう学4 第5回 基礎医学・基礎はりきゅう学5 第6回 基礎医学・基礎はりきゅう学6 第7回 基礎医学・基礎はりきゅう学7 第8回 基礎医学・基礎はりきゅう学8 第9回 基礎医学・基礎はりきゅう学9 第10回 基礎医学・基礎はりきゅう学10 第11回 基礎医学・基礎はりきゅう学11 第12回 基礎医学・基礎はりきゅう学12 第13回 基礎医学・基礎はりきゅう学13 第14回 基礎医学・基礎はりきゅう学14 第15回 まとめ（復習）						
11 学習方法 演習						
12 評価方法 ①知識 ②技能 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 はりきゅう理論、教科書執筆小委員会（著）、医道の日本社 参考書 課題や出席率にて評価する。						
14 学生への要望 前期で学んだ、はりきゅうについての基礎を復習し、実践する。講義は座学・実技を交えて行うため、集中して取り組むこと。授業をとおして、はりきゅうの重要性や楽しさについて尋ね評価する。						

東洋医学概論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	堤野 孟
8 授業の概要 病因病機や東洋医学的な診察方法を学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 1年で学習した内容をふまえ、弁証に必要な病因病機を理解する。 経絡経穴概論の流注から経脈病証を理解する。 東洋医学的な診察方法を学習し、臨床実習で必要とさせる基礎知識を身に付ける。 【行動目標】 ①知識 各臓腑経絡の病証を説明できる。 ②技能 東洋医学的な診断が行える。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 病因の復習 第2回 病因病機 (内生五邪) 第3回 蔵象の復習 第4回 肝、心の病証 第5回 脾、肺の病証 第6回 腎の病証、六腑の協調関係 第7回 病因病機 (伝変と波及) 第8回 病因病機 (伝変と波及) 第9回 五臓の相互関係 1 第10回 五臓の相互関係 2 第11回 五臓の相互関係 3 第12回 気機の相互関係 第13回 論治 概要、治法 第14回 論治 治法、治療法 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 新版 東洋医学概論、東洋療法学校協会 (著)、教科書 適宜紹介する 検討小委員会 (著)、医道の日本社						
14 学生への要望 一年次から連続した内容であるため、学んだことをもう一度よく復習して授業に臨むこと。						

東洋医学概論Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	堤野 孟
8 授業の概要 病因病機や東洋医学的な診察方法を学習する。 事前に配布されたプリントを授業までに各自で学習することで、授業での理解をより深める。						
9 到達目標 【一般目標】 東洋医学的な診察方法を学習し、臨床実習で必要な基礎知識を身に付ける。 学習した内容を適用し、弁証論治に役立てる。 【行動目標】 ①知識 四診法の意義を説明できる。 各臓腑経絡の病証を説明できる。 ②技能 東洋医学的な診断を行える。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授業計画 第1回 望診 神、色、形態など 第2回 望診 舌診など 第3回 切診 反応、経穴診、腹診 第4回 切診 脈診 第5回 切診 脈診、四診合参 第6回 聞診 呼吸音、異常音など 第7回 問診 基本的問診事項1 第8回 問診 基本的問診事項2 第9回 問診 その他の問診事項1 第10回 問診 その他の問診事項2 第11回 問診 その他の問診事項3 第12回 弁証論治 各種の弁証1 第13回 弁証論治 各種の弁証2 第14回 弁証論治 補瀉法、刺法、証の立て方 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 新版 東洋医学概論、東洋療法学校協会（著）、教科書 適宜紹介する 検討小委員会（著）、医道の日本社						
14 学生への要望 臓腑の生理・病理を踏まえたうえでの診察方法の学習である。東洋医学臨床論とも繋がる重要な範囲であるため、他の科目も意識しながら学習すること。						

生体観察

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	園 浩輔
8 授業の概要 医療者として、患者の全体像を把握する能力と局所の身体所見の診察と検査法の意義・陽性所見を理解する。 また、ペアでの演習や診察道具を使用することで体をつかって理解する。						
9 到達目標 【一般目標】 検査法に理解を深め、患者の病態把握に必要な力を養う。 知識をもとに患者の全体像を把握し、検査法を問う質問に解答することができる。 【行動目標】 ①知識 患者の全体像を把握し、検査法の意義、陽性所見が理解できる。 ②技能 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じることができ、自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 整形外科的検査法①（頸部・胸部の検査法） 第2回 整形外科的検査法②（肩・上肢の検査法） 第3回 整形外科的検査法③（下肢の検査法） 第4回 総合演習①（上肢の検査法の復習） 第5回 総合演習②（下肢の検査法の復習） 第6回 感覚検査法（表在・深部・複合感覚の検査） 第7回 反射検査①（表在反射など） 第8回 反射検査②（深部反射・自律神経・病的反射など） 第9回 背部の診察（側弯の分類など） 第10回 上肢の診察（下垂手、上肢の変形、下垂手、くも状指など） 下肢の診察（膝OA、尖足、外反母趾など） 第11回 脳神経系の検査①（第Ⅰ～Ⅵ脳神経） 第12回 脳神経系の検査②（第Ⅶ～Ⅻ脳神経） 第13回 髄膜刺激症状の検査、運動機能検査（運動麻痺、筋肉の異常） 第14回 運動機能検査（不随運動、協調運動、起立と歩行など） 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義（演習、授業開始時に前回までの確認試験を行う。）						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 臨床医学総論第2版、奈良 信雄（著）、（公社）東洋療 法学校協会（編集）、医歯薬出版社 「診察と手技がみえる vol.1」第2版 メディックメディア						
14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。 検査法は各種名称を数多く覚えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。 授業で音叉、ペンライト、打鍵器などを使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。						

病態生理学 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	中島 裕輔
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である感染症、消化管疾患の病態生理について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 あはき臨床に必要な感染症、消化管疾患の知識を修得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 取り扱う疾患の病態生理、疫学、症状、診断、治療、予後を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 授業での学びをまとめ、整理できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 感染症1 総論、細菌感染症（猩紅熱、百日咳、ジフテリア、破傷風） 第2回 感染症2 細菌感染症（ブドウ球菌感染症、細菌性食中毒、細菌性赤痢、コレラ） 第3回 感染症3 細菌感染症（腸チフス・パラチフス） ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎） 第4回 感染症4 ウイルス感染症（単純ヘルペス感染症、水痘・带状疱疹） 性感染症（梅毒、淋病） 第5回 感染症5 性感染症（性器クラミジア感染症、エイズ） 消化管疾患1 総論 第6回 消化管疾患2 口腔疾患（歯周病、顎関節症、その他の口腔疾患） 第7回 消化管疾患3 口腔疾患（その他の口腔疾患）、食道疾患（食道癌） 第8回 消化管疾患4 食道疾患（食道炎・食道潰瘍、その他の食道疾患） 第9回 消化管疾患5 胃・十二指腸疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍） 第10回 消化管疾患6 胃・十二指腸疾患（胃癌、その他の胃・十二指腸疾患） 第11回 消化管疾患7 腸疾患（急性腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病） 第12回 消化管疾患8 腸疾患（過敏性腸症候群(IBS)、虫垂炎、大腸癌） 第13回 消化管疾患9 腸疾患（腸閉塞、その他の腸疾患） 第14回 消化管疾患10 腹膜疾患（急性腹膜炎、結核性腹膜炎、癌性腹膜炎） 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 臨床医学各論第2版、奈良 信雄（著）、(公社)東洋 療法学校協会（編集）、医歯薬出版						
14 学生への要望 さまざまな疾患（病気）について学ぶ科目です。患者さんの体の異常を知るために必要な知識ですので、理解しながら学んでいきましょう。						

病態生理学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	中島 裕輔
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である肝胆膵疾患、呼吸器疾患の病態生理について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 あはき臨床に必要な肝胆膵疾患、呼吸器疾患の知識を修得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 取り扱う疾患の病態生理、疫学、症状、診断、治療、予後を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 授業での学びをまとめ、整理できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 肝臓疾患 1 総論、急性肝炎 第2回 肝臓疾患 2 慢性肝炎、薬物性肝障害、アルコール性肝障害 第3回 肝臓疾患 3 肝硬変、肝癌 第4回 肝臓疾患 4 その他の肝疾患（脂肪肝、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変） 胆道疾患 1 胆石・胆嚢炎・胆管炎 第5回 胆道疾患 2 胆嚢癌・総胆管癌、その他の胆嚢疾患（胆嚢ポリープ、胆嚢腺筋腫症） 第6回 膵臓疾患 1 総論、急性膵炎 第7回 膵臓疾患 2 慢性膵炎、膵癌 第8回 呼吸器疾患 1 総論、感染性呼吸器疾患（上気道炎） 第9回 呼吸器疾患 2 感染性呼吸器疾患（急性気管支炎、肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症） 第10回 呼吸器疾患 3 閉塞性呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患：COPD） 第11回 呼吸器疾患 4 アレルギー性疾患（気管支喘息） 拘束性呼吸器疾患（特異性肺線維症） 第12回 呼吸器疾患 5 その他の呼吸器疾患（気胸、肺癌、悪性中皮腫、アスベスト肺、珪肺） 第13回 呼吸器疾患 6 その他の呼吸器疾患（気管支拡張症、薬剤性肺障害、過換気症候群、肺動脈血栓塞栓症、睡眠時無呼吸症候群） 第14回 まとめ 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 臨床医学各論第2版、奈良 信雄(著)、(公社)東洋療法 学校協会(編集)、医歯薬出版						
14 学生への要望 さまざまな疾患(病気)について学ぶ科目です。患者さんの体の異常を知るために必要な知識ですので、理解しながら学んでいきましょう。						

病態生理学Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	中島 裕輔
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に必要な知識である神経疾患の病態生理について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 あはき臨床に必要な神経疾患の知識を修得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる 【行動目標】 ①知識 取り扱う疾患の病態生理、疫学、症状、診断、治療、予後を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 授業での学びをまとめ、整理できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 神経疾患 1 総論 第2回 神経疾患 2 脳血管疾患（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血発作） 第3回 神経疾患 3 脳血管疾患（脳出血、くも膜下出血）、感染性疾患（髄膜炎） 第4回 神経疾患 4 感染性疾患（神経梅毒、ポリオ、プリオン病）、脳・脊髄腫瘍（脳腫瘍） 第5回 神経疾患 5 脳・脊髄腫瘍（脳腫瘍・脊髄腫瘍）、基底核変性疾患（パーキンソン病） 第6回 神経疾患 6 基底核変性疾患（ハンチントン病、脳性小児麻痺、ウィルソン病） 第7回 神経疾患 7 その他の変性疾患（脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症） 第8回 神経疾患 8 認知症性疾患 （アルツハイマー病、アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、ピック病） 第9回 神経疾患 9 筋疾患（重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋強直性ジストロフィー） 運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症） 第10回 神経疾患 10 末梢神経疾患（ギランバレー症候群、圧迫性および絞扼性ニューロパシー） 第11回 神経疾患 11 末梢神経疾患（ベル麻痺、ラムゼイ・ハント症候群） 第12回 神経疾患 12 神経痛（三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛） 第13回 神経疾患 13 機能的頭痛（緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛） 第14回 神経疾患 14 その他神経・筋疾患（軽度認知障害、眼瞼けいれん、片側顔面けいれん、てんかん） 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 臨床医学各論第2版、奈良 信雄（著）、（公社）東洋 療法学校協会（編集）、医歯薬出版						
14 学生への要望 さまざまな疾患（病気）について学ぶ科目です。患者さんの体の異常を知るために必要な知識ですので、理解しながら 学んでいきましょう。						

病態生理学Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	後期	1	30	必須	中島 裕輔
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に必要な知識である小児科・外科・麻酔科・婦人科・皮膚科・眼科・耳鼻科・精神科・心療内科疾患の病態生理について学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 あはき臨床に必要な小児科・外科・麻酔科・婦人科・皮膚科・眼科・耳鼻科・精神科・心療内科疾患の病態生理の知識を修得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 取り扱う疾患の病態生理、疫学、症状、診断、治療、予後を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 授業での学びをまとめ、整理できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 小児科疾患（小児神経症、小児夜尿症） 第2回 一般外科1（損傷概論、熱傷、凍瘡、凍傷） 第3回 一般外科2（ショック、外科的感染症、救急処置、心肺蘇生術） 第4回 麻酔科（全身麻酔、局所麻酔） 第5回 婦人科疾患1（子宮頸癌、子宮体癌、乳癌、更年期障害） 第6回 婦人科疾患2（月経異常、月経前症候群、子宮内膜症、子宮筋腫） 第7回 皮膚科疾患（接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、じんま疹、円形脱毛症） 第8回 眼科疾患1（結膜炎、角膜炎、麦粒腫、白内障） 第9回 眼科疾患2（緑内障、眼精疲労、加齢黄斑変性症、飛蚊症、網膜剥離） 第10回 耳鼻科疾患（メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎） 第11回 精神科疾患1（神経症、統合失調症、うつ病） 第12回 精神科疾患2（不眠症、アルコール依存症、広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群）、PTSD） 第13回 心療内科（心身症、摂食障害（神経性食欲不振症、過食症）） 第14回 加齢に伴う病態（フレイル、ロコモ、サルコペニア） その他皮膚・頭頸部・乳房・精神・心身医学的疾患 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 臨床医学各論第2版、奈良 信雄（著）、（公社）東洋 療法学校協会（編集）、医歯薬出版						
14 学生への要望 ささまざまな疾患（病気）について学ぶ科目です。患者さんの体の異常を知るために必要な知識ですので、理解しながら学んでいきましょう。						

東洋医学臨床論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	大綱 直人
8 授業の概要 東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸臨床に必要な鑑別と施術計画の作成ができる。 【行動目標】 ①知識 鍼灸適応可否の鑑別、病態把握および治療計画が可能な知識を持つ。 ②技能 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じることができ、自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画						
第1回	頸肩腕痛(1)	①頸椎症 ②外傷性頸部症候群 ③頸椎椎間板ヘルニア 西洋医学に基づく治療: 普通鍼 鍼麻酔方式				
第2回	頸肩腕痛(2)	東洋医学に基づく治療: 痺証 { 風寒湿痺・風湿熱痺 }				
第3回	頸肩腕痛(3)	胸郭出口症候群 ①斜角筋症候群 ②過外転症候群 ③頸肋症候群 ④肋鎖症候群 西洋医学に基づく治療: 斜角筋 小胸筋 鎖骨下筋への刺鍼法				
第4回	頸肩腕痛(4)	肩こり(1) ①筋疲労 ②頸部・肩・胸郭疾患 ③関連痛 ④心因性 西洋医学に基づく治療: 頸肩背部筋の筋への刺鍼法				
第5回	頸肩腕痛(5)	肩こり(2) ①不良姿勢 ②ストレートネック ③スマホ症候群 西洋医学に基づく治療 病証: 肝血虚 肝陽亢進 寒飲 肝鬱気滞 (気滞血瘀)				
第6回	腰痛(1)	①筋・筋膜性腰痛 ②腰椎椎間板症 ③椎間関節性腰痛 西洋医学に基づく治療: 腰背部筋・殿部筋の筋への刺鍼法 椎間関節刺鍼法				
第7回	腰痛(2)	①変形性腰椎症 ②腰椎圧迫症 ③運動性腰痛 ④仙腸関節痛 西洋医学に基づく治療: 腰背部筋・殿部筋の筋への刺鍼法 椎間関節刺鍼法				
第8回	腰下肢痛(1)	①腰部脊柱管狭窄症 ②腰椎分離・すべり症 ③腰椎椎間板ヘルニア ④梨状筋症候群 西洋医学に基づく治療: 椎間関節刺鍼法 腰部神経刺鍼法 坐骨神経刺鍼法				
第9回	腰下肢痛(2)	腰下肢痛の痺証・病証				
第10回	肩関節痛(1)	①肩関節周囲炎 ②棘上筋腱板炎 ③上腕二頭筋長頭腱炎 西洋医学に基づく治療: 肩関節周囲の刺鍼法				
第11回	肩関節痛(2)	①癒着性肩峰下滑液包炎 (凍結肩) ②腱板疎部炎 西洋医学に基づく治療: 肩関節周囲の刺鍼法 肩関節痛の痺証 漏肩風				
第12回	膝痛(1)	①変形性膝関節症 ②骨粗鬆症 ③偽痛風 西洋医学に基づく治療: 膝関節周囲の刺鍼法				
第13回	膝痛(2)	膝痛の痺証 各関節痛における痺証のまとめ				
第14回	股関節痛	①変形性股関節症 ②先天性股関節亜脱臼 西洋医学に基づく治療: 股関節周囲の刺鍼法				
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版 東洋医学臨床論はりきゅう編、教科書検討小委員会 (著)、南江堂				参考書 「図解鍼灸療法技術ガイド I・II」文光堂 「針灸学 [臨床編]」東洋学術出版社		
14 学生への要望 東洋医学概論、経絡経穴概論の基礎知識なくしてこの科目を修得するのは困難です。基礎概念の復習をして下さい。						

東洋医学臨床論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	大綱 直人
8 授業の概要 東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸臨床に必要な鑑別と施術計画の作成ができる。 【行動目標】 ①知識 鍼灸適応可否の鑑別、病態把握および治療計画が可能な知識を持つ。 ②技能 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じることができ、自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画						
第1回	運動麻痺(1)	上肢 橈骨神経麻痺 正中神経麻痺 尺骨神経麻痺 西洋医学に基づく治療：上肢の神経絞扼部への刺鍼法				
第2回	運動麻痺(2)	下肢 総腓骨神経麻痺 脛骨神経麻痺 西洋医学に基づく治療：下肢の神経絞扼部への刺鍼法 脳血管障害後遺症				
第3回	便秘と下痢(1)	弛緩性・痙攣性・直腸性の慢性便秘 イレウス 西洋医学に基づく治療 便秘の病証				
第4回	便秘と下痢(2)	浸透圧性 滲出性 分泌性 腸管運動異常 西洋医学に基づく治療 下痢の病証				
第5回	便秘と下痢(3)	過敏性腸症候群 西洋医学に基づく治療 便秘・下痢の病証(まとめ)				
第6回	咳嗽と喀痰(1)	急性咳嗽 慢性咳嗽 湿性・乾性咳嗽 咳嗽・喀痰の病証(1)				
第7回	咳嗽と喀痰(2)	咳嗽・喀痰の病証(2)				
第8回	呼吸困難	①気管支喘息 ②慢性閉塞性肺疾患 西洋医学に基づく治療 呼吸困難の病証				
第9回	腹痛(1)	上腹部痛を呈する各疾患 上腹部痛の病証				
第10回	腹痛(2)	下腹部痛を呈する各疾患 下腹部痛の病証				
第11回	悪心・嘔吐	①機能性ディスぺシア ②逆流性食道炎 西洋医学に基づく治療 悪心嘔吐の病証				
第12回	月経異常(1)	①月経前症候群 ②月経困難症 ③更年期障害 経早の病証				
第13回	月経異常(2)	①不正性器出血 ②子宮内膜症 ③子宮筋腫 経遅の病証				
第14回	月経異常(3)	①性周期療法 ②基礎体温グラフ 経乱の病証				
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版 東洋医学臨床論はりきゅう編、教科書検討小委員会(著)、南江堂				参考書 「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」文光堂 「針灸学 [臨床編]」東洋学術出版社		
14 学生への要望 東洋医学概論、経絡経穴概論の基礎知識なくしてこの科目を修得するのは困難です。基礎概念の復習をして下さい。						

東洋医学臨床論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	久保 昌紀
8 授業の概要 施術所において実務経験のあるあはき師の見地から臨床問題解決能力を教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 授業計画に定めた症候・疾患について東西両医学の視点で様々な症候・疾患にアプローチできる。 【行動目標】 ①知識 授業計画に定めた症候・疾患について東西両医学の目線で説明ができる。 ②技能 自ら進んで授業に参加し、自身の考えを述べることができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画						
第1回	肥満とやせ(1)	①単純性肥満	②症候性肥満	肥満症の病証		
第2回	肥満とやせ(2)	やせの原因疾患	やせの病証			
第3回	食欲不振	①胃神経症	②神経性食欲不振症	食欲不振の病証		
第4回	排尿障害	①過活動膀胱	②慢性前立腺炎	西洋医学に基づく治療	排尿障害の病証	
第5回	浮腫(1)	①慢性下肢浮腫	②深部血栓静脈症	③全身硬化症(強皮症)	西洋医学に基づく治療	浮腫の病証
第6回	浮腫(2)	①局所性浮腫	②全身性浮腫	西洋医学に基づく治療: 陰水 陽水		
第7回	小児特有の症候(1)	症状 ①発熱	②扁桃炎	③咳と喘鳴	④腹痛	⑤発疹 ⑥嘔吐 ⑦下痢
		⑧便秘	⑨ひきつけ(痙攣)	⑩発達障害		小児鍼の概要
第8回	小児特有の症候(2)	①疳の虫	②夜尿症	西洋医学に基づく治療		小児疾患の病証
第9回	E D(勃起障害)	西洋医学に基づく治療		勃起障害の病証		
第10回	胸痛	①特異性肋間神経痛	②心筋梗塞	③狭心症	④気胸	
		西洋医学に基づく治療		胸痛の病証		
第11回	動悸・息切れ	①不整脈	②貧血	西洋医学に基づく治療	動悸・息切れの病証	
第12回	発疹	①蕁麻疹	②アトピー性皮膚炎、	発疹の病証		
第13回	発熱	①かぜ症候群	②慢性扁桃炎	③易感染	発熱の病証	
第14回	口渇	①糖尿病	②シェーングレ症候群	③癌治療に伴う口渇		
		西洋医学に基づく治療	口渇の病証	三消弁証		
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版 東洋医学臨床論はりきゅう編、教科書検討小委員会(著)、南江堂				参考書 「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」文光堂 「針灸学[臨床編]」東洋学術出版社		
14 学生への要望 自ら治療方針の確立、適切な処方ができるように学習に取り組んで下さい。						

東洋医学臨床論Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	後期	1	30	必須	禊田 和敏
8 授業の概要 東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 授業計画に定めた症候・疾患について東西両医学の視点で様々な症候・疾患にアプローチできる。 【行動目標】 ①知識 授業計画に記した項目について説明できる。 ②技能 自ら進んで授業に参加できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 演習① 第2回 演習② 第3回 演習③ 第4回 演習④ 第5回 出血傾向 第6回 不正性器出血 第7回 帯下 第8回 不妊症① 第9回 不妊症② 第10回 つわり 第11回 骨盤位（逆子） 第12回 乳汁分泌不全 第13回 まとめ 第14回 評価 第15回 総評						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版 東洋医学臨床論はりきゅう編、教科書検討小委員会（著）、南江堂				参考書 「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」文光堂 針灸学 [臨床編] 東洋学術出版社		
14 学生への要望 今までに学んだ科目（臨床医学各論・臨床医学総論・生理学・東洋医学概論・経絡経穴概論など）の知識が総合して求められる分野です。関連科目の復習を行った上で授業に臨むようにしましょう。						

東洋医学臨床論Ⅴ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	中島 裕輔
8 授業の概要 実際に患者を前にした際、あん摩マッサージ指圧の知識と技術を使って適切な治療や判定・方針決定を行えるよう、幅広い知識の組み替えや臨床的思考を学ぶ。						
9 到達目標 【一般目標】 各症候に対して手技による施術の治療方針を組み立てることができる。当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 各症候の禁忌・適応を説明できる。各症例に対し、適切な手技を選択できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション 第2回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 頭痛、顔面痛 第3回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 めまい、耳鳴り、難聴 第4回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 肩こり、頸肩腕痛 第5回 グループワーク（肩こり、頸肩腕痛に対する施術案策定） 第6回 グループワーク（肩こり、頸肩腕痛に対する施術） 第7回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 腰下肢 第8回 グループワーク（腰下肢痛に対する施術案策定） 第9回 グループワーク（腰下肢痛に対する施術） 第10回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 膝痛、腹痛 第11回 グループワーク（その他疾患に対する施術案策定） 第12回 グループワーク（その他疾患に対する施術） 第13回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 肩関節痛、上肢痛 第14回 復習・まとめ 第15回 復習・まとめ						
11 学習方法 講義（演習・グループワーク）						
12 評価方法 ①知識 定期試験、グループワークにて評価する。 ②技能 定期試験、グループワークにて評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 東洋医学臨床論あん摩マッサージ指圧編、教科書執筆 各授業科目の教科書 小委員会（著）、医道の日本社						
14 学生への要望 東洋医学臨床論はりきゅう編、経絡経穴概論、解剖学など併せて学習することで理解が深まる科目である。関係科目を参照しながら学習に臨むこと。						

あん摩マッサージ指圧の適応（指圧実技とその適応）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	中島 裕輔
<p>8 授業の概要</p> <p>治療を行う上で必要なのは、指圧の技術と患者に向かう心構えである。心地が良くて治療効果があがる、これが本来の指圧治療である。力任せでは自分の体力の限界を超え、拇指と身体を痛めることになる。不調に苦しんでいる方は、皆さんの確かな指圧技術を待ち望んでいる。その時のためにしっかりと技術をみがいていくことを目標とする。</p>						
<p>9 到達目標</p> <p>【一般目標】 指圧の基本手技をしっかりと身に付ける。</p> <p>【行動目標】</p> <p>①知識 指圧の効能、施術の組立、刺激量と施術時間、適応が説明できる。 ②技能 基本手技（通常圧法・持続圧法・緩圧法・衝圧法）を使い分けることができる。 ③態度 気持ちを整えて実技に臨めるようになる。 実技授業中は集中して学べるようになる。</p>						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>第1回 ガイダンス 基本操作 押圧の基本 押圧の三原則 押圧の程度 部位 第2回 背部を用いての基本圧法 通常圧法・持続圧法・緩圧法・衝圧法 第3回 身体各部への施術 座位（肩背部） 第4回 身体各部への施術 伏臥位1（肩甲上部、肩甲間部、肩甲下部～腰部） 第5回 身体各部への施術 伏臥位2（肩甲上部、肩甲間部、肩甲下部～腰部） 第6回 身体各部への施術 側臥位1（肩甲上部、肩甲間部、肩甲下部～腰部） 第7回 身体各部への施術 側臥位2（肩甲上部、肩甲間部、肩甲下部～腰部） 第8回 身体各部への施術 伏臥位（下肢後側） 第9回 身体各部への施術 仰臥位（下肢前側、内側） 第10回 身体各部への施術 座位、伏臥位、仰臥位（頭部） 第11回 身体各部への施術 座位、伏臥位、側臥位（頸部） 第12回 身体各部への施術 仰臥位（顔面部） 第13回 身体各部への施術 仰臥位（胸部、腹部） 第14回 身体各部への施術 仰臥位（上肢） 第15回 まとめ</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>実習（教員のデモンストレーションのあと、二人一組による実技演習を行う。個別指導。）</p>						
<p>12 評価方法</p> <p>①知識 定期試験で評価する。 ②技能 定期試験で評価する。 ③態度 定期試験で評価する。</p>						
13 教科書			参考書			
<p>14 学生への要望</p> <p>自分の健康増進に役立てることができるのも、この授業のメリットである。平素の授業態度を重視する。</p>						

はりきゅうの適応 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	大綱 直人
8 授業の概要 東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。 あはき臨床に遭遇する様々な愁訴を観察し、その適否を鑑別するための基礎を養う。						
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸臨床に必要な鑑別と施術計画の作成ができる。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 鍼灸適応可否の鑑別、病態把握および治療計画について説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画						
第1回	頭痛(1)	西洋医学に基づく治療	①一次性頭痛	②二次性頭痛		
第2回	頭痛(2)	東洋医学に基づく治療	頭痛の病証			
第3回	顔面痛(1)	西洋医学に基づく治療	①特発性三叉神経痛	②持続性特発性顔面痛	③顎関節症	
			④アイペイン			
第4回	顔面痛(2)	東洋医学に基づく治療	顔面痛の病証			
第5回	顔面神経麻痺(1)	西洋医学に基づく治療	①ベル麻痺	②ハント症候群	③聴神経鞘腫	④顔面麻痺後遺症
第6回	顔面神経麻痺(2)	東洋医学に基づく治療	顔面神経麻痺の病証			
第7回	歯痛	西洋医学に基づく治療	歯痛の病証			
第8回	眼精疲労	西洋医学に基づく治療	①緑内障	②白内障	眼精疲労の病証	
第9回	鼻閉・鼻汁(1)	西洋医学に基づく治療	①アレルギー性鼻炎	②急性鼻炎	③慢性鼻炎	
第10回	鼻閉・鼻汁(2)	東洋医学に基づく治療	鼻閉・鼻汁の病証			
第11回	脱毛	西洋医学に基づく治療	①円形脱毛症	②男性脱毛症	脱毛の病証	
第12回	眩暈(1)	西洋医学に基づく治療	①末梢性めまい	②中枢性めまい		
第13回	眩暈(2)	東洋医学に基づく治療	眩暈の病証			
第14回	耳鳴・難聴(1)	西洋医学に基づく治療	①突発性難聴	②耳管狭窄症	③メニエール病	
第15回	耳鳴・難聴(2)	東洋医学に基づく治療	耳鳴・難聴の病証			
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版 東洋医学臨床論はりきゅう編、教科書検討小委員会(著)、南江堂			参考書 「図解鍼灸療法技術ガイド — 鍼灸臨床の場で必ず役立つ実践のすべて I・II」文光堂 「針灸学 [臨床編]」東洋学術出版社			
14 学生への要望 東洋医学概論、経絡経穴概論の基礎知識なくしてこの科目を修得するのは困難です。基礎概念の復習をして下さい。						

はりきゅうの適応Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																													
専門	2年	後期	1	30	必須	大網 直人																																													
8 授業の概要 東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。 あはき臨床で遭遇する様々な愁訴を観察し、その適否を鑑別するための基礎を養う。																																																			
9 到達目標 【一般目標】 授業計画に記した症候や疾患について、 ①科学的根拠に基づいた考え ②伝統医学の良さを尊重した考えを基軸に置き、はりきゅうの適否を判断する上で必要な知識を養う。 【行動目標】 ①知識 授業計画に記した各内容に関する問いに解答することができる。 ②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめることができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。																																																			
10 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第1回</td> <td style="width: 30%;">スポーツ領域における鍼灸治療1</td> <td style="width: 60%;">概論、疼痛（打撲、捻挫、肉離れ、脱臼、骨折）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>スポーツ領域における鍼灸治療2</td> <td>野球肩、野球肘、テニス肘、狭窄性腱鞘炎、TFCC。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>スポーツ領域における鍼灸治療3</td> <td>運動性腰痛、オスグット病、ジャンパー膝、腸脛靭帯炎。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>スポーツ領域における鍼灸治療4</td> <td>シンスプリント、コンパートメント症候群、アキレス腱炎、足底腱膜炎。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>関節痛</td> <td>西洋医学： 関節リウマチ、ペーチェット病、SLE、痛風、化膿性関節炎など。 東洋医学： 関節痛の病証、痺証、類風湿痺。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>冷え</td> <td>西洋医学： 下半身型、四指末端型、内蔵型、全身型。 東洋医学： 冷えの病証。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>のぼせ</td> <td>西洋医学： 更年期障害、熱中症。 東洋医学： のぼせの病証。</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>睡眠障害</td> <td>西洋医学： 不眠症。東洋医学： 不眠、嗜睡。</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>疲労と倦怠感</td> <td>西洋医学： 甲状腺機能低下症、鉄欠乏性貧血。 東洋医学： 疲労と倦怠感の病証。</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>血圧異常</td> <td>西洋医学： 本態性高血圧、本態性低血圧、二次性高血圧、二次性低血圧。 東洋医学： 高血圧、低血圧の病証。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>高齢者特有の症候1</td> <td>西洋医学： ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル。 認知症（アルツハイマー病、MCI 血管性、レビー小体型）</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>高齢者特有の症候2</td> <td>東洋医学： 老年の生理的な特徴、認知症の病証。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>気分障害1</td> <td>西洋医学： うつ病、双極性障害、統合失調症、不安障害、慢性疼痛。</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>気分障害2</td> <td>東洋医学： 気分障害の病証。</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>総復習</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	スポーツ領域における鍼灸治療1	概論、疼痛（打撲、捻挫、肉離れ、脱臼、骨折）	第2回	スポーツ領域における鍼灸治療2	野球肩、野球肘、テニス肘、狭窄性腱鞘炎、TFCC。	第3回	スポーツ領域における鍼灸治療3	運動性腰痛、オスグット病、ジャンパー膝、腸脛靭帯炎。	第4回	スポーツ領域における鍼灸治療4	シンスプリント、コンパートメント症候群、アキレス腱炎、足底腱膜炎。	第5回	関節痛	西洋医学： 関節リウマチ、ペーチェット病、SLE、痛風、化膿性関節炎など。 東洋医学： 関節痛の病証、痺証、類風湿痺。	第6回	冷え	西洋医学： 下半身型、四指末端型、内蔵型、全身型。 東洋医学： 冷えの病証。	第7回	のぼせ	西洋医学： 更年期障害、熱中症。 東洋医学： のぼせの病証。	第8回	睡眠障害	西洋医学： 不眠症。東洋医学： 不眠、嗜睡。	第9回	疲労と倦怠感	西洋医学： 甲状腺機能低下症、鉄欠乏性貧血。 東洋医学： 疲労と倦怠感の病証。	第10回	血圧異常	西洋医学： 本態性高血圧、本態性低血圧、二次性高血圧、二次性低血圧。 東洋医学： 高血圧、低血圧の病証。	第11回	高齢者特有の症候1	西洋医学： ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル。 認知症（アルツハイマー病、MCI 血管性、レビー小体型）	第12回	高齢者特有の症候2	東洋医学： 老年の生理的な特徴、認知症の病証。	第13回	気分障害1	西洋医学： うつ病、双極性障害、統合失調症、不安障害、慢性疼痛。	第14回	気分障害2	東洋医学： 気分障害の病証。	第15回	総復習	
第1回	スポーツ領域における鍼灸治療1	概論、疼痛（打撲、捻挫、肉離れ、脱臼、骨折）																																																	
第2回	スポーツ領域における鍼灸治療2	野球肩、野球肘、テニス肘、狭窄性腱鞘炎、TFCC。																																																	
第3回	スポーツ領域における鍼灸治療3	運動性腰痛、オスグット病、ジャンパー膝、腸脛靭帯炎。																																																	
第4回	スポーツ領域における鍼灸治療4	シンスプリント、コンパートメント症候群、アキレス腱炎、足底腱膜炎。																																																	
第5回	関節痛	西洋医学： 関節リウマチ、ペーチェット病、SLE、痛風、化膿性関節炎など。 東洋医学： 関節痛の病証、痺証、類風湿痺。																																																	
第6回	冷え	西洋医学： 下半身型、四指末端型、内蔵型、全身型。 東洋医学： 冷えの病証。																																																	
第7回	のぼせ	西洋医学： 更年期障害、熱中症。 東洋医学： のぼせの病証。																																																	
第8回	睡眠障害	西洋医学： 不眠症。東洋医学： 不眠、嗜睡。																																																	
第9回	疲労と倦怠感	西洋医学： 甲状腺機能低下症、鉄欠乏性貧血。 東洋医学： 疲労と倦怠感の病証。																																																	
第10回	血圧異常	西洋医学： 本態性高血圧、本態性低血圧、二次性高血圧、二次性低血圧。 東洋医学： 高血圧、低血圧の病証。																																																	
第11回	高齢者特有の症候1	西洋医学： ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル。 認知症（アルツハイマー病、MCI 血管性、レビー小体型）																																																	
第12回	高齢者特有の症候2	東洋医学： 老年の生理的な特徴、認知症の病証。																																																	
第13回	気分障害1	西洋医学： うつ病、双極性障害、統合失調症、不安障害、慢性疼痛。																																																	
第14回	気分障害2	東洋医学： 気分障害の病証。																																																	
第15回	総復習																																																		
11 学習方法 講義																																																			
12 評価方法 ①知識 学科試験 ②技能 学科試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。																																																			
13 教科書 毎回資料を配布する。東洋医学臨床論はりきゅう編、 教科書執筆小委員会（著）、南江堂																																																			
参考書 図解 鍼灸療法技術ガイド II： 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて、矢野 忠、文光堂 参考・出典・引用は毎回プリントに明記しておく。																																																			
14 学生への要望 スポーツ障害の疾患は現代医学に基づいた治療方針を考えられるように学んで欲しい。 スポーツ選手は局所患部の施術だけではなく、心身のケアも必要となる。気分障害、睡眠障害、疲労・倦怠感などの 症候も関連付けて学ぶ必要がある。高齢者の症候も同様に関節痛、冷え・のぼせ、睡眠障害、疲労・倦怠感、血圧異 常、気分障害などの症候を関連付けて学んで欲しい。																																																			

社会あん摩マッサージ指圧はりきゅう学Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	通年	1	30	必須	大網・中島ら
8 授業の概要 普段の授業の枠を超え、一般社会やあはき業界に目を向け、幅広い専門教養を身に付ける。						
9 到達目標 【一般目標】 プロフェッショナリズム（公益性、専門性、道徳性）教育を通じ、望ましいあはき師像を考える。 自信のキャリア教育を考える。 【行動目標】 ①知識 授業計画にある各種行事を経験する。 ②技能 授業計画にある各種行事やについて、それぞれにふさわしい準備や行動ができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授業計画 第1回 ガイダンス・オリエンテーション 第2回 これまでの学びの確認1 第3回 これまでの学びの確認2 第4,5回 学外施術所体験学習 発表準備 第6,7回 学外施術所体験学習 発表 第8,9回 生涯学習(あはきに関する学術研修) 第10,11回 キャリア支援 第12,13回 特別授業(サッカー競技応援サポート) 第14,15回 特別授業(著名な臨床家の講話) ※順不同。						
11 学習方法 演習(講義・実習)						
12 評価方法 ①知識 各種行事への参加状況、提出されたノートで評価する。 ②技能 各種行事への参加状況、提出されたノートで評価する。 ③態度 各種行事への参加状況、提出されたノートで評価する。						
13 教科書				参考書		
14 学生への要望						

社会あん摩マッサージ指圧はりきゅう学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	通年	1	30	必須	久保・小泉ら
8 授業の概要 普段の授業の枠を超え、一般社会やあはき業界に目を向け、幅広い専門教養を身に付ける。						
9 到達目標 【一般目標】 学外の施術所業務における見学・補助を通じてキャリア支援の機会とする。 あはき国家試験制度や免許制度の概要を知る。 【行動目標】 ①知識 授業計画にある各種行事、イベントを経験する。 ②技能 授業計画にある各種行事、イベントについて TP0 に応じた行動が体现できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション 第2回 学力の確認1 第3回 スポーツ社会学実習 第4回 スポーツイベント・プロデュース 第5回 子どもの健全な発育について 第6回 キャリア支援1 第7回 キャリア支援2 第8回 技能の確認1 第9回 技能の確認2 第10回 学力の確認2 第11回 学力の確認3 第12回 学力の確認4 第13回 学力の確認5 第14回 ボランティア活動（地域貢献） 第15回 ボランティア活動（鍼灸の普及） ※順不同						
11 学習方法 演習（講義）						
12 評価方法 ①知識 各種行事への参加状況、提出されたレポートで評価する。 ②技能 各種行事への参加状況、提出されたレポートで評価する。 ③態度 各種行事への参加状況、提出されたレポートで評価する。						
13 教科書 参考書						
14 学生への要望						

社会はりきゅう学 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	通年	1	30	必須	大網・中島ら
8 授業の概要 普段の授業の枠を超え、一般社会やはき業界に目を向け、幅広い専門教養を身に付ける。						
9 到達目標 【一般目標】 プロフェッショナルリズム（公益性、専門性、道徳性）教育を通じ、望ましいはき師像を考える。 自信のキャリア教育を考える。 【行動目標】 ①知識 授業計画にある各種行事を経験する。 ②技能 授業計画にある各種行事やについて、それぞれにふさわしい準備や行動ができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 ガイダンス・オリエンテーション 第2回 これまでの学びの確認1 第3回 これまでの学びの確認2 第4,5回 学外施術所体験学習 発表準備 第6,7回 学外施術所体験学習 発表 第8,9回 生涯学習(あはきに関する学術研修) 第10,11回 キャリア支援 第12,13回 特別授業(サッカー競技応援サポート) 第14,15回 特別授業(著名な臨床家の講話) ※順不同。						
11 学習方法 演習(講義・実習)						
12 評価方法 ①知識 各種行事への参加状況、提出されたノートで評価する。 ②技能 各種行事への参加状況、提出されたノートで評価する。 ③態度 各種行事への参加状況、提出されたノートで評価する。						
13 教科書				参考書		
14 学生への要望						

社会はりきゅう学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	通年	1	30	必須	小泉・久保ら
8 授業の概要 普段の授業の枠を超え、一般社会やあはき業界に目を向け、幅広い専門教養を身に付ける。						
9 到達目標 【一般目標】 学外の施術所業務における見学・補助を通じてキャリア支援の機会とする。 あはき国家試験制度や免許制度の概要を知る。 【行動目標】 ①知識 授業計画にある各種行事、イベントを経験する。 ②技能 授業計画にある各種行事、イベントについて TP0 に応じた行動が体现できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 学力の確認1 第3回 スポーツ社会学実習 第4回 スポーツイベント・プロデュース 第5回 子どもの健全な発育について 第6回 キャリア支援1 第7回 キャリア支援2 第8回 技能の確認1 第9回 技能の確認2 第10回 学力の確認2 第11回 学力の確認3 第12回 学力の確認4 第13回 学力の確認5 第14回 ボランティア活動（地域貢献） 第15回 ボランティア活動（鍼灸の普及） ※順不同						
11 学習方法 演習（講義）						
12 評価方法 ①知識 各種行事への参加状況、提出されたレポートで評価する。 ②技能 各種行事への参加状況、提出されたレポートで評価する。 ③態度 各種行事への参加状況、提出されたレポートで評価する。						
13 教科書 参考書						
14 学生への要望						

基礎あん摩マッサージ指圧実技 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	前期	1	30	必須	大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要 施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、あん摩手技の基礎を教授する。 治療家としての“いい手”を作る。その第1歩が“あん摩”である。 あん摩は、さする、もむ、押す、振わす、叩くなどの手技が複合して出来ている。1年次では、各基本手技を的確に行えるようになることが目標である。						
9 到達目標 【一般目標】 座位を中心とした身体各部位の基本あん摩を上手に行うことができる。 【行動目標】 ①知識 施術部位に関する解剖学的情報を説明できる。 ②技能 腕全体、体、左右の手、立ち位置にまで配慮して施術できる。 あん摩マッサージ指圧理論で学んだ内容を実技として実践できる。 時間を配慮した施術が行えるようになる。 ③態度 自分の気持ちを整えて施術する習慣が身につく。 望ましい姿勢と言葉遣いが習慣化される。						
10 授 業 計 画 第1回 あん摩マッサージ指圧の歴史、違いと特徴について 基本手技1 軽擦法、揉捏法、圧迫法 第2回 基本手技2 叩打法、曲手、振せん法、運動法 第3回 基本手技の復習 第4回 身体各部位のあん摩 肩背部 1 第5回 身体各部位のあん摩 肩背部 2 第6回 身体各部位のあん摩 頸部 第7回 身体各部位のあん摩 上肢 1 第8回 身体各部位のあん摩 上肢 2 第9回 身体各部位のあん摩 腰部 第10回 肩背部から腰部までの復習 1 第11回 肩背部から腰部までの復習 2 第12回 身体各部位のあん摩 下肢 1 第13回 身体各部位のあん摩 下肢 2 第14回 身体各部位のあん摩 頭部 第15回 身体各部位のあん摩 胸腹部						
11 学習方法 実習（実技のデモンストレーションのあと、学生同士で実技反復練習）						
12 評価方法 ①知識 実技試験を実施し評価する。 ②技能 実技試験を実施し評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 あん摩マッサージ指圧実技 基礎編、教科書執筆小委員会（著）、東洋療法学校協会、医道の日本社						
14 学生への要望 手技は根気よく反復修練すること。また、施術に当たっては集中し気持ちを込めて丁寧に行うこと。 手技療法の最も大きな価値は心地よさを提供できるところにある。さらに手技は洗練されなければならない。						

基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	後期	1	30	必須	大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要 施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、マッサージ手技の基礎を教授する。 前期のあん摩に続き、後期はマッサージの基本手技を学ぶ。 さする、もむ、押す、振わす、叩くなどの手技はあん摩とほぼ同じだが、マッサージは皮膚直接に滑剤を用いて求心性に行うのが特徴である。手技と手技の移り変わりは途切れることなく連続的かつ滑らかに出来るようにする。 あん摩と同様、術者は、①右手、左手をどこに置き、②どの位置に立ち、③どこをみて、④どのように行うか、⑤さらに何をしようとしているのかを常に意識して学ぶこと。						
9 到達目標 【一般目標】 人体の構造を理解し身体各部位のマッサージを行うことができる。 【行動目標】 ①知識 施術部位に関する解剖学的情報を説明できる。 ②技能 腕全体、体、左右の手、立ち位置にまで配慮して施術することができる。 あん摩マッサージ指圧理論で学んだ内容を実技として実践できる。 時間を配慮した施術が行えるようになる。 ③態度 自分の気持ちを整えて施術する習慣が身につく。 望ましい姿勢と言葉遣いが習慣化される。						
10 授 業 計 画 第1回 基本手技（軽擦法、揉捏法 強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法）の練習1 第2回 基本手技（軽擦法、揉捏法 強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法）の練習2 第3回 身体各部位のマッサージ 手部 第4回 身体各部位のマッサージ 前腕部 第5回 身体各部位のマッサージ 上腕部 第6回 身体各部位のマッサージ 足部 第7回 身体各部位のマッサージ 下腿部 第8回 身体各部位のマッサージ 大腿部 第9回 身体各部位のマッサージ 腰背部 第10回 身体各部位のマッサージ 頸部・頭部 第11回 身体各部位のマッサージ 胸部 第12回 身体各部位のマッサージ 腹部 第13回 身体各部位のマッサージ 顔面部 第14回 身体各部位のマッサージ まとめ1 第15回 身体各部位のマッサージ まとめ2						
11 学習方法 実習（実技のデモンストレーションのあと、学生同士で実技反復練習）						
12 評価方法 ①知識 基本手技が身体各部位に適切に行えるかどうか実技試験を実施し評価する。 ②技能 基本手技が身体各部位に適切に行えるかどうか実技試験を実施し評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 あん摩マッサージ指圧実技 基礎編、教科書執筆小委員会（著）、東洋療法学校協会、医道の日本社						
14 学生への要望 手技は根気よく反復修練すること。また、施術に当たっては集中し気持ちを込めて丁寧に行うこと。 手技療法の最も大きな価値は心地よさを提供できるところにある。さらに、手技は洗練されなければならない。						

基礎はり実技 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	前期	1	30	必須	杉本 良子 (はき師)
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるはき師の見地から、基礎はり技術について教授する。 医療者としての身だしなみや衛生管理を身につける。 鍼の基本技術を習得するため刺鍼練習器や自身の身体に刺鍼練習を行う。						
9 到達目標 【一般目標】 はり師に必要な基礎知識と基本技術を修得し、施術を安全かつ確実に行える能力・態度を身につけることができる。 【行動目標】 ①知識 臨床家としての身だしなみ、衛生管理を身につけることができる。 鍼道具の使い方を理解し刺鍼の一連の流れを理解することができる。 ②技能 片手挿管（10回/分）と自身・他者への無痛切皮ができる。 自身の下腿にステンレス鍼・銀鍼（直刺、斜刺 1cm 送り込み刺法）の刺鍼ができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション（前期の目標、道具の確認など）、手洗い、手の運動 第2回 片手挿管、刺鍼の一連の流れ（消毒、前揉捻、押手、刺手、弾入・切皮、抜鍼、後揉捻、消毒） オートクレープの使い方 第3回 片手挿管、送り込み刺法（刺鍼練習台 ステンレス鍼 直刺1cm） 第4回 片手挿管、旋捻刺法（刺鍼練習台 銀鍼 直刺1cm）、堅もの通し 第5回 片手挿管のタイム測定、送り込み・旋捻刺法（刺鍼練習台 直刺、斜刺、1cm） 堅もの通し 第6回 自身（下腿）への無痛切皮（消毒、前揉捻、押手、刺手、弾入・切皮、抜鍼、後揉捻、消毒） 第7回 自身（下腿）への送り込み刺法（ステンレス鍼 直刺、斜刺、1cm） 第8回 自身（下腿）への旋捻刺法（銀鍼 直刺、1cm） 第9回 自身（下腿）への送り込み・旋捻刺法（直刺、斜刺1cm） 2本刺鍼する練習 第10回 他者（前腕部）への消毒、無痛切皮 3本刺鍼する練習 第11回 片手挿管の試験（10回/分） 第12回 自身（下腿）への送り込み・旋捻刺法（直刺、斜刺 1cm） 第13回 自身（下腿）への送り込み・旋捻刺法（直刺、斜刺 1cm 3本4分以内タイム測定） 第14回 人体刺鍼の試験 第15回 人体刺鍼の試験						
11 学習方法 実習（履修内容別に指導教員によるデモンストレーションおよび各自の実技演習（2人1組による実技演習含む）を行う。毎授業の初めに指の運動、片手挿管の測定を行う。）						
12 評価方法 ①知識 実技試験を実施し評価する。 ②技能 実技試験を実施し評価する。 ③態度 身だしなみ、出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 参考書 はりきゅう実技基礎編、教科書執筆小委員会（著）、医 道の本社 「鍼灸医療安全ガイドライン」 医歯薬出版						
14 学生への要望 持ち物：鍼道具、教科書、筆記用具、指定のバスタオル ・実技中は無駄な私語は慎み、教員の指示以外の事は事故に繋がる恐れがあるので行わないこと。 ・授業終了5分前に実技室の掃除をしますのでクラスで協力して行うこと。 ・授業で行う指の運動や片手挿管は、刺鍼するうえで重要な動きなので授業外でも練習をすること。						

基礎はり実技Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	後期	1	30	必須	杉本 良子（はき師）
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるはき師の見地から、基礎はり技術について教授する。 医療者としての身だしなみや衛生管理を身につける。 鍼の基本技術を習得するため刺鍼練習器や自身と他者の身体に刺鍼練習を行う。						
9 到達目標 【一般目標】 はり師に必要な基礎知識と基本技術を修得し、施術を安全かつ確実に行える能力・態度を身につけることができる。 【行動目標】 ①知識 臨床家としての身だしなみ、衛生管理を身につけることができる。 鍼道具の使い方を理解し刺鍼の一連の流れを理解することができる。 ②技能 他者の身体にステンレス鍼・銀鍼（直刺、斜刺、水平刺 1cm）の刺鍼ができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション（後期の目標など）、前期の復習（片手挿管、刺鍼練習器・自身の下腿への刺鍼 1cm） 第2回 人体への円皮鍼・皮内鍼 第3回 刺鍼練習台 旋撚刺法（刺鍼練習台 銀鍼 1cm）直刺・斜刺、相手への直刺 1cm 刺入 第4回 自身（下腿）へ旋撚刺法（銀鍼 1cm）直刺、相手への斜刺 1cm 刺入 第5回 自身と他者（下腿）への刺鍼（送り込み刺法 水平刺 1cm、旋撚刺法 直刺 1cm） 第6回 他者への刺鍼（送り込み刺法 旋撚刺法 1cm） 第7回 他者への刺鍼（送り込み刺法 旋撚刺法 1cm） 第8回 他者への刺鍼（送り込み刺法 旋撚刺法 1cm） 第9回 片手挿管の試験（12回/分） 第10回 他者への刺鍼（銀鍼 旋撚刺法・硬鍼 送り込み刺法：直刺・斜刺・水平刺 1cm） 第11回 他者への刺鍼（銀鍼 旋撚刺法・硬鍼 送り込み刺法：直刺・斜刺・水平刺 1cm タイム測定） 第12回 他者への刺鍼（銀鍼 旋撚刺法・硬鍼 送り込み刺法：直刺・斜刺・水平刺 1cm タイム測定） 第13回 人体刺鍼の試験 第14回 人体刺鍼の試験 第15回 他者への刺鍼						
11 学習方法 実習（履修内容別に指導教員によるデモンストレーションおよび各自の実技演習（2人1組による実技演習含む）を行う。毎授業の初めに指の運動、片手挿管の測定を行う。）						
12 評価方法 ①知識 実技試験を実施し評価する。 ②技能 実技試験を実施し評価する。 ③態度 身だしなみ、出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 参考書 はりきゅう実技基礎編、教科書執筆小委員会（著）、医 「鍼灸医療安全ガイドライン」 医歯薬出版 道の日本社						
14 学生への要望 持ち物：鍼道具、教科書、筆記用具、指定のバスタオル ・実技中は無駄な私語は慎み、教員の指示以外の事は事故に繋がる恐れがあるので行わないこと。 ・授業終了5分前に実技室の掃除をするのでクラスで協力して行うこと。 ・授業で行う指の運動や片手挿管は、刺鍼するうえで重要な動きなので授業外でも練習をすること。						

基礎きゅう実技 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	前期	1	30	必須	大網 直人（あはき師）
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるはき師の見地から、きゅう師に必要な基礎知識と基本技術、施術を能力・態度について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 灸師に必要な基礎知識と基本技術を修得し、施術を安全かつ心地よいお灸を確実にできる能力・態度を養う。当該科目を実践することの重要性や知識、楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 手洗い・消毒法・タオルワーク・危険行為に関する注意点を列挙できる。 ②技能 灸の種類、使い方を理解し、施灸〔こより、すえる、点火（線香を持つ、灰をはらう、点火）〕の一連の流れを身に付ける。 米粒大の透熱灸が正確にすえることができる。竹の上に3点3壮を3分間で15壮以上できる。 温灸、隔物灸についても体験し、施灸できるように技術の習得、灸の知識を深める。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授業計画 第1回 ガイダンス：紹介 第2回 艾炷づくり【こより】 第3回 艾炷づくり【置き方】 第4回 点火の方法 第5回 竹上：三点三壮1【基本】 第6回 竹上：三点三壮2【形】 第7回 竹上：三点三壮3【柔らかさ】 第8回 竹上：三点三壮4【大きさ】 第9回 MOXASを用いた温度計測1 第10回 紙上施灸 第11回 間接灸1 第12回 間接灸2 第13回 試験説明・棒灸 第14回 総合練習 第15回 評価						
11 学習方法 実習						
12 評価方法 ①知識 実技試験を実施し評価する。 ②技能 実技試験を実施し評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 はりきゅう実技基礎編、教科書執筆小委員会（著）、医道の日本社						
14 学生への要望 持ち物：灸道具、教科書、筆記用具、指定のバスタオル ・実技中は無駄な私語は慎み、教員の指示以外の事は事故に繋がる恐れがあるので行わないこと。 ・授業終了5分前に実技室の掃除をしますのでクラスで協力して行うこと。 ・基礎的な実技能力を習得するのは授業内での時間では不十分である。授業で得た手技を自宅や放課後に練習することが上達するために求められる。						

基礎きゅう実技Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	後期	1	30	必須	大網 直人（あはき師）
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるはき師の見地から、きゅう師に必要な基礎知識と基本技術、施術を能力・態度について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 灸師に必要な基礎知識と基本技術を修得し、施術を安全かつ心地よいお灸を確実にできる能力・態度を習得する。当該科目を実践することの重要性や知識、楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 手洗い・消毒法・タオルワーク・危険行為に関する注意点を列挙できる。 ②技能 前期で習得した米粒大の艾炷を自身へ施灸できる。 前期で習得した米粒大の艾炷を他者へ施灸できる（透熱灸・八分灸）。 様々な部位への施灸を透熱灸と八分灸で行えることができる。 一定時間内に決まった数の半米粒大の施灸が行える。竹の上に3点3壮を3分間で18壮以上できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 ガイダンス：対人の注意点【火傷】 第2回 灸熱緩和、対人施灸：足底 第3回 八分灸、対人施灸：下腿前面 第4回 対人施灸②：下腿内面 第5回 対人施灸③：下腿後面 第6回 対人施灸④：腰部 第7回 対人施灸⑤：背部 第8回 MOXASを用いた温度計測2 第9回 対人施灸⑥：下腹部 第10回 対人施灸⑦：腹部 第11回 対人施灸⑧：肩部 第12回 対人施灸⑨：全身 第13回 総合練習 第14回 評価1 第15回 評価2						
11 学習方法 実習						
12 評価方法 ①知識 実技試験を実施し評価する。 ②技能 実技試験を実施し評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 はりきゅう実技基礎編、教科書執筆小委員会（著）、医道の日本社						
14 学生への要望 持ち物：灸道具、教科書、筆記用具、指定のバスタオル ・実技中は無駄な私語は慎み、教員の指示以外の事は事故に繋がる恐れがあるので行わないこと。 ・授業終了5分前に実技室の掃除をすることでクラスで協力して行うこと。 ・基礎的な実技能力を習得するのは授業内での時間では不十分である。授業で得た手技を自宅や放課後に練習することが上達するために求められる。						

応用あん摩マッサージ指圧実技 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要 施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、あん摩の応用手技を教授する。 側臥位を中心に全身のあん摩施術を行う。 時間・リズム・流れを考慮し、一定時間内にスムーズな施術ができるようになる。						
9 到達目標 【一般目標】 ①時間 ②リズム ③流れを考慮し、一定時間内に施術が出来るようになる。 相手や症状に合わせた刺激量や施術の時間配分ができるようになる。 60分で全身施術ができるようになる。 【行動目標】 ①知識 あん摩マッサージ指圧理論や臨床論の授業で学んだことを実技でも生かせる。 ②技能 揉捏を中心とした按摩施術ができる。 ③態度 気持ちを整えて施術にあたる習慣が身につく。						
10 授 業 計 画 第1回 側臥位の施術（肩背部） 第2回 側臥位の施術（頸部・側頭部） 第3回 側臥位の施術（上肢） 第4回 側臥位の施術（肩背部から上肢までを通し復習）実技チェック側臥位の施術（上肢） 第5回 側臥位の施術（腰部） 第6回 側臥位の施術（殿部・下肢1） 第7回 側臥位の施術（殿部・下肢2） 第8回 側臥位の施術（腰部から下肢までを遠い復習）実技チェック 第9回 伏臥位での仕上げ施術（後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで1） 第10回 伏臥位での仕上げ施術（後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで2） 第11回 座位での仕上げ施術伏臥位での仕上げ施術（後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで） 第12回 全身施術 復習1 実技チェック 第13回 全身施術 復習2 実技チェック 第14回 全身施術 復習3 実技チェック 第15回 全身施術 復習4 実技チェック						
11 学習方法 実習（教科書 P125～P130の全身施術を基本とする。1年次と同様に、二人一組のペアで実技練習を行う。間で教員による実技チェックを行う。）						
12 評価方法 ①知識 教員に施術をする実技試験を行う。 ②技能 教員に施術をする実技試験を行う。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 あん摩マッサージ指圧実技 基礎編、教科書執筆小委員会（著）、東洋療法学校協会、医道の日本社						
14 学生への要望 手技は根気よく反復修練すること。また、施術に当たっては集中し気持ちを込めて丁寧に行うこと。 手技療法の最も大きな価値は心地よさを提供できるところにある。さらに手技は洗練されなければならない。それが治療につながってきます。また、3年次でのあん摩マッサージ指圧の臨床実習（外来）に十分対応できるよう、技術の向上に努めること。						

応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ

1	科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
	専門	2年	後期	1	30	必須	複 数
8	授業の概要 施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、あん摩の応用手技を教授する。 側臥位を中心とした全身のあん摩施術を引き続き行う。 時間・リズム・流れを考慮し、一定時間内にスムーズな施術ができるようになる。						
9	到達目標 【一般目標】 ①時間 ②リズム ③流れを考慮し、一定時間内に施術が出来るようになる。 相手や症状に合わせた刺激量や施術の時間配分ができるようになる。 60分で全身施術ができるようになる。 【行動目標】 ①知識 あん摩マッサージ指圧理論や臨床論の授業で学んだことを応用できる。 ②技能 揉捏を中心に基本手技をミックスさせて、心地良さと治療効果も合わせた施術ができる。 ③態度 気持ちを整えて施術にあたる習慣が身につく。 姿勢や言葉遣いに留意し、集中して実技実習を行える。						
10	授 業 計 画 第1回 側臥位のあん摩施術(肩背部) 第2回 側臥位のあん摩施術(頸部・側頭部) 第3回 側臥位のあん摩施術(上肢) 第4回 側臥位のあん摩施術(肩背部から上肢までを通し復習) 第5回 側臥位のあん摩施術(腰部) 第6回 側臥位のあん摩施術(殿部・下肢1回目) 第7回 側臥位のあん摩施術(殿部・下肢2回目) 第8回 側臥位のあん摩施術(腰部から下肢までを通しで復習) 第9回 伏臥位でのあん摩 仕上げ施術(後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで1回目) 第10回 伏臥位でのあん摩 仕上げ施術(後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで2回目) 第11回 座位でのあん摩仕上げ施術(運動法を含む) 第12回 全身あん摩施術 復習1回目 ひとり40分ずつ 第13回 全身あん摩施術 復習2回目 ひとり40分ずつ 第14回 全身あん摩施術 復習1回目 ひとり60分ずつ 実技試験 第15回 全身あん摩施術 復習2回目 ひとり60分ずつ 実技試験						
11	学習方法 実習(教科書 P125～P130の全身施術を基本とする。教員のデモンストレーションのあと、1年次と同様にペアで実技練習を行う。授業の中で数回、教員による実技チェックを行い、あん摩施術を行う時の姿勢と、体・上肢・手の使い方を指導する。)						
12	評価方法 ①知識 実技試験(教員に20分程度のあん摩施術を行う) ②技能 実技試験(教員に20分程度のあん摩施術を行う) ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13	教科書		参考書				
	あん摩マッサージ指圧実技 基礎編、教科書執筆小委員会(著)、東洋療法学校協会、医道の日本社						
14	学生への要望 あん摩は根気よく反復修練すること。また、施術に当たっては集中し気持ちを込めて丁寧に行うこと。 手技療法の最も大きな価値は心地よさを提供できるところにある。さらに手技は洗練されなければならない。 それが治療につながってくる。また、3年次でのあん摩マッサージ指圧の臨床実習(外来)に十分対応できるよう、技術の向上に努めること。						

応用はりきゅう実技 I (身体観察実技)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	襖田 和敏 (はき師)
8 授業の概要 施術所において業務歴のある(あ)はき師の見地から、理学的検査法について教授する。 本実習では、主として頭頸部、上肢部、腰下肢部、四肢関節の理学的検査法を学ぶ。 実習を通してそれらの検査方法の実際を学習することにより、正確で安全な検査を実行できることを目標とする。						
9 到達目標 【一般目標】 理学的検査法など各種検査・評価法について、その目的・意義・方法・判定法を理解し正確で安全な検査法・評価法を実践できる。 【行動目標】 ①知識 理学的検査法など各種検査法・評価法について、その目的・意義・方法・判定法を説明できる。 ②技能 理学的検査法など各種検査法・評価法を自発的に選択し、正確かつ安全に実践することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 頸部の理学的検査法(1) 頸部のROM測定、筋力検査、反射検査、ジャクソンテスト、スパーリングテスト、イートンテスト 第2回 頸部の理学的検査法(2) モーリーテスト、アレンテスト、アドソンテスト、エデンテスト、ライトテスト、ルーステスト、頸部の理学的検査法の復習 第3回 肩と上肢の理学的検査法(1) 肩関節のROM測定、筋力検査、肩甲上腕リズム、ヤーガソンテスト、スピードテスト、ストレッチテスト 第4回 肩と上肢の理学的検査法(2) ペインフルアークサイン、ドロップアームテスト、ダウバーンサイン、インピンジメントテスト、下方引下げテスト 第5回 肩と上肢の理学的検査法(3) 上肢のROM測定、肘の外反・内反ストレステスト、トムゼンテスト、中指伸展テスト、チェアテスト、ミルテスト 第6回 肩と上肢の理学的検査法(4) ファレンテスト、ティネル徴候、フローマン徴候、アイヒホッフテスト 第7回 肩と上肢の理学的検査法の復習 第8回 頸部、肩、上肢の理学的検査法の評価 第9回 腰背部の理学的検査法(1) 腰背部ROM測定、FFD、反射検査 第10回 腰背部の理学的検査法(2) 腰背部の筋力検査、側弯検査、下肢挙上試験、ブラガードテスト、ラセーグテスト、ボンネットテスト 第11回 腰背部の理学的検査法(3) ケンプテスト、大腿神経伸展テスト、ニュートンテスト、ポンプハンドルテスト、トーマステスト、パトリックテスト、ゲンスレンテスト 第12回 下肢関節の理学的検査法(1) 下肢関節のROM測定、筋力検査、下肢アライメント、マックマレーテスト、ステインマンテスト、アプレーテスト 第13回 下肢関節の理学的検査法(2) 膝蓋跳動、膝蓋骨圧迫テスト、外反・内反ストレステスト、前方引き出しテスト・後方押し込みテスト、ラックマンテスト、Nテスト、グラスピングテスト、トレンデルンブルグ徴候 第14回 下肢関節の理学的検査法の復習 第15回 腰背部、下肢関節の理学的検査法の評価						
11 学習方法 実技、講義とデモンストレーションを実施後、ペアで課題の実践を実施する。						
12 評価方法 ①知識 各部位のロールプレイで評価する。 ②技能 各部位のロールプレイで評価する。 ③態度 各部位のロールプレイ、授業に於ける課題への取り組み姿勢と出席状況から評価する。						
13 教科書 「図解 鍼灸療法技術ガイドI」出版社 文光堂 「臨床医学総論」医歯薬出版				参考書 なし		
14 学生への要望 各種検査法・評価法の技能習得には、実践練習が不可欠である。課外でも積極的に練習に励むこと。						

応用はりきゅう実技Ⅱ（経絡経穴刺鍼実技Ⅰ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	芳賀 詩音（あはき師）
8 授業の概要 実務経験のあるはき師より、的確で安全な刺鍼・施灸技能を身につけられるよう指導する。						
9 到達目標 【一般目標】 授業計画に定めた経穴または筋を正確にとらえ、適切なはりきゅう施術を行えるようになる。 【行動目標】 ①知識 指定した経穴の位置を説明できる。 ②技能 指定した方法ではりきゅう施術を体現できる。 ③態度 安心で安全なはりきゅう施術を行うことが習慣化される。 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 頭頸部への刺鍼・施灸（天柱・風池・肩井・肩外俞） 第2回 肩関節への刺鍼・施灸（天宗・秉風・臑俞・肩貞） 第3回 肩関節への刺鍼・施灸（肩髃・肩髃・巨骨・臂臑・臑会） 第4回 肩関節への刺鍼・施灸（肩内陵）、第2,3回の復習 第5回 腰部への刺鍼・施灸（腎俞・大腸俞・命門・腰陽関） 第6回 腰部への刺鍼・施灸（次髎・中殿筋・梨状筋） 第7回 1～6回までの復習 第8回 上肢への刺鍼・施灸（曲池・手三里・外関・合谷） 第9回 下肢への刺鍼・施灸（足三里・三陰交・陰陵泉・陽陵泉） 第10回 下肢への刺鍼・施灸（委中・承筋・太溪・崑崙・湧泉） 第11回 背部への刺鍼（膈俞・肝俞・脾俞） 第12回 背部への施灸（膈俞・肝俞・脾俞） 第13回 これまでに総復習 第14回 評価試験 第15回 評価試験の総評・全身調整穴						
11 学習方法 実習						
12 評価方法 知識 取穴部位について口頭で尋ねる。 技能 実技試験 態度 実技試験						
13 教科書 毎回資料を配布する。 新版経絡経穴概論、教科書執筆小委員会（著）、日本 理療科教員連盟（著）、医道の日本社 図解鍼灸療法技術ガイド 1—鍼灸臨床の場で必ず役立 つ実践のすべて、矢野 忠、文光堂				参考書 参考文献は配布資料にすべて明記しておく。		
14 学生への要望 的確な刺鍼・施灸技能を身につけられるよう、集中して講義に取り組むこと。 安心・安全に配慮し修練をすること。						

応用はりきゅう実技Ⅲ（経絡経穴刺鍼実技Ⅱ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	芳賀 詩音（あはき師）
8 授業の概要 はり師、きゅう師に必要な経穴の取穴と刺鍼に必要な技能の習得に努める。 指導は、施術所において業務歴のあるはき師の見地から教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 授業計画に記した主たる経絡の経穴を正しく取穴し、鍼灸施術ができる。 【行動目標】 ①知識 要穴表の主たる経穴の名称や列挙できる。 ②技能 要穴表主たる経穴を取穴し、適切な鍼灸施術ができる。 ③態度 施術だけでなく、患者誘導やベッドメイキングなどが習慣化される。 体調を管理し、全ての授業に参加できる。						
10 授 業 計 画 第1回 肺経、心包経、心経 取穴・鍼灸施術 第2回 肺経、心包経、心経 取穴・鍼灸施術 第3回 大腸経、三焦経、小腸経 取穴・鍼灸施術 第4回 大腸経、三焦経、小腸経 取穴・鍼灸施術 第5回 前腕 取穴・鍼灸施術 第6回 胃経、胆経、膀胱経 取穴・鍼灸施術 第7回 胃経、胆経、膀胱経 取穴・鍼灸施術 第8回 肝経、腎経、脾経 取穴・鍼灸施術 第9回 肝経、腎経、脾経 取穴・鍼灸施術 第10回 下腿 取穴・鍼灸施術 第11回 背部愈穴 取穴・鍼灸施術 第12回 試験の説明・試験の課題 第13回 試験練習・タイム測定 第14回 試験 第15回 募穴 取穴・鍼灸施術						
11 学習方法 実習（講義）						
12 評価方法 ①知識 定期試験で評価する。 ②技能 定期試験で評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 新版経絡経穴概論、教科書執筆小委員会（著）、日本 理療科教員連盟（著）、医道の日本社						
14 学生への要望 授業の部位ごとの要穴表の取穴を予習しておくこと。デモは必ず確認して実習に取り組むこと。						

応用はりきゅう実技Ⅳ（弁証配穴刺鍼実技）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	大網 直人（あはき師）
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるあはき師の見地から、臨床で良く診る病証の鑑別と弁証配穴の意義と適切な施術方法について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 各病証の病因病機を理解し病証の鑑別が適切にできる。病証に基づいた弁証配穴の意義を理解し適切な配穴と刺鍼手技ができる。 【行動目標】 ①知識 各病証の病因病機を理解し各病証の鑑別のポイントや配穴の意義を説明できる。 ②技能 配穴の意義を理解し刺鍼順や各配穴に対する刺鍼手技を適切に実践できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長する態度を身につける。						
10 授業計画 第1回 肝鬱気滞 ①肝鬱気滞の病証・解説 ②疏肝理気の実技（太衝、内関、三陰交、膈兪、肝兪） ③古方派腹診 第2回 肝火上炎 ①肝火上炎（心肝火旺）の病証・配穴解説 ②清瀉心肝の実技（太衝、内関、神門、完骨、百会） ③古方派腹診 第3回 肝脾不和 ①肝脾不和の病証・配穴解説 ②疏肝健脾の実技（太衝、内関、足三里、中脘、天枢）、胃の六つ灸 ③古方派腹診 第4回 肝陽亢進 肝腎陰虚の病証・配穴解説 ①滋補肝腎の実技（太溪、太衝、三陰交、復溜）②清熱瀉火（完骨、百会） 第5回 肝血虚 ①肝血虚の病証・配穴解説（肩凝りや眼精疲労を想定した配穴） ②補益肝血の実技（太衝、三陰交、合谷、光明、攢竹、魚腰） ③視力測定 第6回 心腎不交 ①心腎不交の病証・配穴解説（不眠症を想定した配穴） ②滋補腎陰・清心瀉火の実技（太溪、太衝、三陰交、神門、安眠、百会） 第7回 心脾両虚 ①心脾両虚の病証・配穴解説（うつ傾向を想定した配穴） ②補益心脾の実技（足三里、中脘、神門、氣海、百会） 第8回 脾胃虚弱（脾陽虚） 灸法：①米粒大（灸点紙を用いて透熱灸）、 ②灸実技 米粒大（足三里、中脘、天枢）、糸状灸、灸頭鍼の練習 第9回 脾腎陽虚 ①脾腎陽虚の病証・配穴解説（冷えによる腰痛を想定した配穴） ②温補脾腎の灸実技（足三里、中脘、氣海、太溪、腎兪、命門）氣海は灸頭鍼 第10回 温補活血 ①骨盤内の温補（関元 or 氣海に灸頭鍼、太溪） ②骨盤内の活血（三陰交、血海、中条流子孕の灸点、中膠の捻転瀉法） 第11回 肺脾気虚 ①肺脾気虚の病証・配穴解説（鼻汁・鼻閉を想定した配穴） ②補益肺脾の実技（足三里、迎香、鼻痛、印堂、上星、合谷） 第12回 疏通経絡 ①疏通経絡の基礎 { 肩こり 腰痛 } の疏通経絡 第13回 評価試験対策 課題病証の実技練習（1） 第14回 評価試験対策 課題病証の実技練習（2） 第15回 評 価						
11 学習方法 実習（病証・配穴・施術方法の解説後にペアで課題を実践する。）						
12 評価方法 ①知識 定期試験で評価する。 ②技能 定期試験で評価する。 ③態度 実技試験の評価、授業に於ける課題への取り組み姿勢と出席状況から評価する。						
13 教科書 配布資料			参考書			
14 学生への要望 適切な治療方針を確立する上で弁証配穴の理解は重要である。病証の理解と配穴の意義について深く学んで欲しい。正確な取穴と適切な刺鍼手技を習得し、経穴を効くものではなく、効かせることができる技能を習得して欲しい。						

応用はりきゅう実技Ⅴ（伝統鍼灸実技）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	堤野 孟（はき師）
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるあはき師の見地から、鍼灸臨床で必要な東洋医学的観察法について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸臨床で必要な東洋医学的観察法を理解し、実践できる。 【行動目標】 ①知識 舌診・腹診・脈診・切経・経穴診についての基礎知識を持ち、説明できる。 ②技能 舌診・腹診・脈診・切経・経穴診を実践できる。施鍼・施灸スキルの獲得。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加し、積極的に学べるようになる。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は報告・連絡することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 鍼通電、片手挿管、3点3壮（半米粒大） 第2回 経穴診1 経脈病証、背部俞穴・募穴 取穴法、触り方、観察すべき反応（陥下、圧痛、硬結、寒熱、膨隆、発汗） 第3回 経穴診2 経筋病証 取穴法、診断方法、観察すべき経穴の反応（圧痛、硬結） 第4回 顔面部の触り方 眼・頬・口まわりの経穴の触知と観察 第5回 四診総論 舌診 舌質・舌形・舌苔の観察 舌質・舌形：淡白舌、淡紅舌、紅舌、絳舌、紫舌、老、嫩、胖大、瘦薄、裂紋、齒根、点刺、光滑 舌苔 : 白苔、黄苔、黒苔、薄厚、少、剥落、潤滑燥、膩腐 第6回 腹診 難経系腹診・傷寒論系腹診と腹部の触り方 臓腑配当、腹診の立ち位置、触り方 第7回 ロールプレイ（舌診・腹診） できるだけ多くのクラスメイトを観察 第8回 脈診1 脈の取り方、脈診の姿勢、手の当て方、寸関尺の位置、浮中沈の位置、脈状診（六祖脈診を中心に） 第9回 脈診2 六部定位比較脈診 第10回 ロールプレイ（脈診＋舌診・腹診） できるだけ多くのクラスメイトを観察 第11回 ロールプレイ（脈診＋舌診・腹診） できるだけ多くのクラスメイトを観察 第12回 電子温灸器、ピコリナ 第13回 証立て：医療面接・舌診・腹診・脈診を総合的に分析 第14回 治療方法：証立てから施術までの流れ 第15回 試験						
11 学習方法 実習						
12 評価方法 ①知識 試験にて評価する。 ②技能 試験にて評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 『新版 東洋医学概論』 『新版 経絡経穴概論』				参考書 『やさしい鍼を打つための本』 『誰でもできる経筋治療』 必要に応じて適宜参考プリントを配布する。		
14 学生への要望 東洋医学的観察には技術練習が必須となるため限られた時間の中での修得は困難が予想されるが、積極的に実技に取り組み、可能な限り上達してほしい。						

客観的臨床能力評価（OSCE）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期集中	1	30	必須	大綱ら（あはき師）
8 授業の概要 3年次に実施されるベッドサイド臨床実習に求められる基礎能力を確認する。						
9 到達目標 【一般目標】 安心で安全な臨床実習に必要な知識・技能・態度習慣を身につける。 【行動目標】 ①知識 医療面接の目的と重要性を説明できる。 鍼灸臨床に必要な徒手検査の目的と意義を説明できる。 ②技能 安心で安全な鍼灸操作を実演できる。 医療面接に求められる手法を身に付け、ラポールを構築することができる。 主たる徒手検査を実践できる。 ③態度 医療者としてふさわしい態度を身につける。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション・医療面接概要 第2回 医療面接1 第3回 医療面接2 第4回 医療面接3 第5回 医療面接4 第6回 経穴取穴 第7回 徒手検査 第8回 鍼灸実技1 第9回 鍼灸実技2 第10回 鍼灸実技3 第11回 鍼灸実技4 第12回 まとめ（復習） 第13回 まとめ（復習） 第14回 評価 第15回 評価						
11 学習方法 実習						
12 評価方法 ①知識 OSCEで評価する。 ②技能 OSCEで評価する。 ③態度 OSCEで評価する。						
13 教科書				参考書		
授業開始前に実施要項を配布する。						
14 学生への要望						

実践はりきゅう実技 I (美容鍼灸実技)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	杉本 良子 (はき師)
8 授業の概要 施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、「美容を目的とした鍼灸」の手技を教授する。その対象は顔面部のみならず全身の多岐にわたる。全体治療をベースとし、クライアントとのふれあい、コミュニケーションを大事にした美容鍼灸を習得する。						
9 到達目標 【一般目標】 下記の3つの目標を達成する。 【行動目標】 ①知識 鍼灸師に必要な美容皮膚学、肌診断、カウンセリング、リスク管理について説明できる。 ②技能 取穴と刺鍼方向、角度を正確に行える。 美容経穴の刺鍼20本は5分以内に行える。 解剖と経絡経穴を理解した上で、身体各部位と頭部・顔面部の刺鍼をスムーズに行える。 最初から最後まで丁寧な施術が行える。 ③態度 相手に対する思いやりを持てる。						
10 授 業 計 画 第1回 講義：美容鍼とは・カンペールの顔面角・顔のゴールデンプロポーション・顔のチェックポイントと実技の手順について 実技：体のバランスチェックと足三里の鍼 第2回 実技：第1回の復習＋頸肩ストレッチとマッサージ 第3回 実技：第2回までの復習＋合谷の鍼 第4回 講義：皮膚の生理作用・ターンオーバー・老化要因・肌分析 実技：第3回までの復習 第5回 実技：美容基本経穴の刺鍼1 第6回 実技：美容基本経穴の刺鍼2 第7回 講義：ニキビ・シミ 実技：症状別治療1 第8回 講義：シワ たるみ 実技：症状別治療2 第9回 講義：クマ 実技：症状別治療3 第10回 講義：生理周期と肌 実技：症状別治療4 第11回 講義：美容鍼灸カウンセリングの目的 実技：症状別治療5 第12回 実技：問診から治療まで1 第13回 実技：問診から治療まで2 第14回 実技：問診から治療まで3 第15回 評価・まとめ						
11 学習方法 実習（講義の後、実技を行います。手技、鍼が粗暴にならないよう特に気をつけましょう。）						
12 評価方法 ①知識 定期試験で評価する。 ②技能 定期試験で評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 配布資料				参考書 なし		
14 学生への要望 ひとつひとつの手技と鍼を丁寧に確実に行うこと。手に癖があってはいけない。 顔色、表情、それぞれのパーツの小さな変化にも気がつくように。 全身治療と美容鍼はセットのため、症状にあわせた全体治療をいつも考えて施術を行うよう心掛けること。						

実践はりきゅう実技Ⅱ（鍼灸総合実技）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	堤野 孟（はき師）
8 授業の概要 鍼灸施術に関する知識・技能について教授する。臨床での応用力を身につけ、実社会での対応力を身につける。						
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸施術についての認識を深め、様々なケースに対応できる治療技術と知識を習得する。 【行動目標】 ①知識 鍼灸施術に必要な知識について説明できる。 臨床でよく出会う疾患について説明できる。 ②技能 臨床でよく出会う疾患に対する臨床技術が身につく。 ③態度 医療者としてふさわしい態度を身につける。						
10 授 業 計 画 第1回 上半身のROM検査、MMT、各種徒手検査 第2回 体位変換 など 第3回 下半身のROM検査、MMT、各種徒手検査 第4回 全身のROM検査、MMT、各種徒手検査 第5回 スポーツトレーナー① 第6回 在宅鍼灸マッサージ① 第7回 在宅鍼灸マッサージ② 第8回 在宅鍼灸マッサージ③ 第9回 在宅鍼灸マッサージ④ 第10回 学内総合実技試験対策① 第11回 学内総合実技試験対策② 第12回 鍼灸の総合的施術（問診から鍼灸施術まで） 第13回 学内総合実技試験対策③ 第14回 学内総合実技試験対策④ 第15回 スポーツトレーナー②						
11 学習方法 実習（冒頭に講義を行い、実技に移る。）						
12 評価方法 ①知識 定期試験で評価する。 ②技能 定期試験で評価する。 ③態度 出席状況、学習に対する姿勢、各種届出内容で評価する。						
13 教科書 参考書						
14 学生への要望 復習をしっかり行うことで、技術を確実に身につけるよう努めるとともに、授業を通じて鍼灸施術をする上で必要な知識と技術を深め、臨床での応用力を高めてほしい。						

実践はりきゅう実技Ⅲ（実践鍼灸実技Ⅰ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	米永 繁樹（あはき師）
8 授業の概要 腰痛・坐骨神経痛・膝関節疾患・頸上肢痛・五十肩など、あはき臨床でよく遭遇する疾患・症候・症状に対する施術技能について、施術所において業務歴のある教員より直接技能指導を行う。						
9 到達目標 【一般目標】 腰痛・坐骨神経痛・膝関節疾患・頸上肢痛・五十肩への鍼灸治療法の習得、それら疾患で発生する末梢神経絞扼障害発生の仕組みや鍼灸処置法の習得を目指す。 【行動目標】 ①知識 腕神経叢・橈骨神経・正中神経・尺骨神経・肩甲骨神経・肩甲上神経・腋窩神経・大腿神経（伏在神経）・外側大腿神経・坐骨神経の走行（絞扼されやすい場所）と働き（支配筋・支配知覚）を理解する。 絞扼部位の筋肉・骨・神経・血管の位置関係などがイメージできるようになる。 絞扼障害により想定される関連痛が予測できるようになる。 ②技能 患者に負担の少ない鍼・灸の運用の習得。 ③態度 新たな技術の習得に前向きに取り組む。						
10 授 業 計 画 第1回 腰痛・坐骨神経痛の治療と下肢の絞扼障害（知覚異常性大腿痛）の鍼灸治療 第2回 腰痛・坐骨神経痛の治療と下肢の絞扼障害（梨状筋症候群）の鍼灸治療 第3回 腰痛・坐骨神経痛の治療と下肢の絞扼障害（伏在神経絞扼障害）の鍼灸治療 第4回 腰痛・坐骨神経痛の治療と下肢の絞扼障害（総腓骨神経絞扼障害）の鍼灸治療 第5回 腰痛・坐骨神経痛の治療と下肢の絞扼障害（第1回～4回のまとめ）の鍼灸治療 第6回 頸上肢・五十肩の治療と肩の末梢神経絞扼障害（肩甲骨神経絞扼障害）の鍼灸治療 第7回 頸上肢・五十肩の治療と肩の末梢神経絞扼障害（肩甲上神経絞扼障害）の鍼灸治療 第8回 頸上肢・五十肩の治療と肩の末梢神経絞扼障害（四辺形間隙症候群）の鍼灸治療 第9回 頸上肢・五十肩の治療と肩の末梢神経絞扼障害（胸郭出口症候群）の鍼灸治療 第10回 頸上肢・五十肩の治療と肘部での正中神経絞扼障害（回内筋症候群・前骨間神経症候群）の鍼灸治療 第11回 頸上肢・五十肩の治療と肘部での尺骨神経絞扼障害（尺側手根屈筋オズボーン靭帯部）の鍼灸治療 第12回 頸上肢・五十肩の治療と肘部での橈骨神経絞扼障害（後骨間神経症候群）の鍼灸治療 第13回 膝関節疾患の治療（大腿神経痛・伏在神経絞扼障害）の鍼灸治療 第14回 実技試験・筆記試験 第15回 膝関節疾患の治療の鍼灸治療						
11 学習方法 実習：配布資料を基に実習を行う						
12 評価方法 ①知識 実技試験中に質問等 ②技能 実技試験にて鍼と灸の実技評価 ③態度 実技授業中の態度等も評価						
13 教科書 配布資料				参考書 最新 鍼灸治療学 上下巻 木下晴都著 鍼灸臨床 問診・診療ハンドブック 出端昭男著 しびれと痛み 末梢神経絞扼障害 廣谷速人著 ペインクリニック 神経ブロック法 若林文吉監修		
14 学生への要望 新たな知識と技術の習得に前向きに取り組んでほしい。						

実践はりきゅう実技Ⅳ（レディース鍼灸実技）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	後期	1	30	必須	新開 弘枝（はき師）
8 授業の概要 女性特有の婦人科疾患に対する理解を深めると同時に、鍼や灸を通じて諸症状に悩む患者様に対応できる素養について、業務歴のある鍼灸師より教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識として筋の知識を習得する。東洋医学と西洋医学の特色を十分に理解し、現代医学と鍼灸医学の両面から患者を把握し、適切で有効的な鍼灸治療が行える能力と実技ができることを目的とする。 【行動目標】 ①知識 女性特有の婦人科疾患の概要と、鍼灸施術の方法を説明できる。 ②技能 ①正確なツボが取れる ②指示された方法で鍼、灸ができる。 ③態度 体調管理に留意する。今までの実技実習を振り返り、今一度技術の習得に取り組む。相手に対して思いやりを持つ。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション・レディース鍼灸で出来ること 多様する経穴の刺鍼実技 第2回 女性の解剖学と生理学・女性ホルモン・男性ホルモン 第3回 月経の異状（周期・持続日数・出血量など） 第4回 月経の異状①経早 第5回 月経の異状②経乱 第6回 月経の異状③経遅・無月経 *灸透鍼 第7回 月経前困難症・診察の要点・治療法 *灸透鍼 第8回 更年期障害・診察の要点・治療法（女性・男性） 第9回 てい鍼を使用した治療 第10回 妊娠悪阻・診察の要点・治療法 第11回 他 女性疾患に関連する腰痛、頭痛、めまい、不定愁訴 第12回 長野式 自立神経の調整でメンタルケア 第13回 不妊症（女性）基礎体温を読む *綿花灸 第14回 男性不妊 第15回 逆子（骨盤位）						
11 学習方法 講義および実技						
12 評価方法 ①知識 ②技能 授業内評価とし、評価を60点以上を合格とする ③態度						
13 教科書 教科書 東洋医学臨床論 経絡経穴概論			参考書 鍼灸学（臨床編） レディース鍼灸			
14 学生への要望 ・女性に多い症状や女性が悩む症状について男女ともに理解を深める。 ・患者目線で治療を行える。 ・東洋医学と西洋医学の特色を十分に理解し、現代医学と鍼灸医学の両面から患者を把握し、適切で有効的な鍼灸治療が行える能力と実技ができる。						

実践はりきゅう実技Ⅴ（実践鍼灸実技Ⅳ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門	3 学年	前期	1	30	必須	沓名 勇典（はき師）
8 授業の概要 施術所において業務歴のある鍼灸師の見地から、臨床に応用できる知識や技能の向上について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 下記の行動目標を達成する。 【行動目標】 ①知識 刺入深度や刺激の目的が説明できる。 ②技能 各部位へ適切な刺鍼や手技ができる。 ③態度 体調管理に留意する。今までの実技実習を振り返り、今一度技術の習得に取り組む。相手に対して思いやりを持つ。						
10 授 業 計 画 第1回 指定した経穴への刺鍼 第2回 頸部・肩背部への刺鍼 第3回 頸部・肩背部の応用 第4回 肩背部への刺鍼の復習 第5回 頭部への刺鍼 第6回 横刺、頭部への刺鍼の復習 第7回 腰部・殿部への刺鍼1 第8回 腰部・殿部への刺鍼2 第9回 接触鍼や小児鍼、散鍼など、軽微な刺激の練習 第10回 腹診・背診からの刺鍼1 第11回 腹診・背診からの刺鍼2 第12回 遠隔治療の紹介 第13回 全身調整1 一部実技試験の実施 第14回 全身調整2 一部実技試験の実施 第15回 一部実技試験の実施、試験の評価、まとめ						
11 学習方法 実技						
12 評価方法 ①知識 実技試験にて評価する。 ②技能 実技試験にて評価する。 ③態度 実技授業中の態度なども評価する。						
13 教科書 参考書 配布資料 図解鍼灸療法技術ガイド ほか						
14 学生への要望 実技を通して、自分が将来必要とする知識や技術に対する目標をより明確に意識できるようになって欲しい。						

臨床実習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	通年	1	45	必須	大綱ら（あはき師）
8 授業の概要 あはき施術所における業務歴、養成施設における教育歴がある教員らによって導入（初年次）教育を展開する。						
9 到達目標 【一般目標】 患者様と接するための基本的態度を身に付けるため、体験実習、ワークショップなどの手法を用いて、医療人としてふさわしい態度・習慣を養う。 【行動目標】 ①知識 見学実習を通じて、あはき業務の概要を知る。 ②技能 BLS 操作に必要な技能を身につける。 観察内容や自身の考えをまとめ記述・発表することができる。 傾聴・受容・承認といったカウンセリング技能を実演できる。 ③態度 ワークショップを通じ、社会人としてふさわしいマナーが身に付く。 体調管理に留意し、全ての授業に参加できる。（万一欠席あるいは遅刻する際には報告や連絡、相談ができる。） 教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長する態度を身につける。						
10 授 業 計 画 第1回 ガイダンス（1時間） 第2回 ワークショップ1（3時間） 第3回 ワークショップ2（5時間） 第4回 ワークショップ3（3時間） 第5回 ワークショップ4（3時間） 第6回 カンファレンス聴講（3時間） 第7回 学外施術所体験報告会（3時間） 第8回 救急基礎（4時間） 第9～18回 治療体験（22時間） ※順不同						
11 学習方法 臨床実習						
12 評価方法 ①知識 全ての授業に参加することで評価を有効とする。 ②技能 提出ノート、プレゼン内容、BLS 実技評価 ③態度 提出ノート、プレゼン内容						
13 教科書 臨床実習ノート				参考書		
14 学生への要望 詳細は実習ノートに記す。						

臨床実習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	通年	1	45	必須	大綱ら（あはき師）
8 授業の概要 あはき施術所における業務歴、あはき師養成施設における教育歴がある教員らによって最終学年を前に臨床前教育を展開する。						
9 到達目標 【一般目標】 臨床現場に積極的に関わることで最終学年時のベッドサイド実習が円滑に進めるよう準備する。 多様化するあはき師の活躍フィールドを知り、将来の方向性を考える。 【行動目標】 ①知識 臨床実習を通して、スポーツ・医療・介護各現場の特性や病態、リスク管理、多職種連携に関する実践的知識を統合的に理解する。 これまでに学んだ基礎医学・東洋医学知識を現場でどう活かすかを理解する。 ②技能 問診・評価・施術・報告連絡などの基本的臨床技能を修得し、現場で活用できる判断力と実践力を養う。対象者の状態に応じた施術計画立案の思考過程、現場での適切なコミュニケーション技術など補助・参加を通して臨床判断力の基礎を養う。 補助・参加を通して臨床判断力の基礎を養う。 ③態度 臨床家として必要な姿勢・倫理観を養う。 医療倫理を遵守する責任感、自己の課題を振り返り、学び続ける姿勢などを育み、技術だけでなく、信頼される医療人としての人格形成を目指す。						
10 授 業 計 画 第1回 ガイダンス・オリエンテーション (2時間) 第2,3回 スポーツ現場実習 (8時間) 第4回 医療機関等実習（医療機関） (4時間) 第5回 医療機関等実習（介護） (4時間) 第6回 施術所運営体験 (4時間) 第7～11回 前期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 (10時間) 第12～16回 後期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 (10時間) 第17回 カンファレンス参加 (3時間) ※順不同 ※実習先の受け入れ状況により実習の内訳を変更する場合がある。						
11 学習方法 臨床実習						
12 評価方法 ①知識 提出ノート ②技能 提出ノート ③態度 全ての授業に参加することで評価を有効とする。						
13 教科書 参考書 臨床実習ノート						
14 学生への要望 詳細は実習ノートに記す。 ※授業の順序は実際と異なることがある。						

臨床実習Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員												
専門	3年	通年	1	45	必須	大綱ら（あはき師）												
8 授業の概要 附属鍼灸治療院及び学外施術所にて指導者の管理下に置いて臨床実習を実施する。																		
9 到達目標 【一般目標】 あはき師が備えるべき素養として、下記の3つの目標を達成する。 【行動目標】 ①知識 臨床の場において、現代医学および東洋医学の診断法の意義理解し、説明することができる。 ②技能 臨床に関する知識と基本的な技術を習得し、安心安全なはり、きゅう、あん摩マッサージ指圧施術ができる。 ③態度 患者の症状を客観的に評価し、施術計画を立て、適切に記録することができる。 医療に従事する者として、果たすべき役割を理解し、責任ある行動がとれる能力を養う。 はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧師として、望ましい患者（家族）－医療者関係を築き、健康状態に関する情報を的確に収集する能力を身につける。																		
10 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">ガイドランス（2時間）</td> <td style="width: 40%;">4月</td> </tr> <tr> <td>ロールプレー（2時間）</td> <td>4月</td> </tr> <tr> <td>学外施術所実習（16時間）</td> <td>6～9月</td> </tr> <tr> <td>施術所運営（6時間）</td> <td>7月</td> </tr> <tr> <td>カンファレンス（9時間）</td> <td>9月</td> </tr> <tr> <td>附属臨床施設実習（10時間）</td> <td>4～5月</td> </tr> </table> ※実習内容は鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科で施術内容が一部異なる。							ガイドランス（2時間）	4月	ロールプレー（2時間）	4月	学外施術所実習（16時間）	6～9月	施術所運営（6時間）	7月	カンファレンス（9時間）	9月	附属臨床施設実習（10時間）	4～5月
ガイドランス（2時間）	4月																	
ロールプレー（2時間）	4月																	
学外施術所実習（16時間）	6～9月																	
施術所運営（6時間）	7月																	
カンファレンス（9時間）	9月																	
附属臨床施設実習（10時間）	4～5月																	
11 学習方法 実習																		
12 評価方法 ①知識 所定の評価表を用いて評価。秀・優・良・可・不可で評価する。 ②技能 所定の評価表を用いて評価。秀・優・良・可・不可で評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。																		
13 教科書 臨床実習ノート 参考書																		
14 学生への要望 詳細は臨床実習ノートに記す。 実習スケジュールはグループや実習先によって異なるため、スケジュール管理に注意すること。																		

臨床実習Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	通年	1	45	必須	大綱ら（あはき師）
8 授業の概要 附属鍼灸治療院及び学外施術所にて指導者の管理下に置いて臨床実習を実施する。						
9 到達目標 【一般目標】 あはき師が備えるべき素養として、下記の3つの目標を達成する。 【行動目標】 ①知識 臨床の場において、現代医学および東洋医学の診断法の意義理解し、説明することができる。 ②技能 臨床に関する知識と基本的な技術を習得し、安心安全なはり、きゅう、あん摩マッサージ指圧施術ができる。 ③態度 患者の症状を客観的に評価し、施術計画を立て、適切に記録することができる。 医療に従事する者として、果たすべき役割を理解し、責任ある行動がとれる能力を養う。 はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧師として、望ましい患者（家族）－医療者関係を築き、健康状態に関する情報を的確に収集する能力を身につける。						
10 授 業 計 画 附属臨床施設実習（44時間） 5月～12月 総合実技審査（1時間） 11月 ※実習内容は鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科で施術内容が一部異なる。						
11 学習方法 実習						
12 評価方法 ①知識 所定の評価表を用いて評価。秀・優・良・可・不可で評価する。 ②技能 所定の評価表を用いて評価。秀・優・良・可・不可で評価する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 臨床実習ノート						
14 学生への要望 詳細は臨床実習ノートに記す。 実習スケジュールはグループや実習先によって異なるため、スケジュール管理に注意すること。						

東洋医療総合演習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1年	後期集中	1	30	必須	芳賀・園ら
8 授業の概要 この講義は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を目指す諸君が1年次の学習を通じ、それぞれの学年で修得すべき国家試験合格に必要な学力を修得したかを確認するものである。1年次で履修する授業科目について、下記授業計画に基づき、オムニバス形式で実施する。						
9 到達目標 【一般目標】 1年時に履修した学習単元について理解を深める。 【行動目標】 ①知識 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答する力を養う。 ②技能 自分の理解度を正確に分析し、分かりやすいツールを作成することができる。 ③態度 理解している知識を応用し、具体的に問題を解決する習慣を身につける。						
10 授 業 計 画 第1回 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ（解剖学Ⅰ・Ⅱ） 第2回 人体の構造と機能Ⅲ（解剖学Ⅲ） 第3回 人体の構造と機能Ⅳ（解剖学Ⅳ） 第4回 人体の構造と機能Ⅴ（解剖学Ⅴ） 第5回 人体の構造と機能Ⅵ（生理学Ⅰ） 第6回 人体の構造と機能Ⅶ（生理学Ⅱ） 第7回 人体の構造と機能Ⅷ（生理学Ⅲ） 第8回 人体の構造と機能Ⅸ（生理学Ⅳ） 第9回 人体の構造と機能Ⅹ（生理学Ⅴ） 第10回 はりきゅう理論Ⅰ 第11回 経絡経穴概論Ⅰ 第12回 経絡経穴概論Ⅱ 第13回 東洋医学概論Ⅰ 第14回 東洋医学概論Ⅱ 第15回 評価						
11 学習方法 演習						
12 評価方法 ①知識 タクソノミーⅠ型の四肢択一問題で評価する。(5割程度) ②技能 タクソノミーⅡ型の四肢択一問題で評価する。(3割程度) ③態度 タクソノミーⅢ型の四肢択一問題で評価する。(2割程度)						
13 教科書				参考書 各科目の教科書		
14 学生への要望 1年間の総復習で各科目の理解度を深めること。必ず予習・復習をし演習に取り組むこと。						

東洋医療総合演習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期集中	1	30	必須	大網・中島ら
8 授業の概要 この講義は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師を目指す諸君が2年次の学習を通じ、それぞれの学年で修得すべき国家試験合格に必要な学力を修得したかを確認するものである。2年次で履修する授業科目について、下記授業計画に基づき、オムニバス形式で実施する。						
9 到達目標 【一般目標】 2年次に履修した学習単元について理解を深める。 【行動目標】 ①知識 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答する力を養う。 ②技能 自分の理解度を正確に分析し、分かりやすいツールを作成することができる。 ③態度 理解している知識を応用し、具体的に問題を解決する習慣を身につける。						
10 授 業 計 画 第1回 人体の構造と機能Ⅺ(局所解剖学) 第2回 病理学概論Ⅰ・Ⅱ 第3回 臨床医学総論Ⅰ 第4回 臨床医学総論Ⅱ 第5回 生体観察 第6回 臨床医学各論Ⅰ・Ⅱ 第7回 病態生理学Ⅰ・Ⅱ 第8回 経絡経穴概論Ⅲ 第9回 東洋医学概論Ⅲ 第10回 東洋医学概論Ⅳ 第11回 東洋医学臨床論Ⅰ 第12回 東洋医学臨床論Ⅱ 第13回 はりきゅうの適応Ⅰ 第14回 はりきゅうの適応Ⅱ 第15回 評価						
11 学習方法 演習						
12 評価方法 ①知識 タクソノミーⅠ型の四肢択一問題で評価する。(5割程度) ②技能 タクソノミーⅡ型の四肢択一問題で評価する。(3割程度) ③態度 タクソノミーⅢ型の四肢択一問題で評価する。(2割程度)						
13 教科書 参考書						
14 学生への要望 1年間の総復習のための授業です。2年次に学習したことをしっかりと見直し、3年次の学習の基礎としていきましょう。						

東洋医療総合演習Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	久保 昌紀
8 授業の概要 3年課程の学科試験の総復習を行う。本授業では主に、解剖学・生理学・病理学概論、臨床医学総論・各論について演習を行う。						
9 到達目標 【一般目標】 国家試験に合格できる学力を養う。 【行動目標】 ①知識 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答する力を養う。 ②技能 自分の理解度を正確に分析し、分かりやすいツールを作成することができる。 ③態度 理解している知識を応用し、具体的に問題を解決する習慣を身につける。						
10 授 業 計 画 第1回 人体の構造と機能 1 第2回 人体の構造と機能 2 第3回 人体の構造と機能 3 第4回 人体の構造と機能 4 第5回 人体の構造と機能 5 第6回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 1 第7回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 2 第8回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 3 第9回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 4 第10回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 5 第11回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 1 第12回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 2 第13回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 3 第14回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 4 第15回 演習（5月） ※順不同						
11 学習方法 演習（事前学習、講義）						
12 評価方法 ①知識 タクソノミーⅠ型の四肢択一問題で評価する。（5割程度） ②技能 タクソノミーⅡ型の四肢択一問題で評価する。（3割程度） ③態度 タクソノミーⅢ型の四肢択一問題で評価する。（2割程度）						
13 教科書				参考書		
14 学生への要望 各科目の教科書にしっかり目を通し国家試験合格に向け積極的に取り組むこと。						

東洋医療総合演習Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	後期	1	30	必須	久保 昌紀
8 授業の概要 この講義は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を目指す諸君が3年間の学習を通じ、それぞれの学年で修得すべき国家試験合格に必要な学力を修得したかを確認するものである。各学年で履修する授業科目について、コマの下記授業計画に基づき、オムニバス形式で実施する。						
9 到達目標 【一般目標】 これまで学んだ学習した内容について、科目の域を超え、総合的な視点で問題解答できる力を養う。 【行動目標】 ①知識 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答する力を養う。 ②技能 自分の理解度を正確に分析し、分かりやすいツールを作成することができる。 ③態度 理解している知識を応用し、具体的に問題を解決する習慣を身につける。						
10 授 業 計 画 第1回 人体の構造と機能 1 第2回 人体の構造と機能 2 第3回 人体の構造と機能 3 第4回 人体の構造と機能 4 第5回 人体の構造と機能 5 第6回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 1 第7回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 2 第8回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 3 第9回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 4 第10回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 5 第11回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 1 第12回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 2 第13回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 3 第14回 演習 (6月) 第15回 演習 (7月) ※順不同						
11 学習方法 演習 (事前学習、講義)						
12 評価方法 ①知識 タクソノミーⅠ型の四肢択一問題で評価する。(5割程度) ②技能 タクソノミーⅡ型の四肢択一問題で評価する。(3割程度) ③態度 タクソノミーⅢ型の四肢択一問題で評価する。(2割程度)						
13 教科書				参考書		
14 学生への要望 各科目の教科書にしっかり目を通し国家試験合格に向け積極的に取り組むこと。						

東洋医療総合演習 V

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	後期	1	30	必須	襖田 和敏
8 授業の概要 この講義は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師を目指す諸君が3年間の学習を通じ、それぞれの学年で修得すべき国家試験合格に必要な学力を修得したかを確認するものである。各学年で履修する授業科目について、コマの下記授業計画に基づき、オムニバス形式で実施する。						
9 到達目標 【一般目標】 これまで学んだ学習した内容について、科目の域を超え、総合的な視点で問題解答できる力を養う。 【行動目標】 ①知識 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答する力を養う。 ②技能 自分の理解度を正確に分析し、分かりやすいツールを作成することができる。 ③態度 理解している知識を応用し、具体的に問題を解決する習慣を身につける。						
10 授 業 計 画 第1回 人体の構造と機能 1 第2回 人体の構造と機能 2 第3回 人体の構造と機能 3 第4回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 1 第5回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 2 第6回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 3 第7回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゆう学 1 第8回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゆう学 2 第9回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゆう学 3 第10回 演習 (10月) 第11回 演習 (10月) 第12回 演習 (11月) 第13回 演習 (11月) 第14回 演習 (12月) 第15回 演習 (12月)						
11 学習方法 演習 (事前学習、講義)						
12 評価方法 ①知識 四肢択一問題 (タクソノミーⅠ型) で評価する。(総合学力審査で評価する。) ②技能 四肢択一問題 (タクソノミーⅡ型) で評価する。(総合学力審査で評価する。) ③態度 四肢択一問題 (タクソノミーⅢ型) で評価する。(総合学力審査で評価する。)						
13 教科書				参考書 各科目の教科書		
14 学生への要望 各科目の教科書にしっかり目を通し国家試験合格に向け積極的に取り組むこと。						

臨床手技

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	後期	1	30	必須	大饗 将司（あはき師）
8 授業の概要 頸肩腕部・腰部の傷み・症状の改善には、原因と考えられる機能障害（上位・下位交差性症候群）について理解し、適正な評価・施術・運動療法を行う必要がある。その為に能的評価法(SFMA)の活用方法、トリガーポイントに対するアプローチ理論・方法・運動療法を施術所において業務歴のあるあはき師の見地から教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 頸肩腕部・腰部の症状・痛みの問題と考えられる、機能障害や組織伸張機能不全（トリガーポイント）を機能的評価方法（SFMA）を用いて探しだし、それらの問題に対して手技（マッサージ・刺鍼）・運動療法を行える事を目標とする。 【行動目標】 ①知識 機能評価法（SFMA）について説明できる。 ②技能 トリガーポイントに対して適切な手順でアプローチ（触察・刺鍼）することができる。 ③態度 施術方法・評価方法について患者に正しく説明することができる。						
10 授 業 計 画 第1回 トリガーポイント理論・基礎・実技(骨指標(ランドマーク)触察) 第2回 トリガーポイント実技(触察・刺鍼=棘下筋・多裂筋) 第3回 上位交差性症候群・下位交差性症候群の概要 第4回 機能評価方法について(SFMAのトップティア・ブレイクアウト) 第5回 頸肩腕部に対する機能的評価1 第6回 頸肩腕部に対するトリガーポイントアプローチ1（僧帽筋・肩甲挙筋） 第7回 頸肩腕部に対する機能的評価2・運動指導 第8回 頸肩腕部に対するトリガーポイントアプローチ2（後頭下筋群・三角筋・大小胸筋） 第9回 体幹部に対する機能的評価1 第10回 腰部に対するトリガーポイントアプローチ1（多裂筋・腰方形筋） 第11回 体幹部に対する機能的評価②・運動指導 第12回 腰部に対するトリガーポイントアプローチ2（大腿筋膜張筋・大殿筋・中殿筋） 第13回 呼吸の機能評価 第14回 呼吸に対するアプローチ 第15回 実技テスト						
11 学習方法 実習（冒頭に講義を行い、実技デモンストレーション、実践・練習を行う。2回目以降は前回の復習から始める。）						
12 評価方法 ①知識 指定した部位に対して的確な機能的評価方法を選択できるかを評価する。 ②技能 指定した筋肉のトリガーポイントに対して的確な手順でアプローチを行えるかを評価する。 ③態度 授業の出欠、質問内容、実技の取り組む態度を評価する。						
13 教科書 配布資料				参考書 「ムーブメント」「骨格筋の形と触察法」 「ヤンダーアプローチマッスルインバランスに対する評価と治療」		
14 学生への要望 評価・触察・刺鍼の技術向上するために、時間のある限り繰り返し練習を行うこと。実技中、受け手の生徒は施術側にフィードバックを必ずおこなうこと。また授業中で疑問に思うこと、感じたことがあれば遠慮なく質問するように。						

実践あん摩マッサージ指圧実技 I (実践オイルマッサージ)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	大麻 陽子 (あはき師)
8 授業の概要 施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、マッサージの応用手技を教授する。 オイルマッサージの手技を習得し、保健・医療・スポーツ・美容の分野で応用できるようにする。						
9 到達目標 【一般目標】 専門的知識と技術、手技の選択、施術時間や力度を常に考えて行うことができる。 クライアントが安心してマッサージを受けられるような環境を整える。 【行動目標】 ①知識 オイルマッサージの効能や施術部位に応じた手技を理解する。 ②技能 全身のオイルマッサージができる。 ③態度 自分の気持ちを整えて施術にあたることができる。 姿勢に気を付け、体全体を使い重心移動とリズムに気を付けてマッサージを習慣が身につく。 姿勢や言葉遣いに留意し、集中して実技実習を行える。						
10 授 業 計 画 第1回 オイルマッサージの理論とマッサージオイルの基礎知識について 基本手技のデモンストレーション 第2回 下肢後側のオイルマッサージ 第3回 前操作と下肢後側のオイルマッサージ (ひとり40分ずつ復習) 第4回 腰背部・頸部・肩上部のオイルマッサージ 第5回 前操作と腰背部・頸部・肩上部のオイルマッサージ (ひとり40分ずつ復習) 第6回 下肢前側のオイルマッサージ 第7回 前操作と下肢前側のオイルマッサージ (ひとり40分ずつ復習) 第8回 上肢のオイルマッサージ 第9回 前操作と上肢のオイルマッサージ (ひとり40分ずつ復習) 第10回 腹部のオイルマッサージ 第11回 胸部・頸部のオイルマッサー+CS17+CS26 第12回 下肢と腰背部を中心に前腕部を使った手技の練習 第13回 全身のオイルマッサージ (ひとりずつ 前操作から最後まで) まとめ 第14回 全身のオイルマッサージ (ひとりずつ 前操作から最後まで) まとめ 第15回 フェイシャルマッサージ						
11 学習方法 実習 (教員のデモンストレーションのあと、学生同士で練習する。)						
12 評価方法 ①知識 実技試験を実施する。 ②技能 実技試験を実施する。 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 配布資料			参考書 なし			
14 学生への要望 現代の医療を補うものとして「温もりある手の技術」が見直されている。一人ひとりの患者や利用者は皆違い、同じ病名や疾患名であっても、それを受け止める精神状態も置かれている立場も様々で十人十色のニーズを持つ。その一人ひとりの状態や体型に合わせて施行できるのが人間の手である。あたたかい心が伝わるような手技を、そして、手を当てて効果を確かめ、全体の「仕事」を責任もって仕上げること。 バスタオル2枚、タオル1枚、短パン等準備のこと。						

実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	大綱ら（あはき師）
8 授業の概要 あん摩・マッサージ・指圧のこれまでに修得した理論および手技を踏襲しつつ、それらを臨床現場で活用できる実践力へと発展させることを目的とし、オムニバス形式で実施する。						
9 到達目標 【一般目標】 相手や症状に合わせた刺激量や施術の時間配分ができるようになる、基礎と臨床を結びつける実践的思考力と技能を育成する。 【行動目標】 ①知識 施術部位や症状に応じた手技を理解する。 ②技能 あん摩・マッサージ・指圧の基本手技を、目的に応じて適切に選択し、正確に実施できる。 ③態度 患者の訴えに真摯に耳を傾け、尊重と思いやりをもって対応しようとする姿勢を示す。						
10 授 業 計 画 第1回 伏臥位の施術(上半身) 第2回 伏臥位の施術(上半身) 第3回 伏臥位の施術(下半身) 第4回 伏臥位の施術(下半身) 第5回 下半身の評価・施術 第6回 下半身の評価・施術 第7回 伏臥位の施術(復習) 第8回 その他の施術 第9回 交流授業 第10回 側臥位のあん摩施術 第11回 側臥位のあん摩施術 第12回 指圧・マッサージ 第13回 まとめ・復習 第14回 実技試験 第15回 実技試験						
11 学習方法 あまし師教員によりオムニバス形式にて行う。教員による実技デモンストレーション、実践・練習の順で行う。						
12 評価方法 ①知識 実技試験 ②技能 実技試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 参考書 あん摩マッサージ指圧実技 基礎編、教科書執筆小委員会(著)、東洋療法学校協会、医道の日本社						
14 学生への要望 これまでに修得した理論および手技を土台に、臨床で活用できる実践力を養うことを目的とする。そのため、単に手技を行うのではなく、「なぜこの手技を選択するのか」「刺激量や時間配分は適切であったか」といった根拠を常に意識しながら取り組むこと。						

実践はりきゅう実技Ⅵ（実践鍼灸実技Ⅱ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担 当 教 員
専門	3年	後期	1	30	必須	堤野 孟（はき師）
8 授業の概要 施術所・医療機関において実務経験のあるはり師・きゅう師の見地から、特殊鍼灸技能について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 1つの治療法にこだわらず、疾患や患者さんの体質、精神性に応じた刺激・治療法を自ら選択できる柔軟性を身につける。また、1年・2年で学習した経絡経穴の部位およびその現代医学的意義をふまえ、その中でも主に経絡治療を中心とした取穴を完全にマスターできるようにする。それらを応用し臨床に結びつける能力を養うことを目標とする。 【行動目標】 ①知識 以下に学習する鍼灸特殊療法の概要、理論を説明できる。 選穴の意義を理論立てて説明できる。 ②技能 これまで履修した基本技術に加え、授業計画で示した鍼灸施術を実演できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣が身につく。 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣が身につく。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度が身につく。						
10 授 業 計 画 第1回 経絡治療 鍼療デモンストレーション 第2回 臨床での基礎知識について、難経六十九難・基本配穴の選穴部位の取穴・刺鍼法① 第3回 臨床での基礎知識について、難経六十九難・基本配穴の選穴部位の取穴・刺鍼法② 第4回 模擬患者での証立て、施術① 第5回 模擬患者での証立て、施術② 第6回 模擬患者での証立て、施術③ 第7回 模擬患者での証立て、施術④ 第8回 模擬患者での証立て、施術⑤ 第9回 模擬患者での証立て、施術⑥ 第10回 模擬患者での証立て、施術⑦ 第11回 模擬患者での証立て、施術⑧ 第12回 模擬患者での証立て、施術⑨ 第13回 模擬患者での証立て、施術⑩ 第14回 まとめ 第15回 評価						
11 学習方法 実習（講義）						
12 評価方法 ①知識 症例に対する筆記により評価する。 ②技能 実技試験 ③態度 出席状況、各種届出内容を考慮することがある。						
13 教科書 新版 東洋医学概論、東洋療法学校協会（著）、教科書 検討小委員会（著）、医道の日本社				参考書 適宜紹介する		
14 学生への要望						

実践鍼灸実技Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	後期	1	30	必須	松浦 浩市（あはき師）
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師が現在、臨床で用いられている主要な鍼施術法を施術所において業務歴のある、あはき師の見地から教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 ①各種の鍼法を紹介しそれを実際に体験すること。 ②卒業後に臨床の場面で直面するであろう様々な「試練」を克服するための基礎知識、技術提供を図る。 ③担当教員の全日本鍼灸学会認定鍼灸師、日本刺絡学会認定鍼灸師であること、30年を超える臨床経験から確かな施術方法の実施と事故のない安全・適法な術技を体験し技能習得を習慣づける。 【行動目標】 ①知識 鍼灸施術による生体の変化、生理作用を説明できる。 ②技能 正確に経穴に対し刺鍼できる。 生体変化を触診にて確認できる。 ③態度 受療者に対し、冷静に対応することができる。 向上心を持つことができる。 安全・適法な術技を習慣化する。						
10 授 業 計 画 第1回 的確に経穴を取穴 第2回 毫鍼刺鍼術 第3回 刺鍼練習の実際（腰部から下肢の主な治療について） 第4階 刺鍼練習の実際（肩から上肢、胸部の施術について） 第5回 刺鍼練習の実際（頸部、顔面部、擦過鍼を含む） 第6回 リンパ疎通法（基礎知識） 第7回 リンパ疎通法（実技） 第8回 刺絡鍼法（基礎と実技） 第9回 頭皮針 第10回 特殊鍼法（手根足根鍼・手鍼法） 第11回 小児鍼法 第12回 復習および実技試験 第13回 スポーツ障害に対する鍼治療法1 第14回 スポーツ障害に対する鍼治療法2 第15回 各種症状に対する施術の流れ						
11 学習方法 実習（講義）						
12 評価方法 ①知識 小テスト、レポートにて評価する。 ②技能 実技試験にて評価する。 ③態度 授業態度や取り組み具合を評価する。						
13 教科書 配布資料				参考書 「刺絡鍼法」「手根鍼法」「リンパドレナージュの基礎知識」 「鍼灸学」（刊々堂出版）		
14 学生への要望 積極的にディスカッションし、授業に参加すること。						

スポーツ鍼灸実技

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期 or 後期	1	30	必須	中曽根 徹 (はき師)
8 授業の概要 現在の鍼灸臨床においてはスポーツ傷害への対応が必要不可欠となっている。 本実技では施術所において業務歴のあるはき師の見地から、スポーツ傷害の評価法・治療・トレーニング・テーピングなど総合的な知識と技術の習得について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 ①スポーツ傷害の評価法を習得する。 ②骨、筋、腱、靭帯等の正確な部位を理解する。 ③骨、筋、腱、靭帯等の触診法を習得する。 ④さまざまなサイズの鍼を使い分け、なおかつ正確な刺鍼技術を習得する。 【行動目標】 ①知識 スポーツ傷害の正確な診断・評価について想起→解決→問題解決できる。 ②技能 スポーツ鍼灸技術の模倣→コントロール→自動化できる。 ③態度 日常臨床における受入れ→反応→内面化ができる。						
10 授 業 計 画 第1回 スポーツ傷害の基礎及び医療面接について 第2回 頸部 (頸椎椎間板ヘルニア、頸椎捻挫) 第3回 肩関節後面 (腱板炎、インピンジメント症候群、肩峰下滑液包炎) 第4回 肩関節前面 (上腕二頭筋腱炎、リトルリーグ肩) 第5回 肘関節 (野球肘、テニス肘) 第6回 手関節 (狭窄性腱鞘炎) 第7回 背部・腰部 (筋・筋膜性腰痛、腰椎捻挫) 第8回 腰部 (腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離・すべり症) 第9回 股関節 (骨盤部筋牽引における骨障害、梨状筋症候群) 第10回 膝関節前面 (オスグッド病、シンディング・ラーセン・ジョンソン症候群、ジャンパー —膝) 膝関節外側 (外側側副靭帯損傷、腸脛靭帯炎) 第11回 膝関節内側 (内側側副靭帯損傷、鷲足炎) 第12回 膝関節後面 (後十字靭帯損傷、半月板損傷、ペーカ一腫、タナ障害)・大腿部 第13回 フォローアップ 第14回 下腿部 (シン・スプリント、疲労骨折、アキレス腱炎) 第15回 足部・足関節 (足関節捻挫、足底筋膜炎)						
11 学習方法 実習						
12 評価方法 ①知識 授業内容 (機能解剖の理解、傷害の理解、診断の為の評価法の理解) + フォローアップを総合的に評価 ②技能 授業内容 (テーマに沿った正確な刺鍼) + フォローアップを総合的に評価 ③態度 出席状況や授業内容 (実技に対する取り組み方) + フォローアップを総合的に評価						
13 教科書 「スポーツ傷害臨床マニュアル」			参考書			
14 学生への要望 本授業は刺鍼技術の習得及び運動器系疾患の治療に対する基礎知識の習得を目指す。講義前の予習を十分に行い、テーマ部位の傷害の内容や機能解剖の確認を行う。						

はりきゅう基礎研究

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	後期	1	30	必須	襖田 和敏
8 授業の概要 はり師、きゅう師として必要な、臨床の現場で得られた結果を元にした論理的思考力や問題解決能力を習得する。						
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸刺激が人体の生理機能に与える影響を客観的パラメーターの変化にて観察できることを目標とする。 【行動目標】 ①知識 得られた結果を元に、科学的に解明できていない部分も多い鍼灸刺激の影響を考察できる。 ②技能 課題や演習の内容を正しく理解し実施できる。 得られた結果をプレゼンし他者とシェアすることができる。 ③態度 与えられた課題や演習を元に、グループ内での役割分担を明確にし、協力して実習を遂行できる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション（班分けや日程、評価等注意事項の説明） 第2回 課題① 低周波鍼通電（LFEA）が二点識別閾値に及ぼす影響 第3回 同上 第4回 課題②-1 鍼灸刺激が視力に及ぼす影響：耳ツボ刺激（マグレイン円錐粒） 第5回 同上 第6回 課題②-2 鍼灸刺激が視力に及ぼす影響：眼球周囲の刺鍼 第7回 同上 第8回 課題②-3 鍼灸刺激が視力に及ぼす影響：眼球周囲の施灸（電気温灸、温灸、竹箱灸他） 第9回 同上 第10回 課題③ 施灸が皮膚温・皮膚血流に与える影響 第11回 同上 第12回 課題②-4 視力を向上させるためには（各班任意の鍼灸刺激） 第13回 同上 第14回 発表会 第15回 同上						
11 学習方法 実習						
12 評価方法 ①知識 レポート提出や発表会での質疑応答にて評価する。 ②技能 課題や演習の内容を正しく理解し実施できているかにて評価する。 ③態度 出席率や授業態度にて評価する。（実習のため極めて重視した評価を行う。）						
13 教科書 参考書						
14 学生への要望 <u>グループ実習であるため原則的に欠席は認められず、実習態度の不良の者は出席と認めない。</u> 留意のこと。 また、グループ単位の実習となるため（評価も原則としてグループ単位）、役割分担を明確にしながらか積極的に実習に参加すること。						

徒手療法 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	前期	1	30	必須	園 浩輔
8 授業の概要 施術所において業務歴のある「はり師」「きゅう師」「柔道整復師」の見地から、触れることの意義について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 手技・機能訓練を通じて患者への触れ方を学び、治療家としての手をつくり、治療技術の向上につなげる。 【行動目標】 ①知識 基礎的な手技・機能訓練（関節可動域の拡大）の特徴を説明することができる。 ②技能 相手への声かけ、痛みを出さない様に適切な力で施術を行うことができる。 「凝り」や「張り」に関心を持ち、鍼灸治療に反映させることができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。						
10 授 業 計 画 第1回 基本手技（軽擦法・押圧法）の紹介と練習 体幹部（伏臥位にて行う） 第2回 基本手技（押圧法）の練習① 体幹部・上肢（伏臥位にて行う） 第3回 基本手技（押圧法）の練習② 下肢（伏臥位・側臥位にて行う） 第4回 基本手技（押圧法）の練習③ 頸部・背部・下肢（仰臥位にて行う） 第5回 基本手技（押圧法）の練習④ 頸部・背部・上肢（座位にて行う） 第6回 総合演習① 基本手技の復習 I 第7回 総合演習② 基本手技の復習 II 第8回 機能訓練（関節可動域の拡大）の紹介と練習 肩関節 第9回 機能訓練（関節可動域の拡大）の練習① 肘関節・手関節・指関節 第10回 機能訓練（関節可動域の拡大）の練習② 椎間関節・股関節 第11回 機能訓練（関節可動域の拡大）の練習③ 膝関節・足関節 第12回 総合演習③ 機能訓練（関節可動域の拡大）の復習 第13回 総合演習④ 手技療法・機能訓練を組み合わせた施術を実施。 第14回 手技療法のロールプレイと評価 これまで実施した手技療法・機能訓練を一連の流れの中で実施する。 第15回 総まとめ						
11 学習方法 実技						
12 評価方法 ①知識 ②技能 実技試験にて評価する。 ③態度 出席にて評価する。						
13 教科書 なし				参考書 なし		
14 学生への要望 まずは相手を気遣い不快に感じないように触れること。 触れることで得られる情報は多岐にわたるため、何となくではなく常に意識を持つよう心がけて欲しい。						

徒手療法Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2年	後期	1	30	必須	園 浩輔
8 授業の概要 施術所において業務歴のある「はり師」「きゅう師」「柔道整復師」の見地から、徒手療法医学Ⅰで学習した内容を踏まえ、臨床上遭遇しやすい病態(頸肩凝り・腰痛・膝関節痛)に手技で対応できるようにする。						
9 到達目標 【一般目標】 徒手療法医学Ⅰで学習した内容を踏まえ、病態に合わせた手技療法・機能訓練(関節可動域の拡大)を適圧で行うことができるようにする。 【行動目標】 ①知識 臨床上遭遇しやすい病態(頸肩凝り・腰痛・膝関節痛)について説明することができる。 ②技能 基礎的な手技・機能訓練を用い、 ・臨床上遭遇しやすい病態に対する治療展開できるようになる。 ・圧痛や硬結等の確認をすることによる客観的評価を得ることができる。 ・各人に合わせた効果的な手技療法が出来るようになる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。						
10 授 業 計 画 第1回 頸肩凝りの手技療法① 基本手技を用いて頸・肩・背部・上肢まわりを「伏臥位」にて施術 第2回 頸肩凝りの手技療法② 基本手技を用いて頸・肩・背部・上肢まわりを「仰臥位」にて施術 第3回 頸肩凝りの手技療法③ 時間を区切り練習する。 第4回 頸肩凝りの手技療法④ 時間を区切り練習する。 第5回 腰痛の手技療法① 基本手技を用いて背中・腰・臀部・下肢まわりを「仰臥位・伏臥位」にて施術。 第6回 腰痛の手技療法② 基本手技を用いて背中・腰・臀部・下肢まわりを「側臥位」にて施術。 第7回 腰痛の手技療法③ 時間を区切り練習する。 第8回 腰痛の手技療法④ 時間を区切り練習する。 第9回 膝関節痛の手技療法① 基本手技を用いて腹部・下肢まわりを「伏臥位」にて施術。 第10回 膝関節痛の手技療法② 基本手技を用いて腹部・下肢まわりを「仰臥位」にて施術。 第11回 膝関節痛の手技療法③ 時間を区切り練習する。 第12回 総合演習① 第13回 総合演習② 第14回 部位別の手技療法のロールプレイと評価 これまで実施した各部位・各体位での手技療法を一連の流れの中で実施する。 第15回 総まとめ						
11 学習方法 実技						
12 評価方法 ①知識 ②技能 実技試験にて評価する。 ③態度 出席で評価する。						
13 教科書 なし				参考書 なし		
14 学生への要望 相手に合わせた適圧で触れられるように意識すること。 また、卒業後すぐに手技療法・機能訓練に対応できるように本授業に臨んで欲しい。						

運動療法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3年	前期	1	30	必須	楠本 真也（あはき師）
8 授業の概要 はりきゅう施術所において実務経験のあるあはき師の見地から機能解剖学に基づく運動療法について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 各個人の習慣による体の構造や機能の変化を理解し、あはき師に必要な素養を身につける。 【行動目標】 ①知識 身体観察から得た情報を分析することができる。 ②技能 相手の身体に合わせて安全に適切な運動療法を展開できる。 ③態度 全ての授業に参加し、真摯に学ぶことができる。						
10 授 業 計 画						
第1回 ガイダンス 姿勢・身体機能評価など						
第2回 伏臥位における全身の関節運動・ストレッチ 伏臥位における背腰部・下肢の関節運動・ストレッチ						
第3回 仰臥位における下半身関節運動・ストレッチ 仰臥位における腰部、臀部、下肢のストレッチ						
第4回 仰臥位における上半身関節運動・ストレッチ 仰臥位における頸部、前胸部、上肢のストレッチ（頸部・上肢の手技療法含む）						
第5回 側臥位における全身の関節運動・ストレッチ 側臥位における上肢・背腰部の関節運動・ストレッチ						
第6回 側臥位における全身の関節運動・ストレッチ 側臥位における下肢の関節運動・ストレッチ						
第7回 総合演習① 体質に合わせて全体位の関節運動・ストレッチを一連の流れで行う。						
第8回 総合演習② 時期に合わせた全体位の関節運動・ストレッチを一連の流れで行う。						
第9回 肩関節の運動能力を高める運動① 肩関節周囲炎の関節運動・ストレッチ						
第10回 肩関節の運動能力を高める運動② 肩関節周囲炎の関節運動・ストレッチ・セルフケア他						
第11回 股関節の運動能力を高める運動 変形性股関節症の関節運動・ストレッチ						
第12回 頸肩凝りの改善を図る施術 頸肩部に対する関節運動・ストレッチ						
第13回 総合演習③ 病態による運動療法の練習						
第14回 運動療法のロールプレイと評価 一連の運動療法の流れを実施する。またセルフストレッチ・運動法を学習する。						
第15回 まとめ						
11 学習方法 実習						
12 評価方法 ①技能 実技試験 ②態度 出席状況、各種届出内容（レポート）を考慮することがある。						
13 教科書 配布資料あり。 参考書						
14 学生への要望 相手の身体に合わせて・病態に合わせて運動療法の提供ができるように授業内で繰り返し練習し、身に付ける。身体を診る感覚も養うように集中して受講すること。						

四国医療専門学校 鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科

〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1 電話 0877-41-2310

ファックス 0877-41-2312